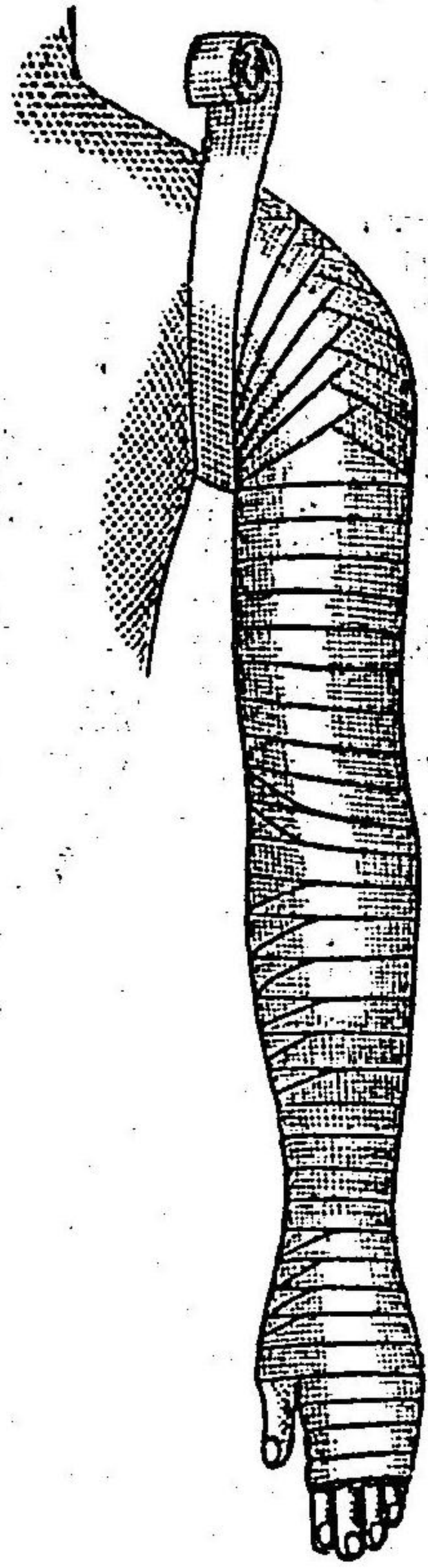
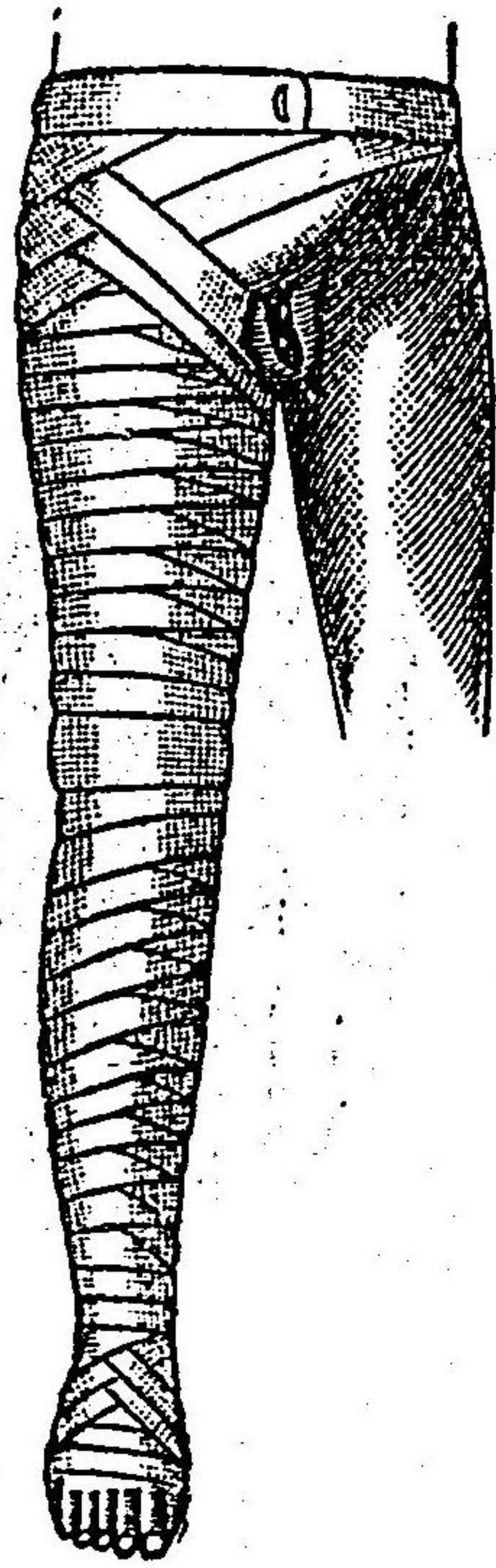


圖十三百第



圖一十三百第



三ニ足ノ外縁ヨリ足背ヲ斜ニ内髁ニ達シ横ニ外髁ニ至リ斜ニ足背ヲ下リテ足ノ内縁ニ達シ横ニ足趾ヲ通過シテ足ノ外縁ニ至ルコト反覆○後下腿ノ環行ニテ完結ス○又腫部ニ被テ三ハ(ロ)ノ如クス其他ハ圖ヲ熟覽シテ自得スベシ

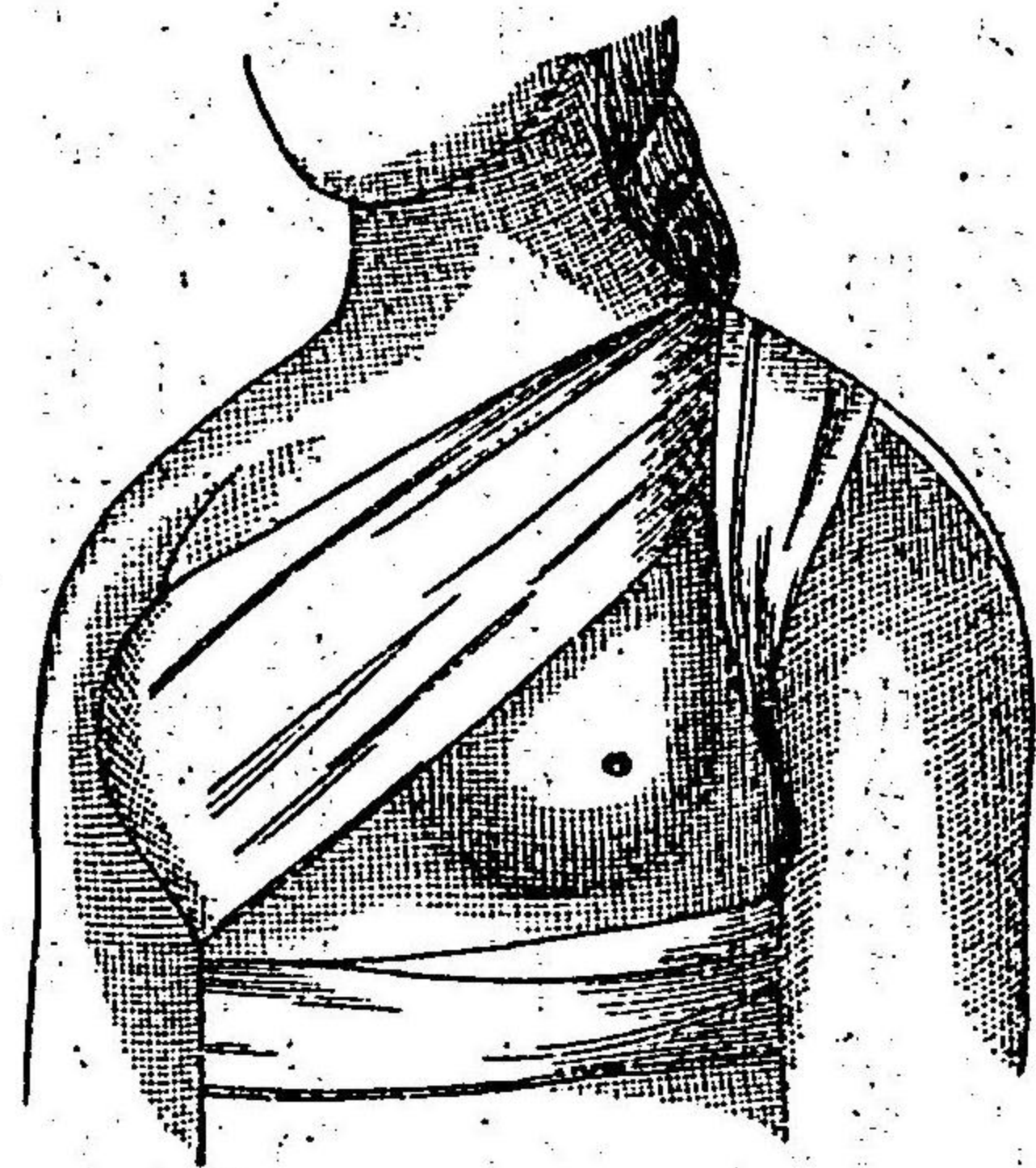
○乳房ノ卷軸帶

(十一)單提乳帶 (第百三十二圖)乳房ノ下方ニ環行○次ニ斜ニ乳房ノ下縁ヲ被ヒテ他側ノ肩ニ至リ腋窩ニ入り之レヲ出デ、肩ニ歸リ背ヲ經テ乳房ニ復歸スルコトヲ反覆ス但シ始メハ乳房ノ下縁次ハ上縁次ハ下最後ニ乳房ヲ纏絡ス  
(十二)復提乳帶 單提乳帶ヲ各側ニ行フベシ

○(乙)縹帶巾或ハ縹帕

縹帶巾ヲ作ル法 四角巾ハ金巾ヲ探リ方形ニ裁チテ製ス○大三角巾ハ四角巾ヲ斜メニ二分シタルモノ、小三角巾ハ更ニ之レヲ二分シタルモノナリ而シテ三角巾ハ左右ノ兩縁及ビ尖頂、下縁即チ基底ト尖尾即チ基

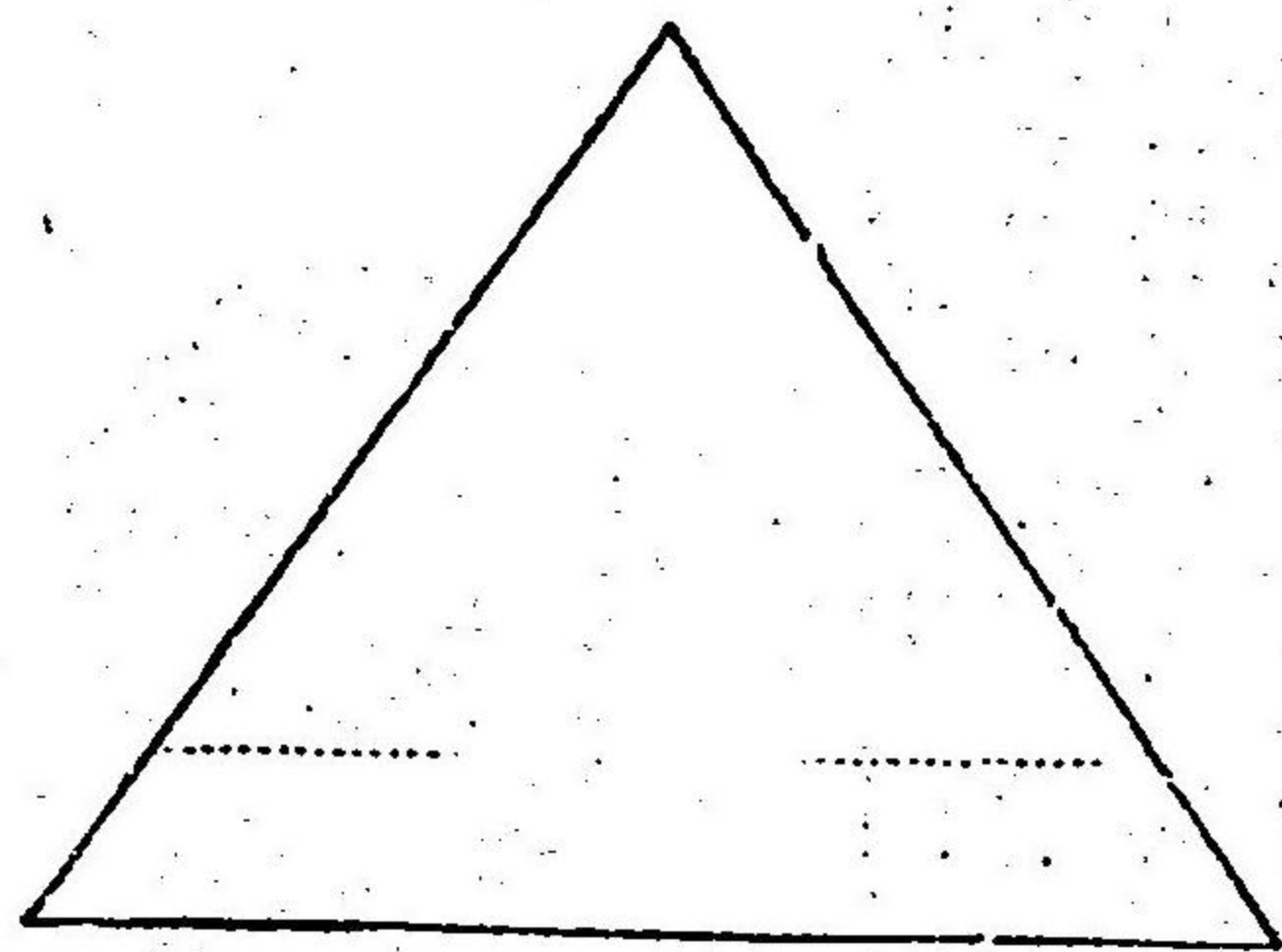
第百卅二圖



單提乳帶

底ト縁ノ相接スル點ヲ有ス(第百三十三圖)○頸巾狀帶トハ三角巾ヲ其  
 尖頂ヨリ基底ニ向ヒ數回反折シテ巾ニ三寸トナシタルモノヲ云フ○重  
 複三角帶ハ第百三十三圖ノ點線ニ沿フテ一部ヲ切りタルモノヲ云フ  
 三角巾ヲ疊ム法ハ基底ノ兩端即チ兩尖尾ヲ相重テ小三角形トナシ○次

第百三十三圖



第百三十四圖



小頭帽

ニ此小三角形ノ兩尖尾ヲ各其尖頂ニ向テ反折シ四角形トナス○次ニ右  
 ノ方形ヲ兩ツニ折リテ長方形トナシテ○次ニ此長方形ヲ更ニ二折シテ  
 再タビ四角形トナシ○此四角形ヲ二ツニ折リテ長方形トナシ安全針ニ  
 テ縫ヒ止ムベシ

(一)小頭巾 (第百二十四圖)又小頭帕ト稱ス三角巾ノ下縁ノ中央ヲ前額ニ當テ尖頂ヲ頂ニ垂レ其尖尾ヲ耳上ヲ經テ後頭ニ送り左右相交又シ前額ニ至ラシメテ之ヲ結合ス○其尖頂ハ上方ニ翻轉シ頭上ニ於テ安全針ニテ固定ス

圖五十三百第



大頭巾

(二)大頭巾 (第百二十五圖)又大頭帕ハ重複三角巾ヲ採リ其底ノ中央ヲ前額ニ當テ尖頂ヲ頂ニ垂レ兩尖尾ヲ耳上ヲ經テ後頭ニ送り相交又シテ之ヲ前額ニ於テ結合ス○側方ニ驅垂セル兩端ヲ願下ニテ結ブ○次ニ尖頂ヲ翻轉シ頭上ニ安全針ヲ以テ固定スベシ

(三)提顎帶 (第百二十六圖)提顎帶投石帶又下顎帶ト稱ス重複三角巾ヲ

採リ其上部三角形ノ部ヲ反折シテ頸巾狀トナシ其中央ヲ願下ニ當テ兩端ヲ頭上ニ於テ結ブ○次ニ殘リノ兩端ハ之ヲ頂部ニ送り交叉セシメ前方頭上ニ結合ス

圖六十三百第



提顎帶

(四)四角頭巾 (第百二十七圖)ハ又四角頭帕ト稱ス四角巾ヲ折リテ二葉トナシ分葉ハ下葉ヨリ狭キコト約十仙迷トナシ之ヲ頭上ニ載セ下葉ノ前縁ヲ鼻縁上ニ上葉ノ前縁ヲ眉上ニ當テ○次ニ上葉ノ兩尖端ヲ願下ニ於テ結ビ○次ニ下葉ノ前縁ヲ翻轉シテ其兩端ヲ後方ニ牽引シテ後部ニ於テ結フヘシ

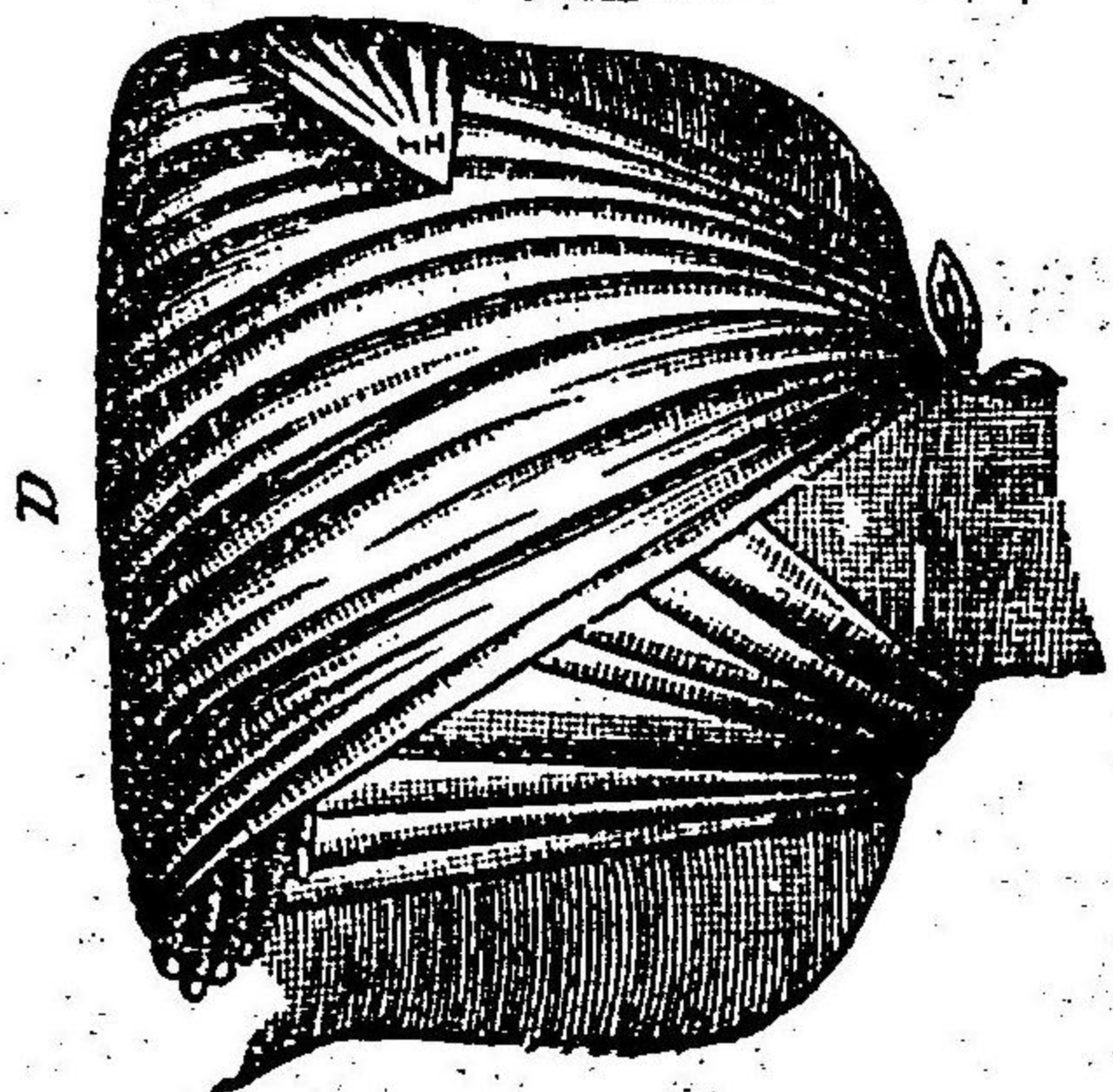
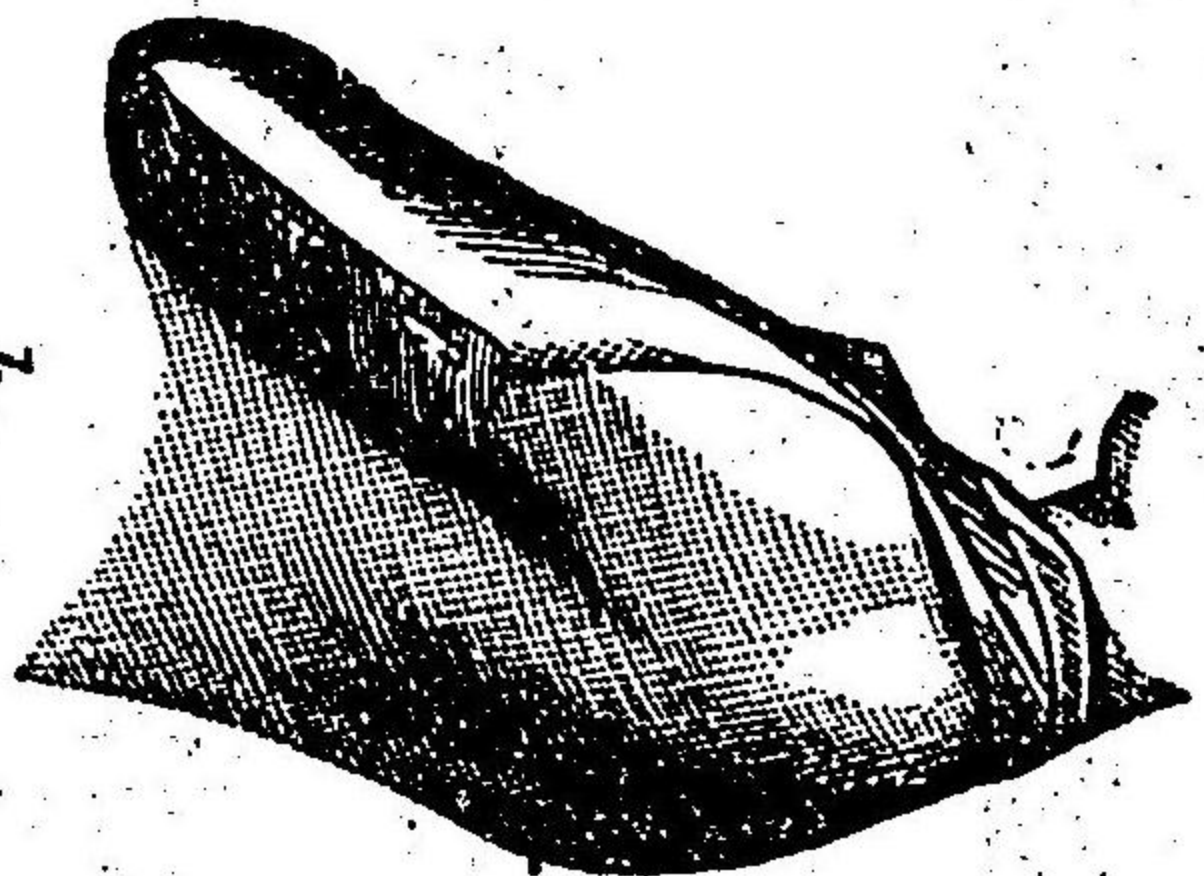
圖七十三百第



(五) 擔布 (第百二十八圖) ハ一尖尾ヲ探リテ健側ノ肩上ヲ越エテ部背ニ垂レシメ○他ノ尖尾ヲ胸前ニ垂レ患側ノ肘關節ヲ直角ニ屈曲シ前膊ヲ三角巾ノ中央ニ當テ尖頂ヲ背後ニ餘スコト一寸五六分○故ニ前面ニ垂レタル尖尾ヲ患側ノ肩ニ送り○次ニ背部ニ垂レタル尖尾ト肩上ニテ結合ス○次ニ尖頂ヲ前方ニ翻轉シ安全針ヲ以テ固定ス

其他三角巾ハ頸巾狀帶トナシテ諸種ノ卷軸帶ニ代用シ又反折スルコトナクシテ諸種ノ復帶ニ應用スルコト次ノ圖ニ就テ見ル可シ

圖八十三第



圖三十四百第

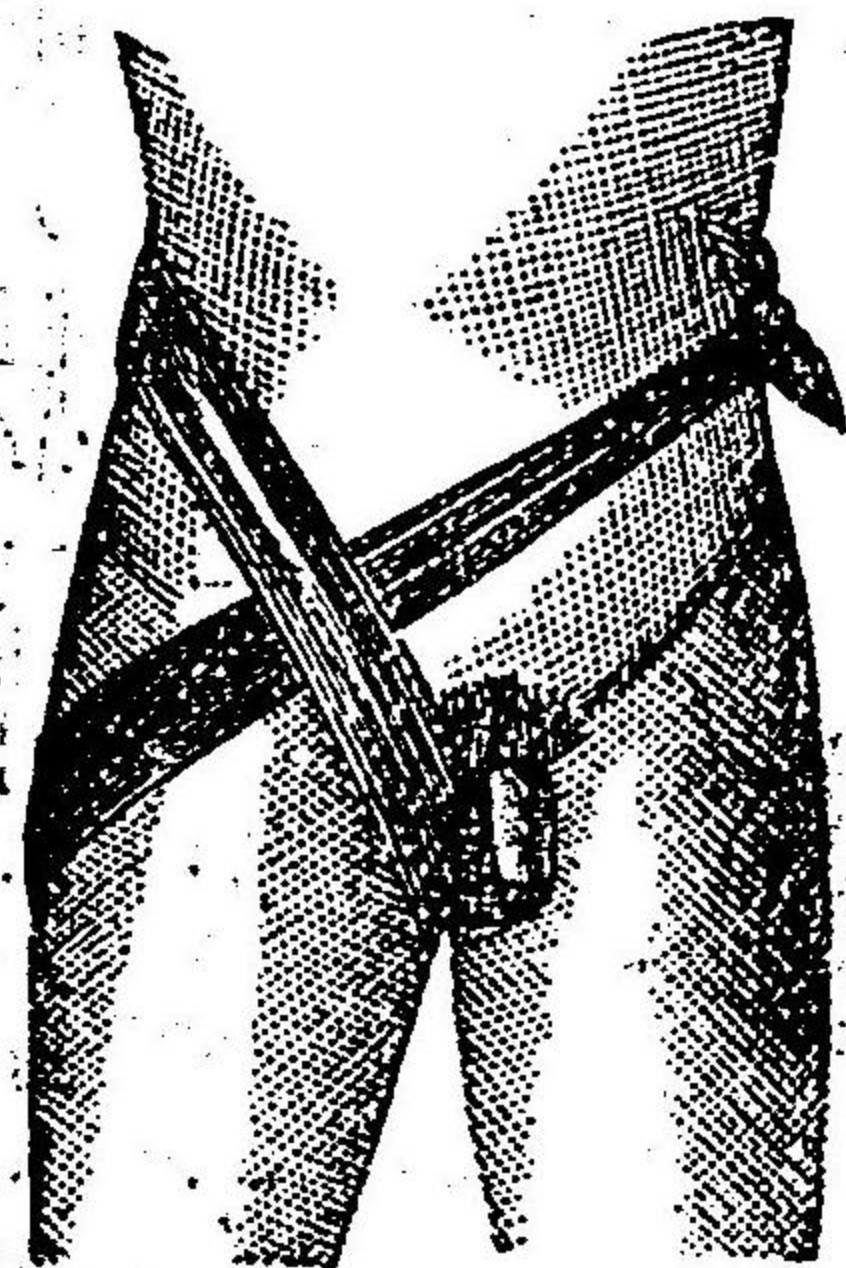


圖四十四百第

帶角四部頭



圖一十四百第



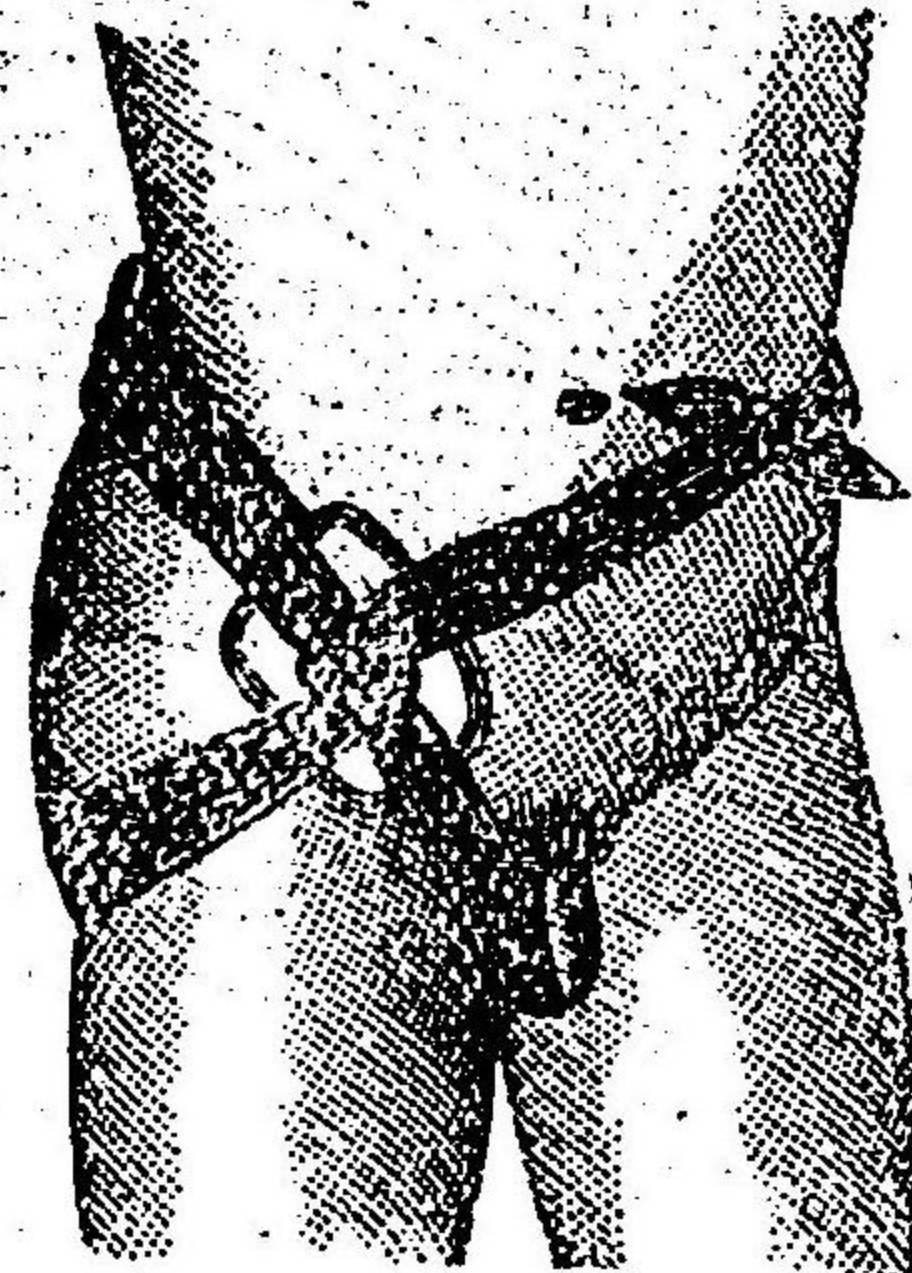
圖九十三百第



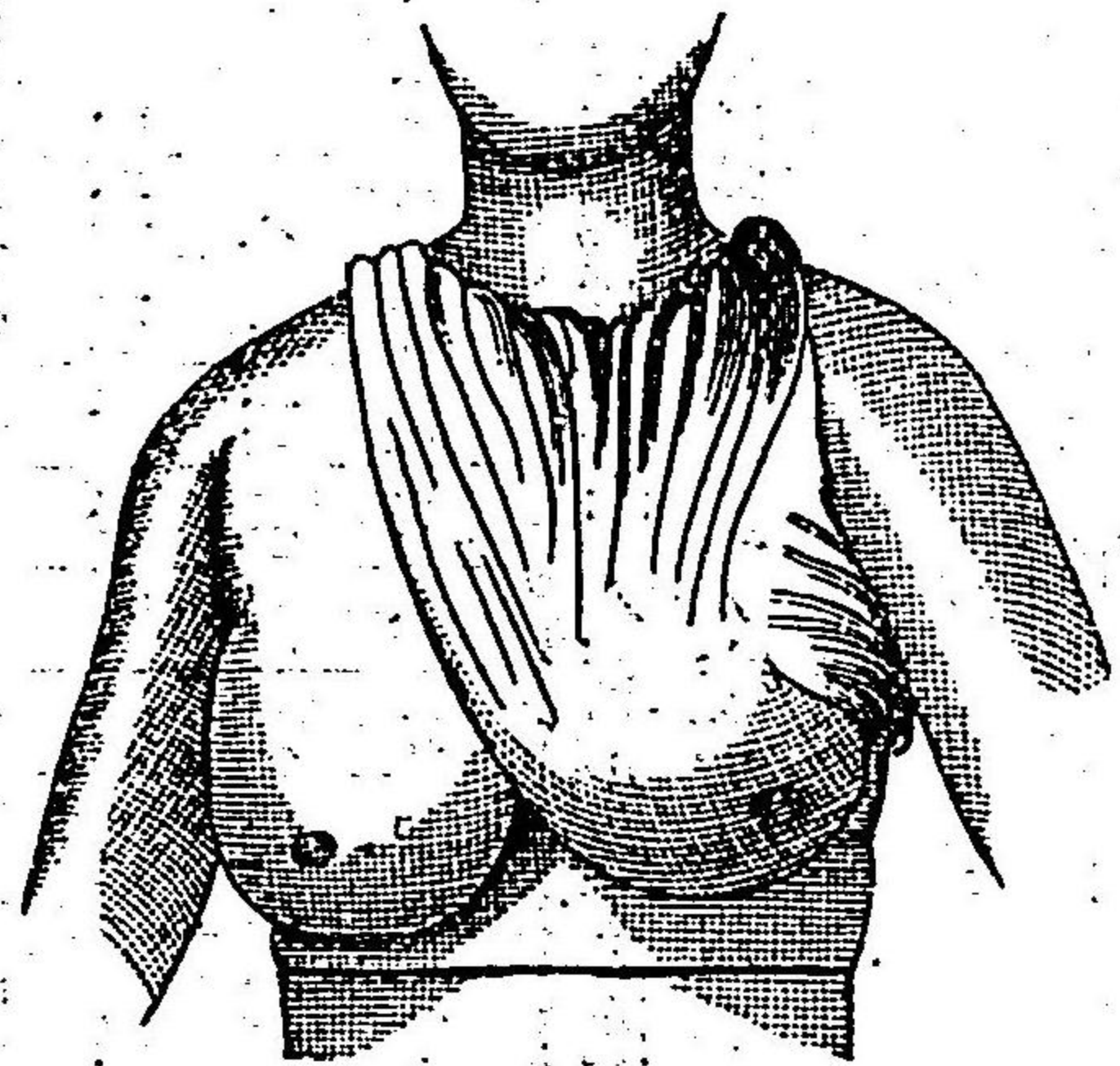
圖二十四百第



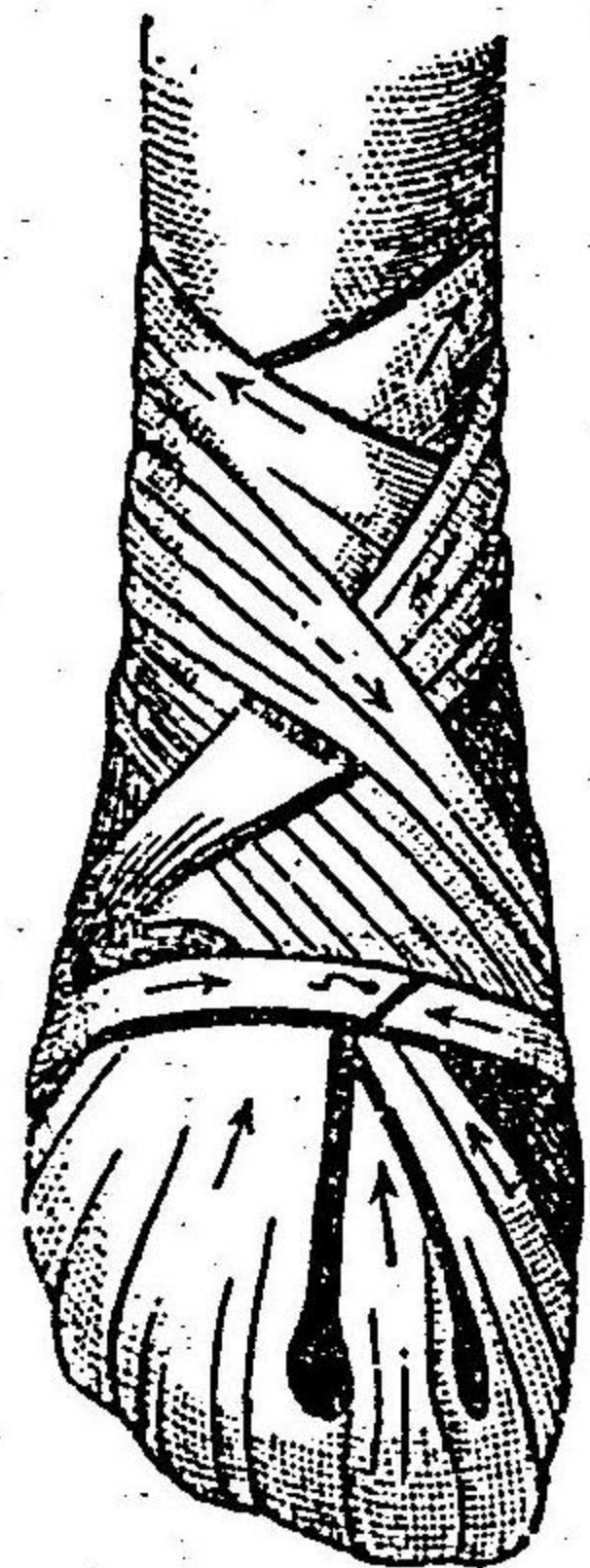
圖十四百第



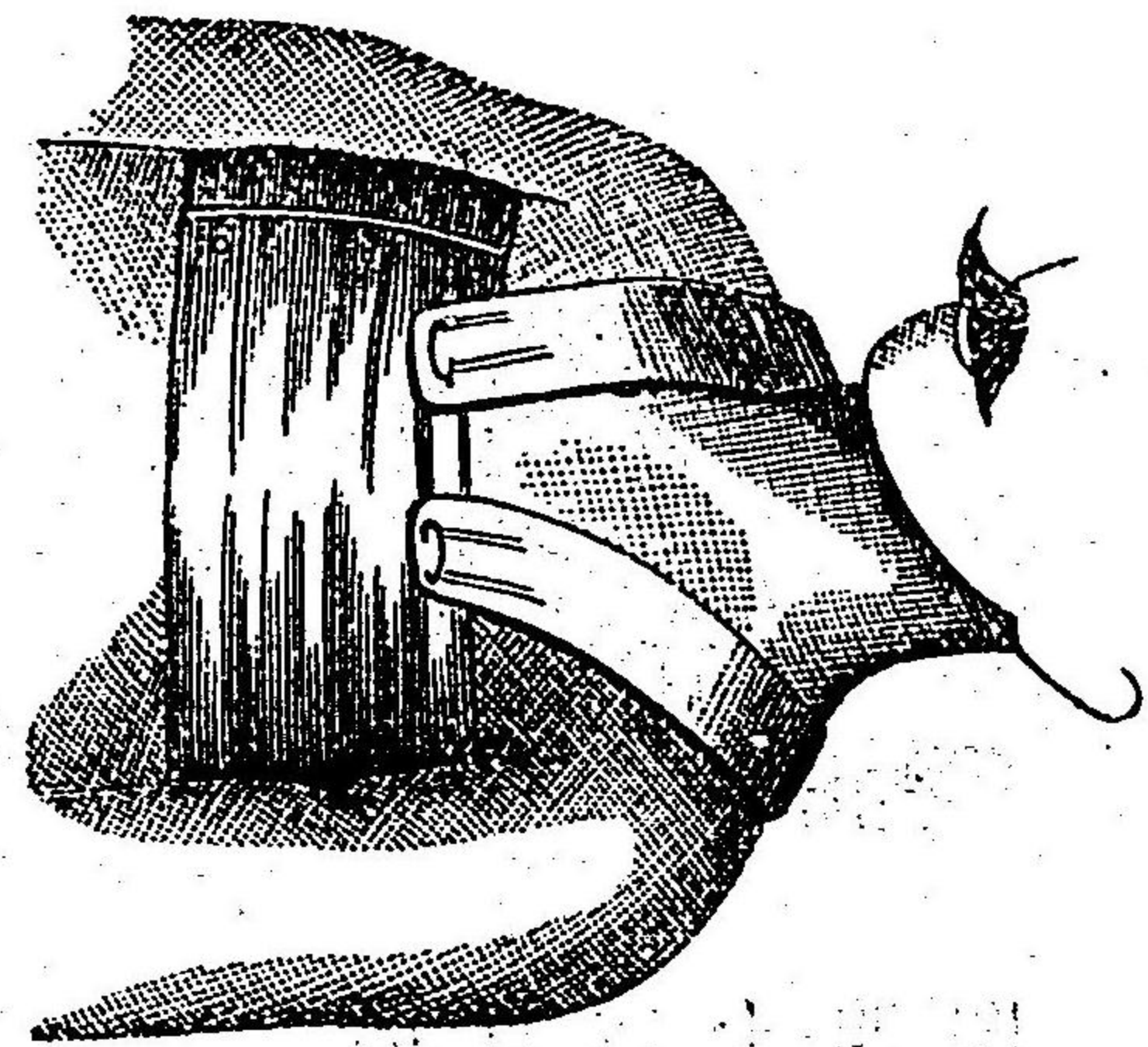
圖七十四百第



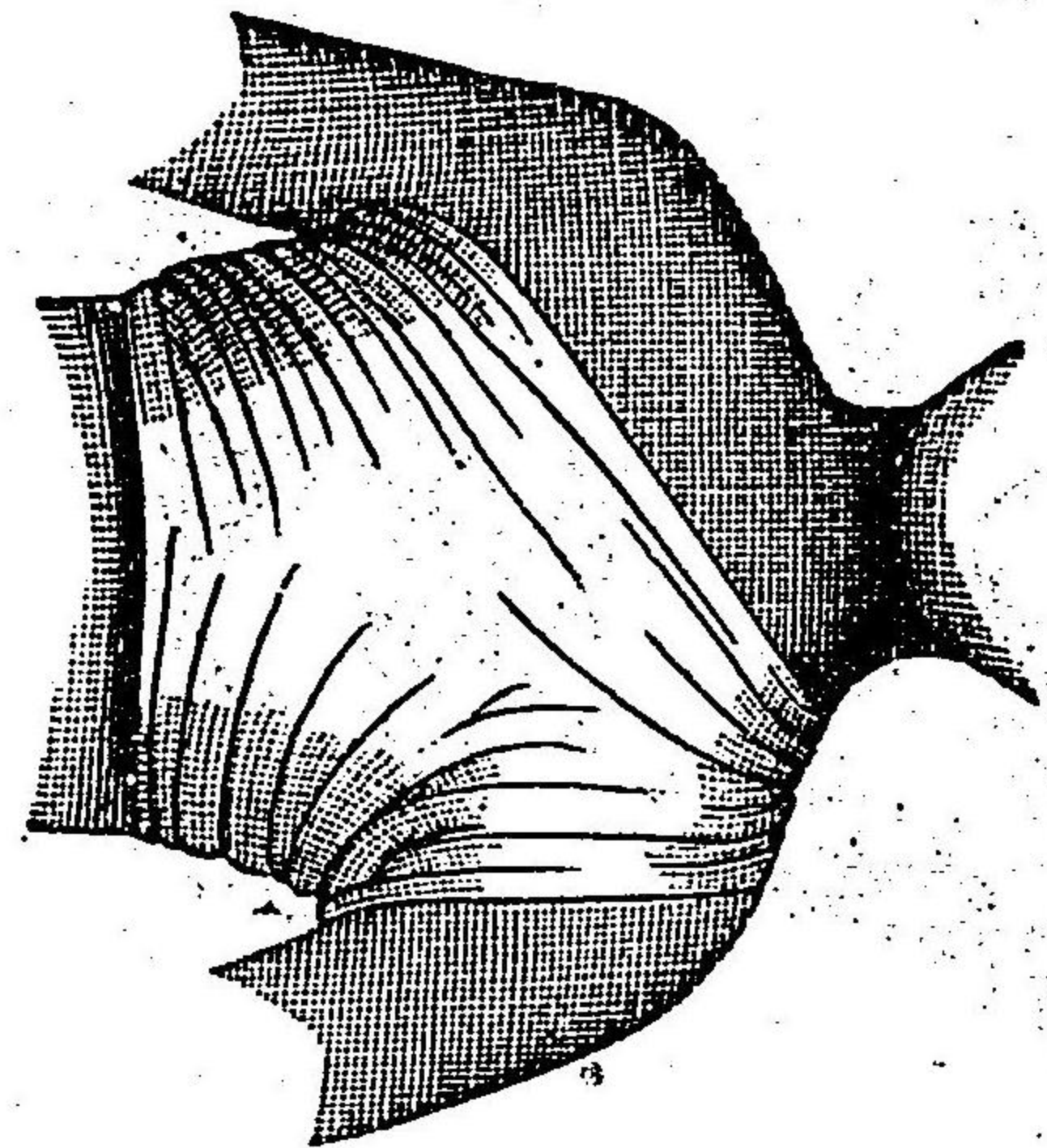
圖九十四百第



圖八十四百第



圖六十四百第



圖五十四百第

○第四十四章 温度比較表

C ハ攝氏 R ハ列氏 F ハ華氏

C	〇	五	一〇	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇	四五	五〇	五五	六〇	六五	七〇	七五	八〇	八五	九〇	九五	一〇〇
R	〇	四	八	一二	一六	二〇	二四	二八	三二	三六	四〇	四四	四八	五二	五六	六〇	六四	六八	七二	七六	八〇
F	三二	三六	四〇	四四	四八	五二	五六	六〇	六四	六八	七二	七六	八〇	八四	八八	九二	九六	一〇〇	一〇四	一〇八	一一二

三氏驗温器中ノ或ル度ヲ他ニ換算スルノ方式ハ左ノ如シC ハ攝氏ノ度數 R ハ列氏ノ度數 F ハ華氏ノ度數ナリ

$$C = \frac{5}{4}R$$

$$C = \frac{5}{9}(F-32)$$

$$R = \frac{4}{5}C$$

$$R = \frac{4}{9}(F-32)$$

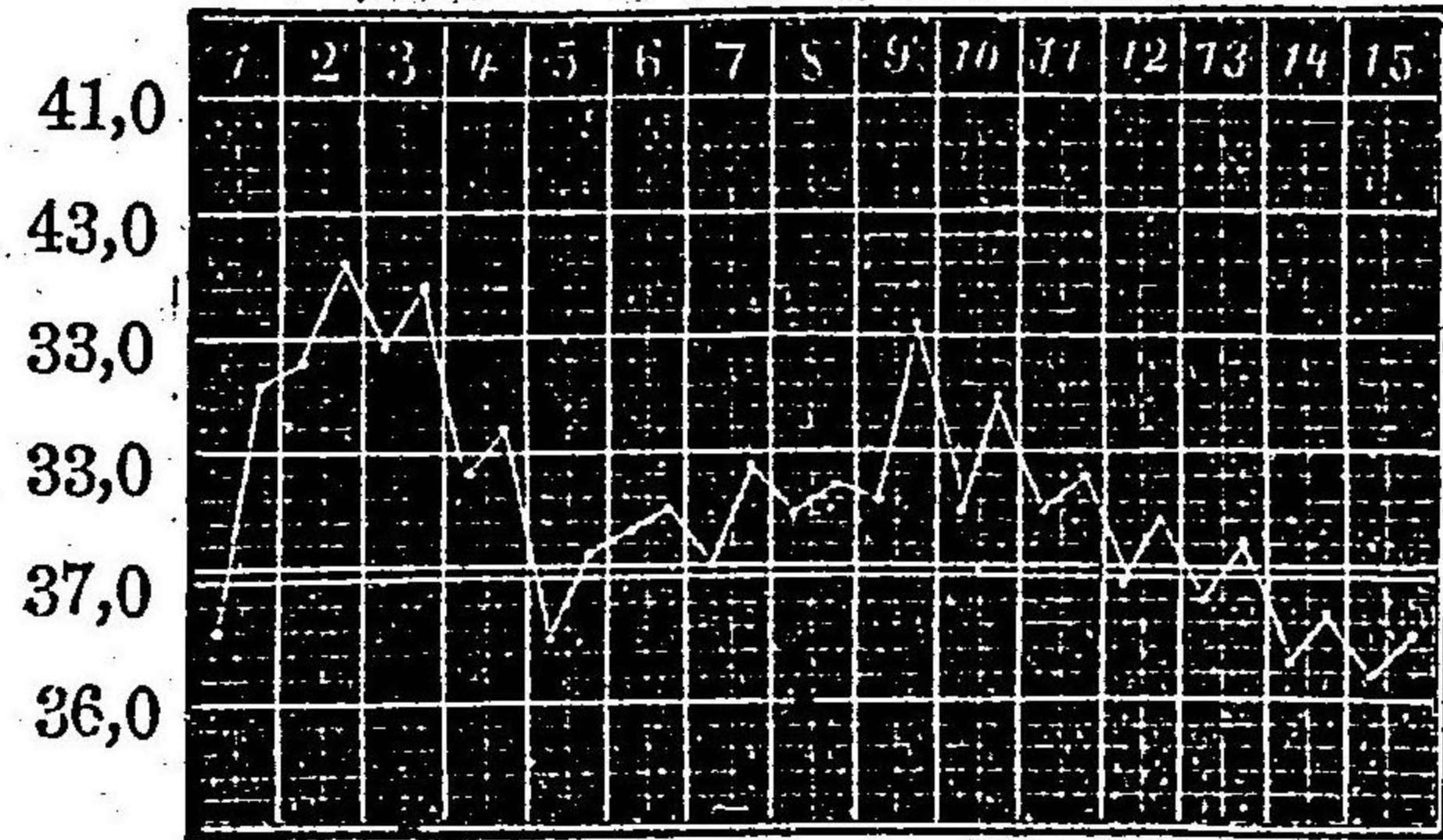
$$F = \frac{9}{5}C + 32$$

$$F = \frac{9}{4}R + 32$$

○第四十五章 熱ノ定型附表

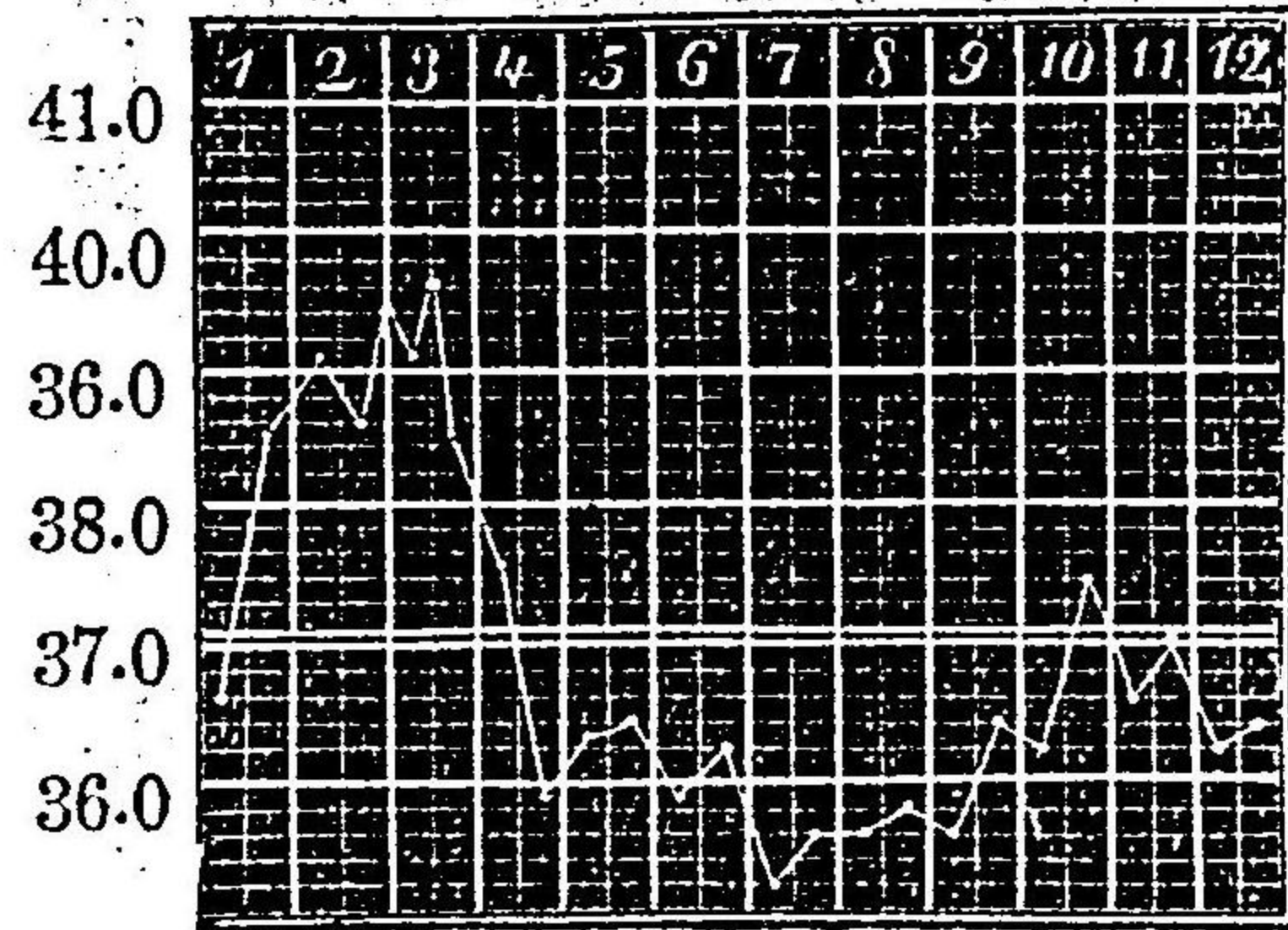
- (一) 常温 *Normale Temperatur* 攝氏三七、〇乃至三七、五度
- (二) 亞熱温 *Subfebrile Temperatur* 攝氏三七、五乃至三八、〇度
- (三) 熱性温 *Febrile Temperatur* (イ) 微熱 *Leichter Fieber* 攝氏三八、〇乃至三八、五度 (ロ) 輕熱 *Mässiges Fieber* 朝三八、五乃至三九、〇度 夕三九、五度 (ハ) 劇熱 *Beträchtliches Fieber* 三九、五乃至四〇、五度 (ニ) 高熱 *Sehr Hohes Fieber* 朝四〇、五乃至四一、五度 (ホ) 過熱温 *hyperpyretische Temperatur* 四〇、五度以上一日内ニ於ケル體温昇降ノ度ニ從ヒ熱ノ定型ヲ四種ニ區別ス
- (一) 稽留熱 *Febris continua* 痘瘡、肺炎、窒扶斯ノ極期ニ見ル朝夕ノ差〇、五度以下ニシテ四〇乃至四一度ニ達ス
- (二) 弛張熱 *Febris remittens* 一度以上朝夕ニ於テ異ナル熱ヲ云フ是レ亞急性及慢性病ニ見ル所ナリ其弛ムトキ常温ヨリ降ル者ヲ消耗熱 *Febris hectica* ト云フ
- (三) 間歇熱 *Febris intermittens* ハ數時間持續スルトコロノ高熱ノ發作ト

圖 二 十 五 百 第



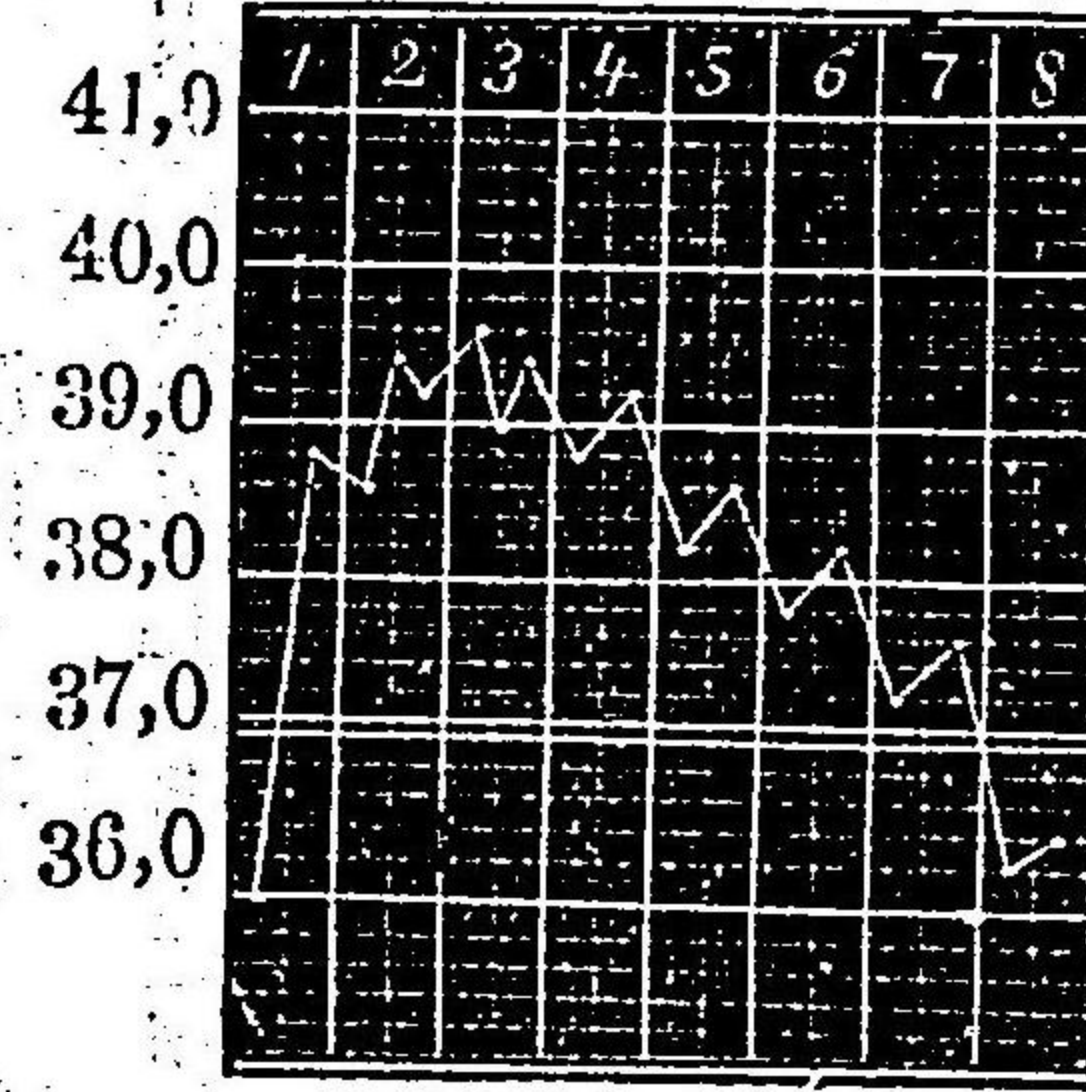
序期 發疹 痘 然 天

圖 三 十 五 百 第



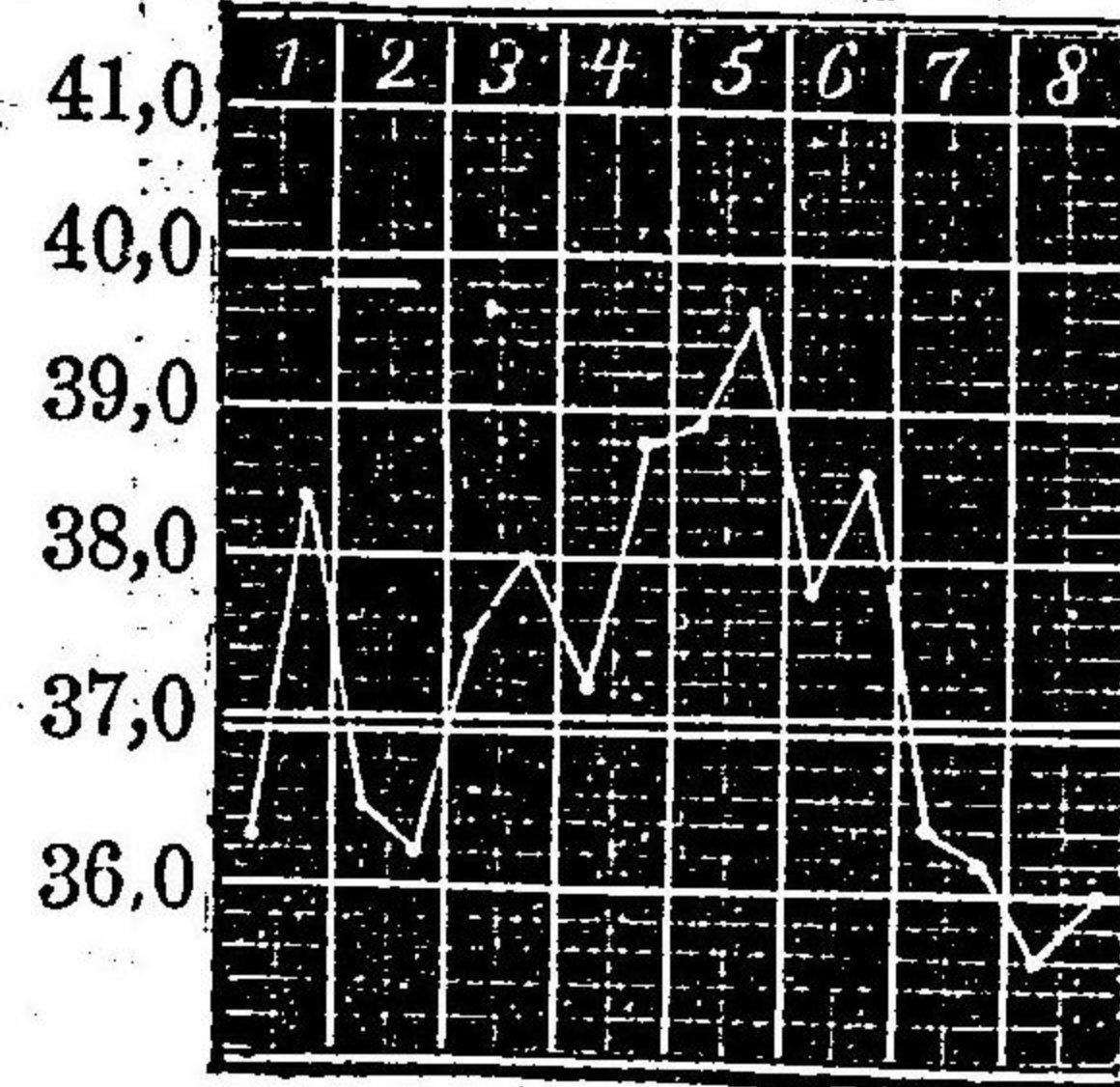
痘 假

圖 十 五 百 第



熱 紅 猩

圖 一 十 五 百 第

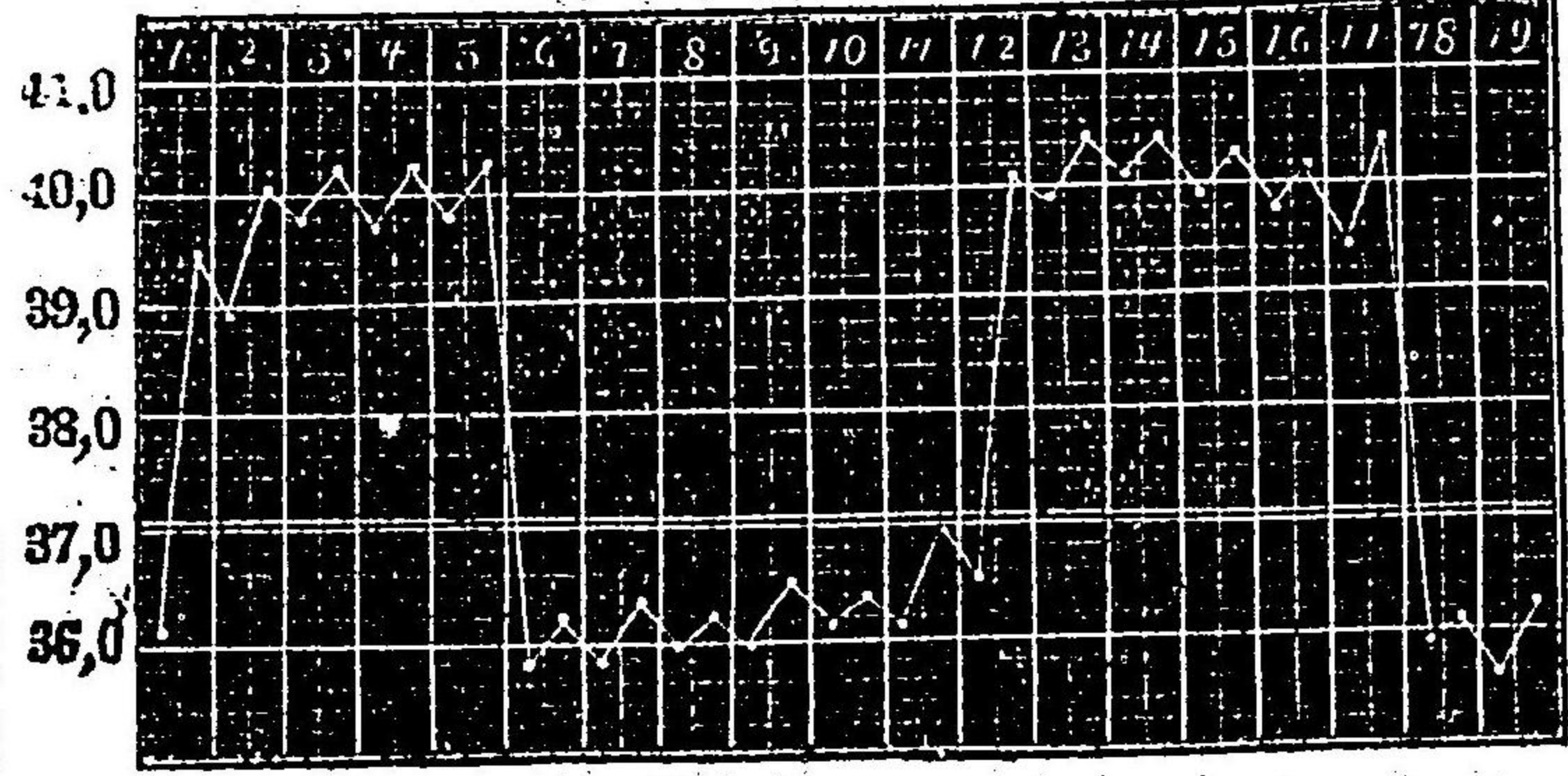


疹 麻

久時ノ免熱期トヲ呈スルモノニシテ專ラ「マラリア」ニ見ルトコロノモ  
 ソナリ  
 (四) 回歸熱 Febris recurrens  
 別ス  
 發熱期 Pyrogenetische Stadium 極期 Fastigium 分利 Krise 散換 Lyse 快復  
 期 Rekohya Iescenz 再期 Recidiv

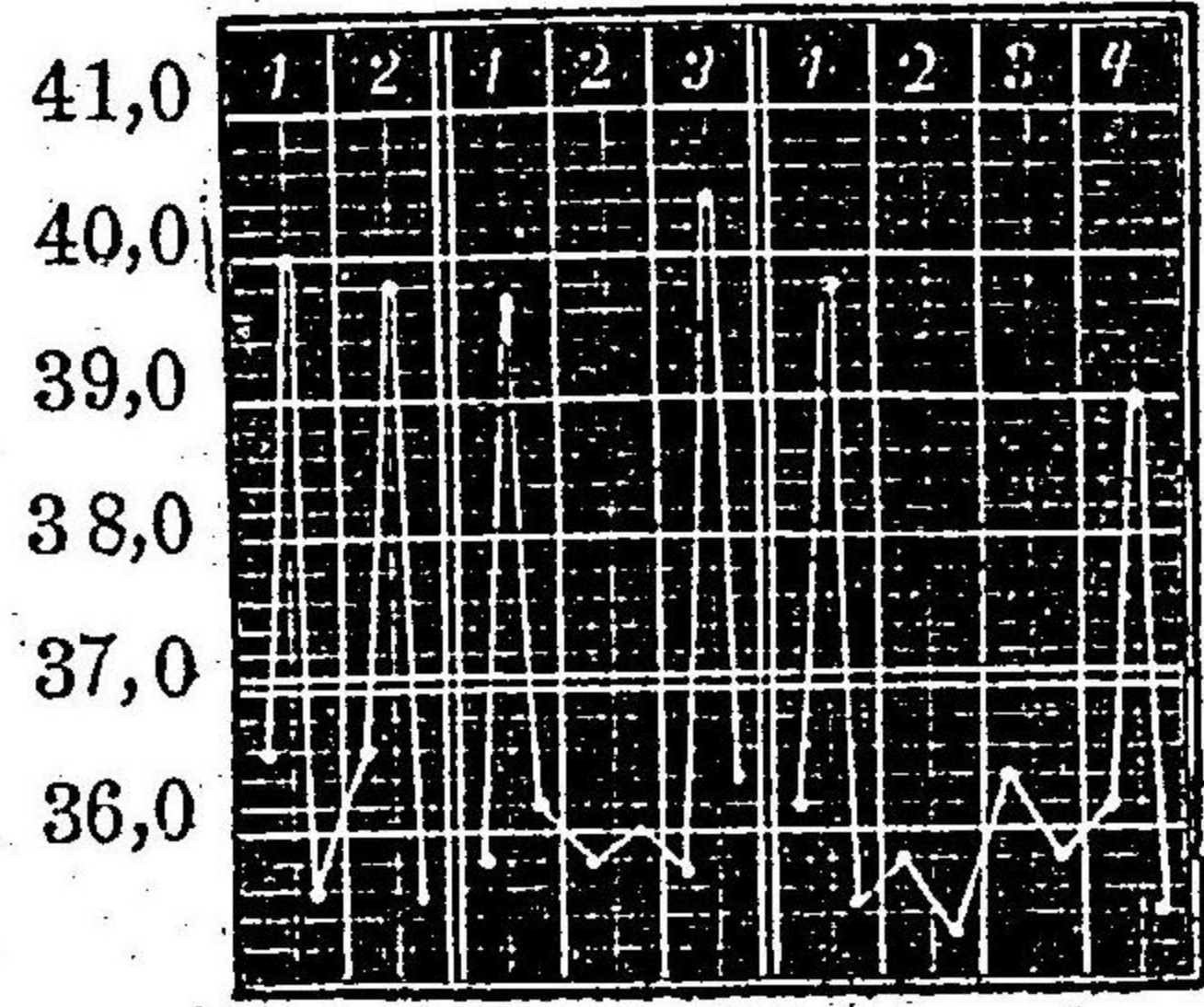


圖 五 十 五 百 第

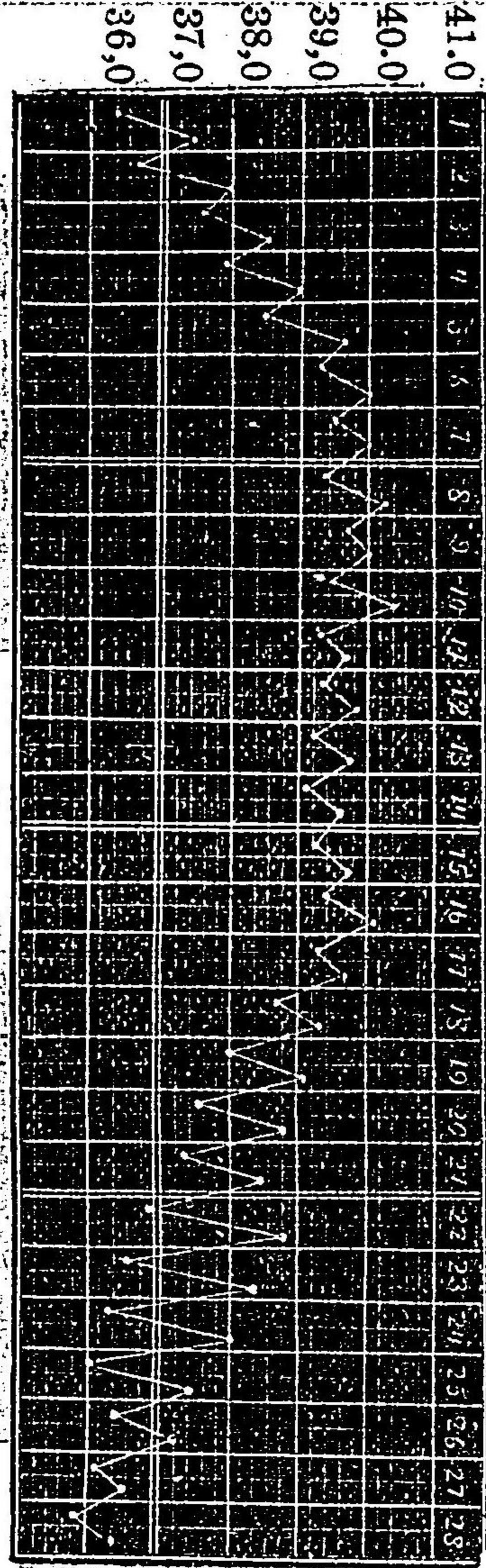


熱 歸 回

圖 六 十 五 百 第



熱日每 熱日隔 熱日四  
熱 歇 間



第一週

第二週

第三週

第四週

圖 五 十 五 百 第

○第四十六章 比較物體ノ大小

醫學上逸乙國ニ於テ屢々大サヲ比較スルニ用ユル物體アリ、逸乙ノ醫書或ハ其譯書ヲ讀ムニ際シテ其物ノ大小ヲ審カニスルコト能ハザルモノ多シ「キートル」大學教授エスマルヒ氏ノ圖ニ從ヒ數種ヲ示シテ其大小ヲ明ラカニス其白豆ト譯セルモノハ普通蠶豆ト譯セルモノナリ（卷末ノ圖ヲ見ルベシ）

○第四十七章 傳染病潜伏期一覽表

病名	人名	日數	摘要
麻疹	パーナム フアイルスチッケル シルベルベルヒ	(九日乃至十日) 十三日乃至十四日 十三日乃至十五日 十三日乃至十四日 七日(四日乃至八日)	傳染ヨリ發疹ニ至ル迄 同 同
猩紅熱	ムルヒゾン	六日以下	

病名	人名	日數	摘要
風疹	スウエストル マルシヤンド	五日乃至六日以下 三日	
天然痘	レーン	二週間半 十七日	
	フホン、ホイジン	十六日乃至十七日	
	ゲル	十五日	
	フルード	十五日	
	フホン、ペーレン	十日乃至十四日	
	スプルンガ	十三日乃至十四日	
	チムゼン	十三日乃至十四日	
	ゲルハルト	十三日乃至十四日	
	マルシヤンド	十日	
	アイヒホルスト	九日八時間	
水痘	トーマス	十三日乃至十七日	
	リーベルマイステル	十三日乃至十五日	

發疹窒扶斯	カリシツンガル ウキツス リーベルマイステ ル	七日乃至十四日 八日乃至九日以上 九日乃至十四日 二週乃至三週 二日乃至三日	二週以下ナルモノ 及ビ四週ニ達スル モノ稀ニ之レアリ
實扶的里	デラー	多キモ六日	
百日咳	レツシチル	五日乃至六日以下 二日乃至四日 卅六時乃至四十五 時間 長キモ四日半	尙ホ其以下ナルコ トアリ (廿四時乃至卅時 間ナルコトアリ)
亞細亞虎列刺	パンデー グットマン	三日乃至八日 七日乃至十四日 四日乃至二十五日 廿日乃至廿二日	(稀ニ二十四日乃至 十八日)
赤痢	ロート リ、エー及ピロン パール		
流行性耳下腺炎			

肺炎	デンメ カハバル フリン ラルル 子ツテル	八日乃至十五日 四日(二日乃至七 日) 長キモ二日 少キモ三日 平均五日	
インフルエンツア	ボイムレル グラツスマン	二日乃至四日 二日乃至八日 二日乃至七日 三週乃至四週	通 常十五乃至廿五日
ペスト	フルニユー ローレー	廿一日(平均) 廿五日 九週乃至十一週間	
黴毒 甲 局處症狀チ 發スルマデ			
乙 發疹期マデ 恐水病	パウエル パステール	廿日乃至五十九日 四十日乃至六十日	

○第四十八章 精神病者入院ニ對スル鑑

定ノ要領 マイ子ルト氏

- 第一 姓名
- 第二 年齢 身分 宗教
- 第三 性質 職業
- 第四 誕生地
- 第五 在籍地
- 第六 最終ノ住居
- 第七 如何ナル發意或ハ如何ナル矛盾ノ爲メ入院セントスルカ患者ハ尋常ニアラサルモノ、如キカ
- 第八 鑑定者ハ被鑑定ニ就テ如何ナル病症ヲ觀察若クハ探知シタルカ
- 第九 疾病ハ幾時間持續スルカ定期性ナルカ或ハ再發性ナルカ
- 第十 疾病ノ原因トナルベキモノニシテ明ラカナルモノハ何ナルヤ
- 第十一 患者ハ妨害ヲナスノ觀アルヤ或ハ公衆ニ對シ危險ナルノ觀アル

ヤ

第十二 注意

年月日

何 之 誰

以上十二項ヲ悉ク記載シ得ルコト能ハサル場合アルハ論ヲ俟タズ然レトモ第七第八項及ビ第十一項ハ每常必ラズ精密ニ記載センコトヲ要ス蓋シ此三項ニ因リテ入院ノ諾否ヲ決スベキノミナラス患者ノ診察及ビ治療ニ對シテモ最モ緊要ナレバナリ

第八項ニ於テハ精神症候ノ傍ラ左ノ身體的關係ヲ必要トス

- 第一 年齢 身長 體重 營養狀態 皮膚色澤
- 第二 頭蓋ノ構造(直徑及ビ周圍ヲ測リテ確定ス)
- 第三 顔面ノ構造特ニ顎骨ノ構造(上顎骨前ニ下顎骨ノ突出スルハ貴要ナル變質ノ徵ナリ)顔面ノ畸形(兜唇等ノ如シ)
- 第四 五官器○眼 眼光 瞳孔及ビ眼球諸筋ノ狀態○耳 耳垂ノ癒着 耳輪缺損 感覺 知覺過敏及ビ麻痺
- 第五 舌ヲ出ストキ震顫ノ有無、癩痕(癲癩發作ノアリタル徵候)
- 第六 筋肉ノ狀態 一部若クハ全部ノ筋肉全麻痺或ハ不全麻痺震顫、

附錄

精神病者入院ニ對スル鑑定ノ要領

搖擻 自發運動

第七 生殖ニ對スル諸件 陰部ノ異常 陰部發育不全(睪丸隱匿 尿道下破裂及ビ上破裂、子宮ノ發育不全(子宮ノ閉鎖或鎖陰)色慾ノ發現

第八 植物性官能ノ狀態

第十項ニ於テハ疾病ノ原因ヲ專ラ検査スルニ際シ左ノ諸件ヲ貴要ナリトス

- 第一 遺傳 (父母祖父母等ノ中精神病或ハ神經病、腦症ヲ發シテ頓死シタル者自殺者自殺ヲ謀リタル者、犯罪、大酒家ノ有無、兩親間血族ナルヤ否ヤ生殖ノ時ハ兩親ノ甚タ幼年ナル時或ハ甚タ老年ナル時ニアリシカ或ハ生殖前兩親ノ内疾病ノ爲メ衰弱ヲ呈セザリシカ或ハ父若クハ母生殖ノ際大醉ノ狀態ニアリシヤ否ヤ)
- 第二 先天性神經病的體質ノ有無
- 第三 不適當ナル教育
- 第四 年齡 春機發動期 壯年期 老年期
- 第五 疾病特ニ小兒期ニ發シタル搖擻(頭部損傷 腦膜炎 腦卒中)

腦炎 腦腫瘍 脊髓癆 舞蹈病 癲癇 ヒステリイ 神經衰弱(症)急性傳染病(就中窒扶斯、痘瘡、肺炎)急性貧血若クハ慢性衰弱症例令バ結核癌腫等ノ如キ疾病ニ因テ生シタル貧血徽毒婦人生殖器疾患

- 第六 手淫 房事過度
- 第七 妊娠 分娩 産後 授乳
- 第八 劇甚ナル感動精神ノ逆勞 心痛
- 第九 アルコホル濫用
- 第十 炭酸中毒 慢性水銀及ビ鉛中毒 モルヒ子中毒 コカイン中毒等

○第四十九章 日本醫家須知法律及規則摘錄

○刑法摘錄

(明治四十一年改正新刑法)

第十三章 秘密ヲ侵ス罪  
第一百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護人、公證人又ハ此等

ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ故  
ナク漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
以下畧ス

第三百三十四條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 文書偽造ノ罪

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛  
偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第二十章 偽證ノ罪

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ  
三月以上十年以下ノ徵役ニ處ス

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲  
戒處分ノ前自白シタルトキハ其刑ノ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲  
ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女

ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ  
強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦  
淫シタル者亦同シ

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ  
喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタ  
ル者ハ前二條例ニ同シ

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷  
ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セ  
シメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六章 殺人ノ罪

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ  
處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役

ニ處ス

第二百一一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條 第二百條及ビ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料

ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以上ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル

トキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第二百十六條 前項ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

### 刑法施行法

(明治四十一年法律第二十九號)

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護人、公證人、又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ  
ハ 事故ノ止ムマデ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一、心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ  
二、刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ  
三、受胎後七月以上ナルトキ  
四、分娩一月ヲ經過セサルトキ

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事日當ハ左ノ範圍ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一、證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス  
二、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金三十錢乃至金五圓



第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付金二十錢乃至壹圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事ハ受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非ザレバ之ヲ給與セス

第六十五條 證人鑑定人及ヒ通事ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求セルニ非ザレバ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

### 改正警察犯處罰令

#### ○警察犯處罰令

(明治四十一年九月三十日公布內務省令第十六號)

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ゲ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者

三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混ジテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スベキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

- 一、許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタル者
  - 二、公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ袒裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
  - 六、石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
  - 七、開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ妊婦産婦ノ招キニ應ゼザル者
  - 八、故ナク官公署ノ召喚ニ應ゼサル者
  - 九、炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スベキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケズ店頭ニ陣列シタル者（覆蓋トハ硝子ノ蓋カ蚊帳張網杯ヲイフ）
  - 十、濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又之レガ取除ヲ怠リタル者
  - 十一、監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタルモノ
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス
- 但シ情狀ニ依リ其刑ヲ免除スルコトヲ得
- 附 則

本令ハ明治四十一年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

○民事訴訟法摘錄

(明治二十三年三月法律第二十九號)

第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

- 第一、官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者ガ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ
- 第二、醫師、藥商、産婆辯護士公證人、神職及ビ僧侶ガ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ
- 第三、問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其ノ刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ
- 第四、問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシム可キトキ
- 第五、證人カ其技術又ハ職業ノ祕密ヲ公ニスルニ非サレバ答辯スルコト能ハサルトキ

第二百二十二條 鑑定ニ付テハ以上數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限  
リハ證人ニ付テノ規定ヲ準用ス

○刑事訴訟摘錄

(明治二十三年十月六日法律第九十六號)

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第三章 豫審

第六節 證人訊問

第一百十六條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應ズル能ハサルコト  
ヲ證明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問スヘシ

第一百十七條 證人ト爲ルベキ者豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル軍人軍屬ナル  
トキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊  
長ハ即時ニ出頭セシムベキコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル  
差支アルトキハ其事由ヲ附記シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ  
第一百十八條 豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出  
ニ應ゼサルトキハ檢事ノ意見ヲ聞キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償

及ビ二圓以上二十圓以下罰金ヲ言渡スベシ但シ其決定ニ對シテハ抗告  
ヲ爲スコトヲ得此抗告執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ  
直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得若シ證人再度ノ呼出ニ應ゼサルトキハ  
費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又拘引狀ヲ發スルコトヲ得  
豫備後備ノ軍籍ニ在ラザル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡シ及ヒ執行ハ  
軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ拘引ニ付  
テモ亦同シ

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上默祕スヘキ義務ア  
ル事情ニ關スルトキ

第二 醫師、藥商、產婆、辯護士、公證人、神職、僧侶、其身分職業  
ノ爲メ委任ヲ受ケタルニ因リ知リタル事實ニシテ默祕ス可キモノニ  
關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絶ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ證明ス可シ

第七 鑑定

第三百三十五條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要アリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

第三百三十六條 鑑定ニ付テハ第一百五條第十八條乃至第二百一十一條第二百二十三條乃至第二百五條及ヒ第二百二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第三百二十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ其宣誓ハ第二百二十二條ノ式ニ從フ

第三百二十八條 鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セザルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聞キ刑法第七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

第三百二十九條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

第四百十條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手續結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載スヘシ鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載スヘシ

第四百十一條 鑑定人ハ旅費日當及立替金ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得

第八節 現行犯ノ豫審

第四百十四條 地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルニ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス證人及鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

第四編 公判

第一章 通則

第八十三條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルト

キハ瘡癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下形ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタル時ハ其瘡癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他疾病ニ罹ル時ハ瘡癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタル時ハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其瘡癒ノ後更ニ取消シテナスコトナク裁判ヲ爲ス可シ

第百八十九條 豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲナシタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人鑑定人ヲ呼出サ、ルトキ證人鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

第百九十條 第百十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第百三十五條以下ノ規定ハ公判鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

第百九十五條 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第五編 上訴

第二章 控訴

第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ於テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出サザルコトヲ得

○第五十章 傳染病豫防ニ關スル諸法

甲 癩病豫防ニ關スル法律

(明治四十年法律第十號)

第一條 醫師癩病ヲ診斷シタルハ患者及ビ家人ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ベシ其ノ歸轉ノ場合及ビ死體ヲ檢案シタルハ亦同シ

第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防法ヲ行フベシ

第三條 癩患者ニシテ療養ノ道ヲ有セズ且救護者ナキモノハ行政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救護スベシ但シ適當ト認ムルハ或扶養義務者ヲシテ患者ヲ引取ラシムベシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スベシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルハ市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ市町村長ニ準スベキ者)ヲシテ癩患者及

ビ其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲メ必要ナル療養所設置ヲ命ズルコトヲ得

前項療養所ノ設置及ビ管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム主務大臣ハ私立療養所ヲ第一項ノ療養所ニ代用セシムルヲ得

第五條 救護ニ要スル費用ハ被救護者ヨリ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第三條ノ場合ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徵法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 扶養義務者ニ對スル患者引キ取り命令及費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタルモノハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スベキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又府縣ノ負擔トス但シ沖繩縣及東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

一、被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得ザル救護費

二、檢診ニ關スル諸費三、其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第四條第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハザルハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スベシ此場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ前項ノ方法ニ依ル

第八條 國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者ハ其扶養義務者ニ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條 醫師第一條ノ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外行政官廳ニ於テ救護

中死シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

勅令第二百八十四號

明治四十年法律第十一號ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
内務省令第十九號

明治四十年七月廿日法律第十一號癩豫防ニ關スル件施行規則

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ死體所在地ノ警察官署ニ之レヲ爲スベシ  
癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セズ且救護者ナキモノアルハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍住所姓名及ビ病况並扶養義務者ノ住所氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スベシ  
地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經

タル上送致ノ手續ヲ爲スベシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スベシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムベキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スベシ

當該地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位地ヲ定ムベシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政廳官ノ職權ハ警察署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其扶養義務者ハ警察署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其扶養義務者ハ

發病以來症候經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ檢診ノ場所及ビ日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムベシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルヲ得檢診ノ爲メ病院其ノ他ノ現所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セザル片ハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムル片ハ此ノ限ニアラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及ビ行旅死亡人取扱法規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ第九條第二條及第六條ノ地方長官職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ



畧

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 內務省令第二十號  
 療養所設置區域ニ關スル事項 畧ス  
 勅令第二百八十五號  
 療養所精算國庫補助ニ關スル事項 畧ス

癩病患者輸送法 (明治四十一年)

鐵道院ニ關スル事項 畧ス

內務大臣ノ訓示 (明治四十二年二月)

主文畧ス

- 一、患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人ハ雜居セザルヲ
- 二、患者ノ衣類寢具其他日用器具等ハ特ニ專用ノ物ヲ備ヘ他ト混同セザル様注意スルヲ
- 三、患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルヲ
- 四、患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルヲ

- 五、患者ノ居室ハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルヲ
- 六、病毒ニ汚染シタル繻帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑、襪襪類ハ燒却スルヲ
- 七、患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ズ外出セントスルハ清潔ナル衣類ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルヲ
- 八、患者ハ可成他ノ交通ヲ避シメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場寄席乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラザルヲ
- 九、患者ハ牛乳ノ搾取飲食物飲食物具金屬陶器類ヲ除ク玩具ノ調製又ハ其販賣ト他ノ病毒傳播ノ虞レアル業ニ従事セザルヲ
- 一〇、患者ノ住居シタル家屋ハ消毒シタル後ニ非ラザレバ他ニ使用貸與又ハ授與セザルコト
- 一一、患者ノ使用シタル衣類寢具器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル后ニ非ラザレバ他ニ使用授與移轉又ハ遺棄セザルヲ
- 一二、患者ノ一時滯留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室并ニ使用シタル衣類寢具器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スベシ

- 一三、看護等ノ爲メ常ニ患者ニ接近シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被服ヲ着用シ時々之ヲ消毒スル
- 一四、癩患者ノ屍體ハ消毒ヲ行ヒタル后可成火葬スル
- 一五、消毒方法ハ明治卅年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スル

乙 傳染病豫防法摘錄

(明治三十年三月法律第二十六號)

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡、發疹窒扶斯、猩紅熱、實布の利亞(格魯布)及「ペスト」ヲ謂フ  
前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若クハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院製造所又ハ船舶會社、各種事務所、貸席興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長管理人又ハ代理者トス

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用授與、移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リテ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサルモノハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時

間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答解ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者、又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其届ヲ妨ケクル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス（本條ハ明治三十八年三月十三日法律第五十六號ノ改正ニ據ル）

○第五十一章 傳染病豫防法施行規則抄

（明治三十年五月一日發布内務省令第十一號）  
（同三十八年六月十三日内務省令第十四號改正）

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルヲ知りタルトキハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳（東京府ハ警視廳）ニ報告スヘシ  
第四條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚

染ノ事實アルコトヲ知りタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔法消毒方法ヲ施行セシメ「ペスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列拉、赤痢、發疹空扶斯、「ペスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

- 一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治愈ス
  - 二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
  - 三 前二號ノ家ノ居住者其他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト
- 虎列刺、赤痢 滿五日間  
發疹空扶斯 滿七日間

「ペスト」 満十日間

四 交通遮断又ハ隔離中ニ新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト

傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮断及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事（東京府ハ警視總監）ノ命アル場合ニ限ル市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮断及隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

〇等五十二章 清潔方法及消毒方法

（明治三十年五月六日發布内務省令第十三號）  
全三十八年六月十四日内務省令第十七號改正

第一章 清潔方法

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除キ焼却スヘシ
- 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ
- 四 「ペスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ
- 五 傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ
- 第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥（生石灰末若クハ石灰）ヲ投シタル後浚渫スヘシ
- 第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚渫ヲ爲ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却
- 二 蒸汽消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病患者若クハ死體ニ用井タル被服、臥具、布片、便器其他ノ器具等ニシテ甚タシク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ者
- 二 傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物塵芥動物ノ死體等

第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類
- 二 硝子器、陶器、滋器其ノ他鑲製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フ

ルモノ

第八條 蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

- 一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、ゴム製品、ゴム用品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、髓甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸汽消毒ヲ避クヘシ
- 二 被服類ニ蒸氣消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣囊中ヲ檢索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ虞アルモノハ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
- 三 蒸氣消毒ハ流通蒸氣ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸氣消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑竝ニ其用法ハ左ノ如シ

- 一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ定量ノ水ヲ注ギ後鹽酸一分ヲ加フベシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス  
石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但シ使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ攪拌スヘシ

二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ

三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

四 衣服等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用ヒ六時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

一ノ二 クレゾール水クレゾール石鹼液  
六分水九十四分

クレゾール水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フベシ

クレゾール水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其用量及應用ハ石炭酸水ニ準ズベシ

二 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分  
水九百八十九分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フベシ

昇汞水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防ガシ爲メ「スカレツト」又ハゾイレフクシン」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スベカラズ

昇汞水ハ陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具、玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス

手足ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

三 生石灰 少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ

生石灰水 生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其他排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其容量五十分

一 投シ能ク攪拌スヘシ  
石灰乳(十倍) 生石灰一分  
水 九分

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四ノ一分以上トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス  
普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ

四 クロール石灰水(二十倍) クロール石灰五分  
水 九十五分

五 カリ石鹼又ハ綠石鹼  
カリ石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要スカリ石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具戸障子床面ノ消毒ニ適ス

六 フオルムアルデヒード  
「フオルムアルデヒード」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造、洋風建物、船舶、瀛車等ニテ戸、扉窓、窻孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付フオルマリン四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フオルマリンアルデヒード」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フオルムアルデヒード」ハ左ノ消毒ニ用井ルコトヲ得  
一 土藏造、洋風建物、船舶、瀛車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定着セル器物ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其ノ他ノ物件ニシテ其内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ

第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

第一 患者

傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ  
場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ナシ

第二 死體

傳染病ノ死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ被服ニ昇汞水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞若クハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ填ツヘシ

第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病毒ニ觸接シタル者

看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病毒ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四 患者「死體ノ運搬器」

傳染病ノ患者、死體ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ

第五 便所、芥溜、溝渠等

傳染病患者ノ吐瀉物ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ「クロール」石灰水ヲ灌キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得病毒ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若

クハ「クロール」石灰水ヲ灌キ消毒スヘシ  
病毒ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ「クロール」石灰水ヲ灌ギ其ノ塵芥ハ燒却スヘシ  
病毒ノ混シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ「クロール」石灰水ヲ灌クヘシ

第六 衣服、器具、敷物

傳染病患者ノ着用セル衣類臥具並ニ其病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他病毒汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ「カリ」石鹼又ハ綠石鹼（毛皮ニハ避クベシ）ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨若ハ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ第五條ニ掲クル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ

第七 家屋

患者ノ居室其ノ他ノ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スヘシ但土藏造、洋風建物等密閉



シ得ヘキ室内ニハ「フオルムアルデヒド」ヲ用井ルコトヲ得  
消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス  
第七ノ二 井戸、水槽等

傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量五十分  
ノ一生ノ石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上  
放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分間以上沸騰セシ  
ムヘシ

第八 瀛車

傳染病患者若クハ死體アリタル瀛車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ  
傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置  
スヘシ

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ

第九 船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ  
其他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭等適宜處置スヘシ  
船底水ニハ其ノ容量ニ百分ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後

汲出サシム

附 則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

○第五十三章 死亡診斷書及死産證書並檢案書

内務省訓令第二十八號

本年九當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スベキ死亡診斷  
書死體檢案書、及醫師又ハ産婆ノ作爲スベキ死産證書、死體檢案書ノ様式  
並ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

明治三十三年十月九日

内務大臣侯爵 西郷從道

第一 死亡診斷書、死體檢案書

様 式

死亡診斷書(死體檢案書)

- 一 氏名
  - 二 男女ノ別
  - 三 出生ノ年月日
  - 四 職業 死亡者ノ職業  
家計ノ重ナル職業
  - 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
  - 六 病名 (自殺者ニ 手段 自殺以外ノ變死者ノ種類  
在テハ) 及中毒者ニ在テハ)
  - 七 發病年月日 (變死者自殺者等ニ  
在テハ之ヲ除ケ)
  - 八 死亡ノ年月日
  - 九 死亡ノ場所
- 右證明(檢案)候也

住 所

醫 師 何

某 印

記載方

一 戶籍上ノ氏名ヲ記スベシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラ

ザルトキハ不詳ト記スベシ

二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラザルトキハ不詳ト記スベシ

三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラザルトキハ推定年齢

何歳ト記シ若シ推定シ能ハザル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ

四 死亡者ノ家計 主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記

シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テ

ハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スベシ又死亡者一

定ノ職業アルモ他家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト

家計ノ主ナル職業ト併記スベシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成

ルベク細密ニ記スベシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラザル場合ニ於テハ不詳ト記ス

ベシ

五 病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ

別ヲ記スベシ

六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記

スベカラズ

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スベシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハザルトキハ各種ノ病名ヲ併記スベシ全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハザルトキハ不詳ト記スベシ自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之バ縊死及傷入水等ノ別ヲ明記スベシ

自殺以外ノ變死者中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒アルコト中毒等ノ別ヲ記スベシ

七 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スベシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定何年何月何日ト記スベシ又全ク推シ能ハザル場合ニ於テハ不詳ト記スベシ

八 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ變死ノ年月日時ヲ記スベシ若シ自殺者、變死者等ニ在テハ死亡ノ時明瞭ナラザルトキハ推定セル年月日時ヲ記スベシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九 死亡ノ場所ハ郡市區町村大字及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スベシ若シ自殺者、變死者此等ニシテ漂着セル死體ナルトキハ其漂着シタル場所ヲ明記スベシ此場合ニハ其下ニ漂着ト記スルヲ要ス

第二 死亡證書死胎檢案書  
樣式

死產證書(死胎檢案書)

一 父ノ氏名 (私生子ノ場 母ノ氏名)  
合ニ在テハ

二 父ノ出生ノ年月日 (私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)

三 母ノ出生ノ年月日

四 父ノ職業 (私生子ノ場 母ノ職業)  
合ニ在テハ

五 妊娠ノ月數

六 分娩ノ年月日

七 分娩ノ場所

八 死胎ノ男女ノ別

九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年 月 日

醫師(產婆) 住 所 某 印

記載方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スベシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スベシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スベシ  
總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルベク細密ニ記スベシ
- 五 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト見做シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スベシ
- 六 分娩ノ年月日ヲ記スベシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スベシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 七 分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スベシ

- 八 死胎ハ男女孰レニ屬スルカヲ記スベシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハザル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スベシ
- 九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スベシ

○第五十四章精神病患者監護法

(明治三十三年三月九日法律第三十八號)

- 第一條 精神病患者ハ其ノ後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戶主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得ザル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スベキモノ、順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルヲ得
- 第一 後見人
- 第二 配偶者
- 第三 親權ヲ行フ父又ハ母
- 第四 戶主

第五 前各號ニ掲ゲタル者ニ非ラザル四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ  
選任シタル者

第二條 監護義務者ニ非ラザレバ精神病者ヲ監置スルコトヲ得ズ

第三條 精神病者ヲ監置セントスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クベシ

但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於  
テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ

前項假監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ

行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇  
年内ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁  
治產者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ届出ベシ

第四條 精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間  
内ニ行政廳ニ届出ベシ

第五條 監置シタル精神病者治癒シ死亡シ若ハ行方不明トナリタルトキ  
又ハ其ノ監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ベシ

第六條 精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護

義務者其義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所  
地、住所地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長又ハ勅  
令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルハ監置ノ許可ヲ  
取消シ監置ノ廢止ヲ命ジ又ハ監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命ズルコト  
ヲ得

監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ其ノ廢止ヲ命ゼラレタル者監置ヲ廢止セザ  
ルトキハ行政廳ハ直接ニ監置ヲ廢止スルコトヲ得

第八條 精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行  
政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラズ監護義務者ヲ指定シ之ガ監置ヲ命  
ズルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者  
ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス  
市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義  
務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキ亦前項ニ同ジ  
本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命ゼラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セ  
ザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スベシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ズ

第九條 私宅監置室公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

私宅監置、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之カ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行旅死亡人取扱ノ規定ヲ準用ス

第十一條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法

處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

第十六條 左ニ掲クル者ハ一年以上ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

- 一 詐僞ノ行爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虛僞ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者
- 二 醫師精神病者ノ診斷書ニ虛僞ノ事實ヲ記載シ又ハ自ラ診斷セスシテ診斷書ヲ授與シタル者

前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第十七條 左ニ掲クル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

一 許可ヲ受ケス又ハ届出ヲ成サス若ハ命ヲ受ケスシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタル者

二 禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者

三 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタル者

第十八條 左ニ掲クル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 精神病者ノ監置ニ關シ虚偽ノ事實ヲ記載シタル願届其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者

二 監護義務ヲ履行スヘキ順位ニ在ラサル者ニシテ許可ヲ受ケス又ハ

命ニ依ルニ非スシテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者

三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若クハ檢診ヲ拒ミ又ハ其尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者

第十九條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命セラレ其命ヲ履行セサル者

二 監護義務者精神病者ノ監置ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者

三 第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者

第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ仍ホ之ヲ繼續セシメントスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘシ

第三條ノ許可ヲ受ケス又ハ届出ヲ爲サスシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處斷ス

本法中市町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セサル地ニ在リ  
テハ市區町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第二十二條 外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノ  
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 人事訴訟人手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於  
テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命シタル場合ニ關シテハ本法ノ  
規定ヲ適用セス

○第五十五章 精神病者監護法施行規則

(明治三十三年六月二十八日內務省令第三十五號)

第一條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變  
更シタルトキハ關係者ハ七日內ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官  
ニ届出ヘシ

第二條 精神病者監護法第一條第二項第五號ニヨリ監護義務者ヲ選任シ  
タルトキハ親族會ハ七日內ニ警察署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ

第三條 精神病者監護法第三條ニヨリ精神病者ヲ私宅病院其ノ他ノ場所  
ニ監置セントスルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ヲ

經テ地方長官ニ願出又ハ届出ヘシ

第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警  
察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セ  
ス

第四條 精神病者ヲ監置セントスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クル  
ノ暇ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官ニ届  
出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日內ニ前條ニ依リ更ニ地方長官  
ニ願出ヘシ

第五條 前二條ノ願出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ  
記シ若シ私宅監置室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添  
付スヘシ

第六條 本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日內ニ  
地方長官ニ監置ノ願出ヲ爲サ、ルトキ又ハ地方長官ニ於テ願出ニ對シ  
不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與ヘタル許可ハ取消サレタ  
ルモノトス



第七條 精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案ヲ添フルコトヲ要セス

本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 私宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應シ相當ノ構造設備ヲ爲シ之ヲ管理スルコトヲ要ス

第九條 府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置セントスルトキハ其構造設備及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十條 精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フベシ

第十一條 精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二條 精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ內務大臣地方長官又ハ警察官署之ヲ行フ

第十三條 本則第九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○第五十六章 精神病者監護法第六條及第八條

第三項ニ依レル監護ニ關スル件

(明治三十三年六月二十九日勅令第二百八十二號)

第一條 精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日內精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ經サルモ七日內假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ

附錄

精神病者監護法第六條及第八條第三項 一〇五七  
ニ依レル監護ニ關スル件

第二條 精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ  
市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更セントスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ變更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ヘシ

第四條 市區町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施

設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○第五十七章 種痘法

(明治四十二年四月十二日法律第三十五號)

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此限ニ在ラズ

- 一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フベシ
- 二 第二期數ヘ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フベシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條 左ニ掲グルモノハ未成年ノ生徒、院生若クハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其義務ヲ履

行セシムベシ

- 一 學校、育兒院又ハ之ニ準ズベキ場所ノ校長、院長、ソノ他首長
  - 二 教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者
- 前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ザルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムベシ

前項ノ期限内ニ其手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長區長ヲ以テ  
戸籍史ニ充  
ツルニ於テハ區  
長以下之ニ準スニ届出ツヘシ

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖モ前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スベシ

第七條 疾病其他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受

ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其證ヲ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戸籍吏ハ戸籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナルモノ定期外ニ受ケタル者又ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其定期種痘ト看ナス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムベシ但シ其期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ  
第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ハ收採スルコトヲ得

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條 醫師ハ其診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘濟證ヲ又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハコノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキノ範圍及ビ期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得  
臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師虚偽ノ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及ビ官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及ビ第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモノノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘數ヘ歳八歳以後ニ種痘ヲ受

ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

○第五十八章 種痘法施行規則

(明治四十二年十二月廿一日內務省令第廿六號)

第一條 市町村長

區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ市町村長ニ準ズベキモノヲ含ム以下之

ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スベシ

一 前年中出生ノ者

二 數ハ歲十歲ノ者

三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官 東京府ハ警視總

監以下之ニ做フ ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ

種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スベシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スベシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシムベシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布埜利亞

格魯布ヲ含ム

丹毒、麻疹、百日咳ノ

患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又

ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フベシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ

事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受

ケシムベシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遅クモ次回ノ種

痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スベシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケザルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フ

ベシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ

之ヲ指定スベシ

第八條 種痘濟證、種痘證及種痘猶豫證ハ附錄様式ニ據ルベシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戸籍吏ニ通知スヘシ

一 第一期種痘善感シタル者

二 第二期第二回ノ種痘不善感ナル者

三 第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戸籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條

ニ依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者ガ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官又ハ市町村吏員ノ請求アル場合

ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セザルコトヲ證明スル者ハ種痘濟證ヲ提示スルコトヲ要セズ

一 痘瘡經過

二 種痘猶豫

三 小學校之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

四 第一期種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戸籍謄本又ハ抄本

五 市町村長ノ證明書

六 種痘又ハ痘瘡ノ癍痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ痕跡

第十三條 地方長官ハ臨時種痘ヲ命ゼントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ施行ス（様式ハ略ス）

又同法ニ依ル施術心得ハ、同日内務省告示第百七十九號ヲ以テ、左ノ通り改正セリ

○第五十九章 種痘施術心得

（同日内務省告示第百九十七號）

第一條 種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用フヘシ

第二條 痘苗ハ冷暗所(氷室、地下室又ハ深井内等)ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル期間内ニ之ヲ使用スヘシ

第三條 種痘ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フヘシ  
痘苗ハ之ヲ稀釋スヘカラス

第四條 痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ漿盤上ニ出シ能ク之ヲ攪拌混和スヘシ

第五條 痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス

接種ニ臨ミテハ先ツ局所ヲアルコホル又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ消毒シ次ニ滅菌シタルガーゼ又ハ脫脂綿ヲ以テ丁寧ニ之ヲ拭淨スヘシ

第六條 種痘ノ場所ハ相當廣濶ニシテ清潔ナル場所ヲ撰ヒ其ノ換氣、採光煖室ニ注意スヘシ

第七條 施術者ハ成ルヘク上衣ヲ着シ且豫メ手指ヲ消毒スヘシ

第八條 漿盤及種痘針使用ニ先チ「アルコホル」又ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタルガーゼヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ適當ナル他ノ消毒方法ニ依ルモ妨ナシ  
種痘針ハ受痘者人毎ニ前項ニ依リ之ヲ處置スヘシ

第九條 接種ノ方法ハ切種式ニ依ルヘシ即チ局部ノ皮膚ヲ緊張シ相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切(長サ一分乃至二分)若ハ單線切(長サ約二分)ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スヘシ  
切種ニ際シテハ成ルヘク出血セサル様注意スヘク僅ニ紅痕ヲ呈スルヲ以テ適度トス

第十條 接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右上膊四切乃至六切、第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ他ノ部位ニ接種スルモ妨ナシ

第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康狀態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ニハ成ルヘク種痘ヲ猶豫スヘシ但シ第四號ヲ除ク外痘瘡流行ノ場合ハ此ノ限ニアラス

- 一 出生後九十日未滿ノ者
- 二 著シク榮養障礙ニ陥レル者
- 三 蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
- 四 熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者

第十二條 檢診ノ場合ニ依テ注意スヘキ要項左ノ如シ

- 一 定型痘顆粒二以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘以後ニアリテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水泡ヲ生シタルモノモ亦善感トス
  - 二 接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生シタルモノ潰瘍ニ陥リ又ハ痂皮ヲ結ヒタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス
- 第十三條 施術者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其ノ保護者ニ對シ種痘後注意スヘキ事項ヲ指定スヘシ

○第六十章 藥品營業並ニ藥品取扱規則追加

內務省令第四號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ依リ明治二十五年三月當省令第二號毒藥劇藥品目中劇藥ノ部「ゴツホ氏ツベルクリン」トアルヲ「ツベルクリン」ト改メ「ゴツホ氏新ツベルクリン」ノ次ヘ左ノ通追加シ明治三十六年三月一日ヨリ施行ス

明治三十六年六月二十四日 內務大臣 男爵 内海 忠勝

ヂフテリア血清 破傷風血清 ジウレチン 鹽酸ヘロイン

○第六十一章 痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

內務省令第五號

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則左ノ通定ム

明治三十四年六月二十四日 內務大臣 男爵 内海 忠勝

痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則

第一條 痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ製造セ

ムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

- 一、製造所ノ名稱及位置
  - 二、製造品ノ種類、製造ノ方法、有効期限、販賣價格
  - 三、製造所ノ建物畜舎ノ構造、敷地ノ坪數及圖面
  - 四、所長及主任技術者ノ氏名履歷
- 前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可

附錄

藥品營業並ニ藥品取扱規則追加 痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品製造取締規則



ヲ受クベシ

第二條 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ本則ノ認可ヲ取消スルベシ  
第三條 本則施行ノ際痘苗及血清其他細菌學的豫防治療品ヲ販賣ノ目的  
ヲ以テ製造スルモノハ本則施行ノ日ヨリ四ヶ月内ニ本則ニ據リ認可ヲ  
受クベシ

第四條 本則ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下  
ノ重禁錮ニ處ス

第五條 本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ施行ス

第六條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○第六十二章 學校醫職務規程

(明治二十三年三月二十六日文部省令第五號)

第一條 學校醫ハ本令ニ規定アルモノ、外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生  
ニ關スル職務ニ從事ス

第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ至リ衛  
生上ノ事項ヲ視察スベシ  
學年ノ終及始メニ於テハ特ニ該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス

第三條 學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スベ  
シ

- 一 換氣ノ良否
  - 二 採光ノ適否
  - 三 机腰掛ノ適否
  - 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
  - 五 煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離
  - 六 室内ノ温度
  - 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
  - 八 學校清潔方法實行ノ情況
  - 九 飲料水ノ良否
  - 十 其ノ他衛生上ニ必要ナル事項
- 第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其  
病症ニ依リ缺課休校又ハ療治ヲサシムベキヲ學校長ニ申告スベシ
- 第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規定ニ  
依リ生徒ノ身體ヲ檢查シ身體檢查票ヲ調製スベシ

學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應ジ其生徒ノ身體ヲ  
検査スベシ

第六條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルト  
キハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其狀況ニ依リ學  
校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校  
長ニ申告スベシ

通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校  
ヲ禁ズベキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スベシ

第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ  
申告スベシ

第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

○第六十三章 學生生徒身體検査規程

(明治三十三年文部省令第四號)

第一條 學生生徒ノ身體検査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スベシ

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カザル

場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ但シ學校醫ヲ置カザ  
ル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スベシ

一身長、 二體重、 三胸圍、 四脊柱、 五體格、 六視力

七眼疾、 八聽力、 九耳疾、 十齒牙、 十一疾病

小學校ニ在リテハ視力聽力ノ二項目ヲ検査スルコトヲ要セズ、但シ著  
シキ障害アリト認ムルモノハ此限ニアラズ

第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スベシ

一 検査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可  
トス

二 検査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一  
位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルベシ

三 身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩  
上肢ヲ鉛直シテ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬚アル  
者ハ小髯ヲ鬚下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ

- 四 體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ却去スヘシ
  - 五 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニアラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ當時ヲ測定スベシ充盈空ノ虛差ヲ測定スルキ亦同シ但小學校生徒ニアリテハ常時ノミヲ測定スル者トス
  - 六 脊柱ハ正、左彎、右彎、後屈及屈彎ノ程度ヲ検査シ強中弱ノ三種ニ區別スベシ
  - 七 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
  - 八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キ各別ニ検査スヘシ
  - 九 聽力ハ其障害ノ有無ヲ検査スヘシ
  - 十 齒牙ハ齶齒ノ有無ヲ検査スヘシ
  - 十一 疾病ハ腺病、榮養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、衄血、神經衰弱其他慢性疾病等ノ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ
- 前各號ノ外身體検査上必要ト認めタル事項ハ特ニ検査ヲ行フヘシ
- 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體検査票ヲ調製スヘシ

身體検査票 (男女)

校名 (何科)		検査番號		姓名		出生年月		身長		體重		胸圍		胸圍常時		胸圍盈虛差		脊柱		體格		検査年月			

出生地	學年	視力		眼疾	聽力	耳疾	齒牙	疾病	備考	検査醫姓名印
		右	左							

校名學生々徒身體檢查統計表 (男) 明治年月日檢查

年	何			年	何			年	身		胸圍	脊	柱	體格	視		眼	力	疾	病	總備																																								
	平均	最小	最大		平均	最小	最大		長	身					左眼	右眼																																													
									常	虛					強	中	弱	強	中	弱	健	等	弱	視	正	視	正	視	遠	視	近	視	正	視	遠	視	近	疾	者	ル	ア	障	ニ	力	聽	疾	者	ル	ア	齒	齶	者	キ	ナ	齒	齶	疾	病	員	人	考

一本表ノ年齢ニ於テ何年ト稱スルハ一箇月ヨリ十二箇月ニ至ル迄ヲ云フ例ヘハ七年ト稱スルハ六年一箇月以上滿七年迄ヲ指スカ如シ

一本表ノ平均ハ最大最小ノ平均ニアラス總數ノ平均ナリ本表ハ男生徒女生徒ヲ置クモノ及學科ノ部類ヲ異ニスルモノハ各別ニ調製スベシ  
一 檢查スベキ科目ノ全部ヲ檢查セサルモノハ表中之ヲ記入スベカラズ

第七條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限リ文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其他ノ學校長ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ  
地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其年六月限リ文部大臣ニ報告スヘシ  
第八條 幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身體檢查ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○第六十四章

日本帝國自明治四十年最近公私立小學校中學校  
文部省第三十二號報至四十一年高等女學校師範學校等 體格檢查成績表

(一) 公立私立小學校兒童身長體重胸圍各體格年齡別(男)  
成績表

年 齡	檢 查 人 員	平 均 身 長	平 均 體 重	平 均 胸 圍	體 格		
					強 健	中 等	薄 弱
十	八二、〇二四	一〇六、五	一七、四	五四、〇三八	六四、二四六	〇一五	六、三六七
九	八五、六二五	一〇〇、四	一九、〇	五五、六三一	三二六四八	〇〇四	六、二九四
八	八四、六四四	一〇五、〇	二〇、九	五七、六三二	三九八四六	六五	五、五九五
七	八三、一八〇	一〇〇、〇	二〇、九	五九、四二七	三七七、六二	六二	四、六二〇
六	六九、九八五	九四、五	二〇、七	六一、五二七	三五七、六二	六二	四、六二〇
五	五〇、〇二六	八八、五	一九、〇	六三、四二五	三三三、八三	八三	四、〇六九
四	三一、二二五	八三、八	一九、五	六五、三二二	二九二、五	八七	三、〇二八
三	一六、九六六	七九、九	一八、八	六七、四二四	二二五、〇六	九	一、八一五
二	一、一七五	七五、〇	一八、四	六八、〇	一四、二	〇六	一、三六一
一				七一、七	六四、五	〇	七〇

(二) 公私立小學校兒童身長體重胸圍各體格年齡別(女)

年 齡	檢 查 人 員	平 均 身 長	平 均 體 重	平 均 胸 圍	體 格		
					強 健	中 等	薄 弱
十	七四、一〇六	一〇五、四	一六、八	五三、四三四	三六八四三	三三九	六、四九九
九	七七、五七七	一〇九、七	一八、四	五四、二二五	四一五四五	五三四	六、六二八
八	七五、六八四	一一四、二	二〇、一	五五、七三五	九六四三	七九六	五、九三二
七	七二、二六〇	一一八、〇	二二、九	五七、五二六	二四〇三九	六七三	五、四四八
六	四七、七三三	一二三、二	二四、二	五九、二二七	二四二六	九三三	三、六八七
五	三六、三八〇	一二八、一	二六、八	六一、二二三	六〇三〇	〇七〇	二、六五〇
四	二五、四二七	一三三、六	三〇、三	六三、六一〇	一〇一三	五〇九	一、八一七
三	一五、六三七	一三八、一	三三、五	六六、五七	七、二六	七、四九一	一、〇二〇
二	三、一三〇	一四七、〇	三六、二	六八、八一	一、六九	一、三四〇	一、七七一
一				七一、一	三七	一七九	三二

(三) 中學校 (男)

年齡	人員	檢查	身長	體重	體格			視力		胸圍
					強健	中等	薄弱	左眼	右眼	
十三年	六〇	二五	三七	九	三	七	〇	二	七	〇
十四年	一四	九〇	五二	四二	八	三	五	八	七	六
十五年	二〇	三四	三二	四八	一	三	九	六	〇	〇
十六年	一九	六五	二五	三三	五	四	三	六	二	二
十七年	六	六一	二五	六	七	四	八	三	三	四
十八年	一三	〇五	一五	九	〇	四	七	三	三	七
十九年	七	〇七	一六	〇	五	三	四	六	九	一
二十年	二	九五	一六	〇	五	三	一	〇	一	〇
二十一年	一	四三	一六	〇	五	三	一	〇	一	〇
二十二年	四	三	一六	〇	四	五	四	一	〇	一

(四) 公立私立高等女學校生徒身長體重胸圍體格視力年齡別 (女)

年齡	人員	檢查	身長	體重	胸圍	體格			視力				
						強健	中等	薄弱	兩眼	左眼	右眼	近視	
十三年	三	四七	二七	五	三	三	〇	三	三	一	一	一	一
十四年	六	三九	二四	〇	三	六	一	六	三	九	四	一	三
十五年	七	六六	一四	四	七	三	九	七	五	二	四	一	五
十六年	六	八三	二四	六	七	四	五	五	二	四	一	四	五
十七年	三	九八	二四	八	四	五	七	二	三	三	一	三	三
十八年	一	六二	二四	八	四	五	七	一	二	三	一	二	三
十九年	四	九七	一四	八	四	七	一	六	三	四	一	三	三
二十年	一	五二	一四	七	四	八	二	七	三	四	一	三	三

(五) 師範學校生徒身長體重胸圍體格視力年齡表(男)

年齡	檢查人員	身長	體重	胸圍	體格			視力												
					健	中	弱	兩眼	左	右	眼									
十六年	六七	一五七、七	四八、九	七八、二	三〇	三五	二	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十七年	九三	一五七、八	四九、八	七九、〇	五三	四六〇	二〇	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十八年	一三九	一五九、四	五三、二	七八、九	一〇八	八二〇	三	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十九年	一五七	一六〇、六	五三、二	七九、八	一〇六	九三三	三七	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十年	一七九	一六一、一	五四、六	八二、二	八七九	八八四	三三	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十一年	一八九	一六〇、三	五四、八	八三、六	一、三五九	六二九	一九	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十二年	一〇〇	一六〇、九	五五、五	八三、八	七二六	二九二	三	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十三年	四四	一六〇、四	五五、三	八三、二	三二六	二二二	四	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十四年	九三	一六〇、〇	五六、二	八四、三	六九	二二	八	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十五年	一七	一五九、四	五四、六	八一、三	一九	八	二	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視

(六) 師範學校(女)

年齡	檢查人員	身長	體重	胸圍	體格			視力												
					強健	中等	薄弱	兩眼	左	右	眼									
十五年	二五	一四七、六	四三、七	七五、三	八〇	四四	一	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十六年	七六	一四七、一	四五、一	七五、六	四三	三三	五	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十七年	一二	一四八、七	四八、一	七八、五	七二	四三	七	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十八年	七五	一四八、二	四八、七	七八、七	四八九	二六九	一	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
十九年	二九	一四七、八	四八、九	七九、三	二〇二	八九	二	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十年	九〇	一四八、九	四七、七	七八、六	五七	三三	一	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十一年	四二	一四八、一	四七、七	七九、〇	三四	一六	一	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十二年	三二	一四八、三	四七、二	七九、二	八	三	一	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十三年	一三	一四七、三	四九、〇	八一、三	〇	三	一	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視
二十四年	一〇	一四七、六	四六、九	七七、七	六四	三九	六	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視	正視

○第六十五章 學校清潔方法

(明治三十年十一月 文部省訓令第一號)

清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一 教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤シ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具學具等ヲ拭フヘシ、但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤スハ生徒ノ再ヒ之ニ入ル迄テニ充分ニ乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 二 教室及寄宿舎ハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシム可ラス紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 三 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用井ル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラザルコトヲ務ムヘシ
- 四 靴ノ儘昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フヘシ

五 寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯スヘシ

六 便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圍所ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ樋箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ

七 尿壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿俺酸加里、粗製格魯兒滿俺(以上乃至三)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラス汲取ラシムヘシ

八 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルベカラズ殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ

九 芥棄場ノ不潔物ハ愆ラズ搬送セシムベシ

十 下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フベシ

十一 庭園、體操場、遊戲場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ



定期清潔方法

定期清潔方法ハ每年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス

- 十二 先ツ教室、寄宿内舎等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓掛等ヲ外シ敷物ヲ剥キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁牀板、廊下等悉ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱鹵汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スベシ
- 十三 簷下、牀下等モ手ノ届ク限り之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スベシ
- 十四 寢具、窓掛、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ得ベカラザルモノハ先ツ其塵ヲ拂ヒ書籍文具ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ
- 十五 器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムベシ

十六 牀板、壁面等ニ虧隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ

十七 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥棄場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙 浸水後清潔方法

洪水ノ爲メ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

十八 水ニ浸サレタル校舎殊ニ寄宿舎ノ建築牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニヨリテハ焚火火鉢等ヲ用井テ乾燥セシムヘシ

十九 建具、牀板、校具、腰掛等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ

二十 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スベシ、但開校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スベシ

二十一 右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スベシ

○六十六章 學校傳染病豫防及消毒方法

(明治三十一年九月二十八日 文部省訓令第二十號)

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類

甲 痘瘡及假痘、實布埤利亞、猩紅熱、發疹瘰扶斯、ペスト

乙 百日咳、麻疹、流行性感冒、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、肺

結核、癩病、

第二類

赤痢、虎列刺、腸窒扶斯、

第三類

傳染性皮膚病、傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又ハ第二條ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコトヲ得ス

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全

身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキヲ證明スルコトヲ要ス

第三條 第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラザレハ昇校スルコトヲ得ス

第四條 職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタルモノアルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者死體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラザレバ昇校スルコトヲ得ス

第五條 教員舍監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スベシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスベシ

第六條 學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニヨリ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一部ヲ閉鎖スベシ

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スベシ但シ第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨管理者ニ届ケ出ベシ

第九條 傳染病ノ爲メニ閉鎖シタル學校若クハ其舍室ハ再ビ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スベシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其死體排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑ヒアル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒法ヲ施行スヘシ、但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒法ヲ應用スベシ  
一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ死體、第一類ノ傳染病患者

ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル厠房其他障壁、牀、疊、建具、寢臺、器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ  
二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルベシ  
三 食器被服寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スベシ  
四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スベシ  
五 前各項ノ消毒ニ適セザルモノハ「フォルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルカ又ハ刷掃シ數日間日光ニ曝スベシ  
第十一條 消毒ニ供フル藥劑並其應用ハ左ノ如シ  
一 石炭酸水(二十倍) (結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十) (四分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ)  
本品ハ死體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用フヘシ  
二 生石灰末 (生石灰ニ少量ノ水ヲ灌キ崩壞セシメタルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ)  
本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用ユヘシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳(十倍) (生石灰一分ニ水千分ヲ攪拌混合シタルモノ)

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物等ニハ其分量ノ四分ノ一ヲ用フ

三 格魯兒石灰水(二十倍) (格魯兒石灰五分ニ水九十)

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スベシ

四 「フオルムアルデヒード」

「フオルムアルデヒード」ニ依リ消毒スルニハ消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フオルマリ」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フオルムアルデヒード」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但消毒函又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルヲ要ス若シ室ニ虧隙アルトキハ昇汞液中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ栓塞スヘシ

附則

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

第六十七章 肺結核豫防ニ關スル件

(明治三十七年二月四日内務省令第一號)

第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其ノ

他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當數箇ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若クハ其ノ箇數充分ナラスト

認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命ジ若クハ箇數ヲ指定シテ之

ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ

置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレバ投棄ス

ベカラズ

第二條 前條ノ場合ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコト

ヲ得ズ

第三條 地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル

旅店ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スベシ

一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

- 二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
- 三 肺結核患者若クハ其疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラザレハ他人ヲ宿泊セシメザルコト
- 四 前號ニ掲クル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラザレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條 病院ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スベシ

- 一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト
- 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラザレハ他ノ患者ヲ收容セザルコト
- 三 結核病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準ジ相當ノ措置ヲ爲スベシ

第六條 消毒方法ハ明治三十年五月內務省令第十三號ニ依ルベシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四

分ヲ使用スベシ

第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾壺ヲ配置セサル者警察官署ノ指定シタル期間ニ其命令ヲ履行セサル者同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其首長又ハ營業者ニ科ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其他ノ從業者法人ノ業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰金ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ妨ケス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

第六十八章

有害性著色料取締規則第二條野菜  
果實類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験  
方法

(明治三十七年十一月七日内務省令第十五號)

檢體五「グラム」ヲ磁製坩堝ニ取り熱灼シテ炭化セシメ冷後硝子棒ヲ以テ  
搗碎シテ粉末トナシ稀硝酸約五立方「センチメートル」ヲ注加シテ温浸シ  
「エルレンマイエル」硝子壘中ニ濾入シ濾紙上ノ殘留物ハ濾紙ト共ニ再ビ  
前ノ磁製坩堝ニ移シ乾燥シ熾灼シテ全ク灰化セシメ此殘灰ニ稀硝酸約二  
立方センチメートル「リ」ヲ加ヘ温浸シ濾過シ洗滌シ前ノ濾液ニ合シ「アムモ  
ニア」水ヲ以テ中和シタル後鹽酸ヲ性トナシ之ニ硫化水素ヲ通シテ充分  
飽和セシメ壘口ヲ寬ク栓塞シ約三時間温所ニ放置シ全ク沈底セル硫化銅  
ヲ濾紙上ニ採取シ硫化水素水ヲ以テ善ク洗滌シタル後乾燥シ濾紙ト共ニ  
前ノ磁製坩堝内ニ於テ灰化シ殘灰ヲ數滴ノ硝酸ニ溶解シ重湯煎上ニ温メ  
「アムモニア」水ヲ注加シテアルカリ性トナシ若シ必要アレバ濾過シ茲ニ

得タル澄明ノ液ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發シテ過剩ノ「アムモニア」  
ヲ驅逐シ中性反應ヲ呈スルニ至リ其中性液ヲ二百立方センチメートル  
ノ標線アル硝子壘ニ移シ硝酸「アムモニウム」溶液(硝酸「アムモニウム」百グ  
ラム)ヲ蒸餾水一「リ」ニ溶解シ其反應全ク中性ノモノ)二十立方セ  
ンチメートル「リ」ヲ注加シ水ヲ以テ全容量二百立方センチメートルトナス  
善ク混和シテ其二十立方「センチメートル」(原品〇、五グラム)ニ相當ス  
ヲ内徑約一、五センチメートルノ無色試験管ニ取り又別ニ前ト同一ノ試  
験管數個ニ標準銅溶液(純結晶硫酸銅液、三九二七「グラム」ヲ蒸餾水一  
「リ」ニ溶解シタルモノニシテ其ノ一立方センチメートル中、〇一ミ  
「リ」グラム)ノ純銅ヲ含有ス)若干立方センチメートルニ取り之ニ硝酸  
「アムモニウム」溶液一立方「センチメートル」ヲ加ヘ水ヲ以テ全容量二十立  
方「センチメートル」トナシタル後各試験管ニ新ニ製シタル黃色血鹵鹽溶  
液(用ニ臨テ黃色血鹵鹽一グラム)ヲ蒸餾水一「リ」ニ溶解シタルモ  
ノ)〇、五立方「センチメートル」ヲ加ヘ善ク混和シ十分時間内ニ白紙上ニ  
於テ上面ヨリ透視シ比色定量法ヲ行フベシ

第六十九章 痘苗血清類賣捌規則

附錄

有害性著色料取締規則第二條野菜果實  
類ノ貯藏品及昆布中銅ノ試験方法痘苗  
血清類賣捌規則

○内務省令第十六號

傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則左ノ通り定ム

明治三十八年六月十三日

内務大臣 子爵 芳川 顯正

○傳染病研究所痘苗、血清類賣捌規則

第一條 傳染病研究所ニ於テ製造賣捌ノ痘苗血清類左ノ各種トス  
痘苗

チフテリア血清

破傷風血清

ツベルクリン

第二條 前條ノ痘苗、血清類ヲ要スル者ハ傳染病研究所ニ賣渡ヲ請求スヘシ但シ血清「ツベルクリン」ノ請求者ハ醫師、藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

官衙、公署其他公共團體ニ於テ血清「ツベルクリン」ヲ要スルトキハ其ノ賣渡ヲ請求スルコトヲ得

第三條 外國ヨリ痘苗、血清類ノ請求アリタルトキハ内地ノ供給ヲ妨ゲサル限り之ニ應スルモノトス

第四條 痘苗、血清類ノ定價ハ左ノ如シ但シ運送費ヲ要セス

痘苗

チフテリア血清

液體チフテリア血清

第一號 一塚(六〇〇免) 疫單位 金六拾錢

第二號 一塚(一〇〇〇免) 疫單位 金一圓

第三號 一塚(一五〇〇免) 疫單位 金一圓五拾錢

乾燥チフテリア血清 一塚(五〇〇〇免) 疫單位 金五圓

破傷風血清

液體破傷風血清

第一號 一塚(一〇〇免) 疫單位 金七十五錢

第二號

乾燥破傷風血清  
 一壘 (四〇〇免) 金三圓  
 一壘 (一〇〇〇免) 金七圓五十錢  
 ツベルクリン  
 一壘 (方センチ) 金三圓  
 一壘 (メートル) 金三圓

第五條 市町村<sup>(之ニ準スヘキモノヲ含ム)</sup>ニ於テ施行スル種痘ニ要スル痘苗ノ代價ハ前條定價ノ半額トス  
 外國ヨリノ請求ニ係ル痘苗ハ清韓兩國ニ在リテハ其ノ代價ヲ前條定價ノ二倍其ノ他ノ國ニ在リテハ六倍トシ血清ツベルクリンハ總テ其ノ代價ヲ同定價ノ二倍トス  
 藥劑師<sup>(現ニ藥品營業ヲ爲スモノ)</sup>藥種商ニハ痘苗、血清類ヲ通シテ特ニ前條定價ノ一割ヲ減シ賣渡スヘシ  
 傳染病研究所長ハ特別ノ事情アリト認ムル者ニ限り内務大臣ノ認可ヲ經條件ヲ附シテ痘苗、血清類ノ定價ノ幾分ヲ減シ之ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ代價ハ前條定價ノ半額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 痘苗、血清類ノ代價ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ官衙及外國ヨリノ請求ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス  
 第七條 痘苗、血清類請求數量ニ對シ納付ノ收入印紙ニ過不足アルトキハ印紙相當ノ數量ヲ送付スルモノトス但シ一具若ハ一壘ノ代價ニ滿タサル端數ハ切捨トス  
 第八條 傳染病研究所長ハ腸窒扶斯血清、赤痢血清、虎列刺血清、ペスト血清、飯匙蛇毒血清、連鎖球菌血清、丹毒治療液ヲ相當代價ヲ以テ血清類ニ關スル本則ノ規定ニ準シ賣渡スコトヲ得

附則

第九條 本則ハ明治三十八年六月二十日ヨリ施行ス  
 第十條 明治二十九年內務省令第八號痘苗賣下規則及同三十五年内務省令第十五號血清賣下規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第七十章 醫師法

法律第四十七號(明治三十九年五月一日)  
 醫師法



第一條 醫師タラントスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 帝國大學醫科大學醫學科又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 醫師試験ニ合格シタル者

三 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業生又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學校ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 公權停止中ノ者

三 未成年者、禁治産者、准禁治産者、聾者、啞者及盲者

第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニ

ハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 内務省ニ醫籍ヲ與ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登録ス

登録スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス

但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 醫師ハ診療簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醫師ハ醫師會ヲ設定スルコトヲ得

醫師會ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第九條 醫師會ハ醫師衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得

第十條 醫師法第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取

消スヘシ醫師禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ  
 若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ  
 停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ  
 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ第二條第三號ノ原因正々タルトキ  
 又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ  
 本條ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ第二項第三項後段ノ場合ニ於テハ  
 中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス  
 第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル  
 者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者  
 ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖モ仍ホ其効力  
 ヲ有ス

本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、縣府醫學校ヲ卒業  
 シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セサルモ免許ヲ與フルコトアル

ベシ

本法施行前醫術開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖モ醫業ヲ爲ス  
 コトヲ得但シ免許地域外ニ診察所治療所又ハ其出張所ヲ設クルヲ得  
 ス前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第三項ノ規定ヲ適用セス醫術開  
 業試験規則ニ依リ醫術開業試験ヲ舉行ス

前項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト見做ス

〇七十一章 醫師法第一條第一項第三號ニ依リ

免許ヲ與フル者ニ關スル件

勅令第二百四十四號(明治三十九年九月十一日)

第一條 醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ與フル者左ノ如シ

- 一 內務大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ醫師免許ヲ  
 得タル者ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル資格ヲ有スル者
- 二 外國醫學校ノ卒業證書又ハ外國ノ醫師免許證書ヲ有スル帝國臣民  
 ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

第二條 前條第一號ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ醫師ニ對シ試験ヲ要セス

附 錄

醫師法第一條第一項第三號ニ依リ免許ヲ  
 與フル者ニ關スル件 醫師法施行規則 一一〇七

醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ要ス

〇七十二章 醫師法施行規則

內務省令第二十七號

醫師法施行規則左ノ通定ム

明治三十九年九月三日

內務大臣 原 敬

醫師法施行規則

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條

第二項規則ノ資格竝ニ住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戶籍謄本ヲ添

ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

第二條 醫籍ニ登録スヘキ事項左ノ如シ

一 登録番號及登録年月日

二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)氏名生年月日女子ナルトキハ其

ノ旨

三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得

シタル年月

四 免許ノ取消營業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二號ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ

記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ

醫籍訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證

ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコ

トヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内

ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提

出スヘシ

第五條 第一條第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅又ハ手数料ニ相

當ナル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登録稅又ハ手數料ハ之ヲ還付セス

第六條 醫師醫籍登録ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヅヘシ

第八條 醫師自己又ハ他人ノ診察所若ハ其出張所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキハ亦同シ但シ其ノ移動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ  
官立又ハ私立ノ病院ニ於テ診察治療ニ從事スル場合ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ內務大臣ニ具申スヘシ

第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

- 一 醫籍ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ

一 免許證再下附ノトキ  
 一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ  
 第十五條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項第七條及  
 第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十六條 第九條 第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ  
 貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第四十七條醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○第七十三章 醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定

內務省令第三十號

明治三十九年勅令第二百四十四號第一條第一號ニ依リ左記外國ヲ指定ス

明治三十九年九月二十七日

內務大臣 原

敬

大不列顛國

○第七十四章 醫師會規約則

內務省令第三十三號

醫師會規則左ノ通定ム

明治三十九年十一月十七日

內務大臣 原

敬

醫師會規則

第一條 醫師會ハ郡市區醫師會及道府縣醫師會トス

本會ニ依リテ設立シタル醫師會ニ非ラサレバ前項ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條 郡市醫師會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ會員ト爲ルヘキ者十人以上發起人ト爲リ會則案ヲ作り其ノ會員ト爲ルヘキ者ノ總會議ニ付スヘシ

前項ノ總會議ハ會員ト爲ルヘキ者ノ全員三分ノ二以上出席出席員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ラサレバ議決ヲ爲スコトヲ得ス

會員ト爲ルヘキ者百人以上ニ及フトキハ總會議ニ出席スル者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委任者ヲ出席員ノ數ニ加算ス

第三條 郡市醫師會設立ノ議決ヲ經タルトキハ發起人ハ會則ヲ添ヘ地方

附則

醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定

長官ノ認可ヲ請フヘシ  
地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ郡市醫師會設立ノ旨ヲ告示スヘシ

第四條 道府縣廳内ノ三分一以上ノ郡市ニ於テ郡市醫師會設立ニ至リタルトキハ道府縣醫師會ヲ設立スルコト得

第五條 道府縣醫師會ヲ設立セムトスルトキハ郡市醫師會協議シ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ會則ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於ケル郡市醫師會ノ同意ハ各其ノ總會ニ於テ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ本條ノ認可ヲ爲シタルトキハ道府縣醫師會設立ノ旨ヲ告示スヘシ

第六條 郡市醫師會總會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル議員ヲ以テ組織スルコトヲ得

道府縣醫師會總會カ郡市醫師會ニ於テ選舉シタル議ヲ以テ組織ス

前二項ノ場合ニ於テ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ醫事衛生ニ關シ學識又ハ經驗アル者ニ就キ議員總數五分ノ一以内ノ特別議員ヲ命スルコ

トヲ得

特別議員ハ總會ニ出席シ議事ニ參與シ議決ニ加ハルモノトス但シ會則ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限りニ在ラス

第七條 醫師會ハ其ノ總會ノ議決ニ依リ之ヲ解散スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ議決ハ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス

第八條 官立若ハ公立ノ病院ヲ除ク外自己又ハ他人ノ診察所治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ニ従事スル醫師ハ總テ其ノ所在地ノ郡市醫師會ノ會員トス

前項以外ノ醫師ト雖モ會則ノ定ムル所ニ依リ醫師會會員ト爲ルコトヲ得

地方長官ハ必要ト認ムルトキハ前二項以外ノ醫師ニ對シ醫師會加入ヲ命スルコトヲ得

第九條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣内ニ在ル郡市醫師會ノ全部ヲ以テ組織ス

附則

醫師法ニ依リ免許ヲ與フル國指定  
醫師會規則

第十條 郡市醫師會ハ會員中醫師法ニ第二號第三號ニ該當シ又ハ業務ニ關シテ不正ノ行爲アリテ免許取消又ハ醫業停止處分ヲ必要ト認ムルトハ其人意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

郡市醫師會ハ會員中免許取消又ハ醫業停止處分ヲ受ケムトスル者アル場合ニ於テ辨疏ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事實ヲ內務大臣ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條第三號ニ核當スル者アリト認ムルトキ亦同シ

第十一條 郡市醫師會會則ニハ會則ニ違背シタル會員ニ對シ百圓以下ノ過怠金ヲ徵收スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命スルコトヲ得

第十三條 醫師會ノ費用ハ郡市醫師會ニ在リテハ會員ノ負擔トシ道府縣醫師會ニ在リテハ郡市醫師會ノ負擔トス

第十四條 ノ醫師會會則ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
前項ノ外醫師會ノ議決ニシテ届出又ハ認可ヲ要スルモノハ地方長官之  
決定ム

第十五條 醫師會ノ議決ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認  
ムルトキハ地方長官ハ其ノ議決ヲ取消シ又ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ議  
決ノ改選若ハ醫師會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

役員ノ行爲ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ  
地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ解職ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ解職セラレタル者ハ三箇年間役員ト爲ルコトヲ得ス

第十六條 北海道沖繩縣及島嶼ニ關シ別段ノ規定ヲ要スル者ハ地方長官  
之ヲ定ム

第十七條 土地ノ狀況ニ依リ二以上ノ郡市ニ於ケル醫師共同シ醫師會ヲ  
設立スルコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ第二條及第三條ノ手續ニ準シ道府縣醫師會ヲ設立ス  
ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市醫師會ハ解散スルモノトス  
前項ノ場合ニ於テハ道府縣醫師會ノ支部ヲ置クコトヲ得  
本令中郡市醫師會ニ關スル規定ハ本條第一項ヲ除クノ外之ヲ本條第二  
項ノ醫師會ニ適用ス

第十八條 東京市、京都市、大坂市ニ於テハ區醫師會ヲ設立シ區醫師會

協議シ第四條及第五條ノ規定ニ準シ市醫師會ヲ設立スルコトヲ得  
 第二條及第三條ノ手續ニ依リ市醫會設立ニ至リタルトキハ前項ノ區醫  
 師會及市醫師會ハ解散スルモノトス此ノ場合ニ於テハ市醫師會ノ支部  
 ヲ置クコトヲ得本令中郡市醫師會ニ關スル規定ハ第四條及第五條ヲ除  
 ク外之ヲ區醫師會ニ準用ス道府縣醫師會ニ關スル規定ハ之ヲ本條第一  
 項ノ市醫師會ニ準用ス

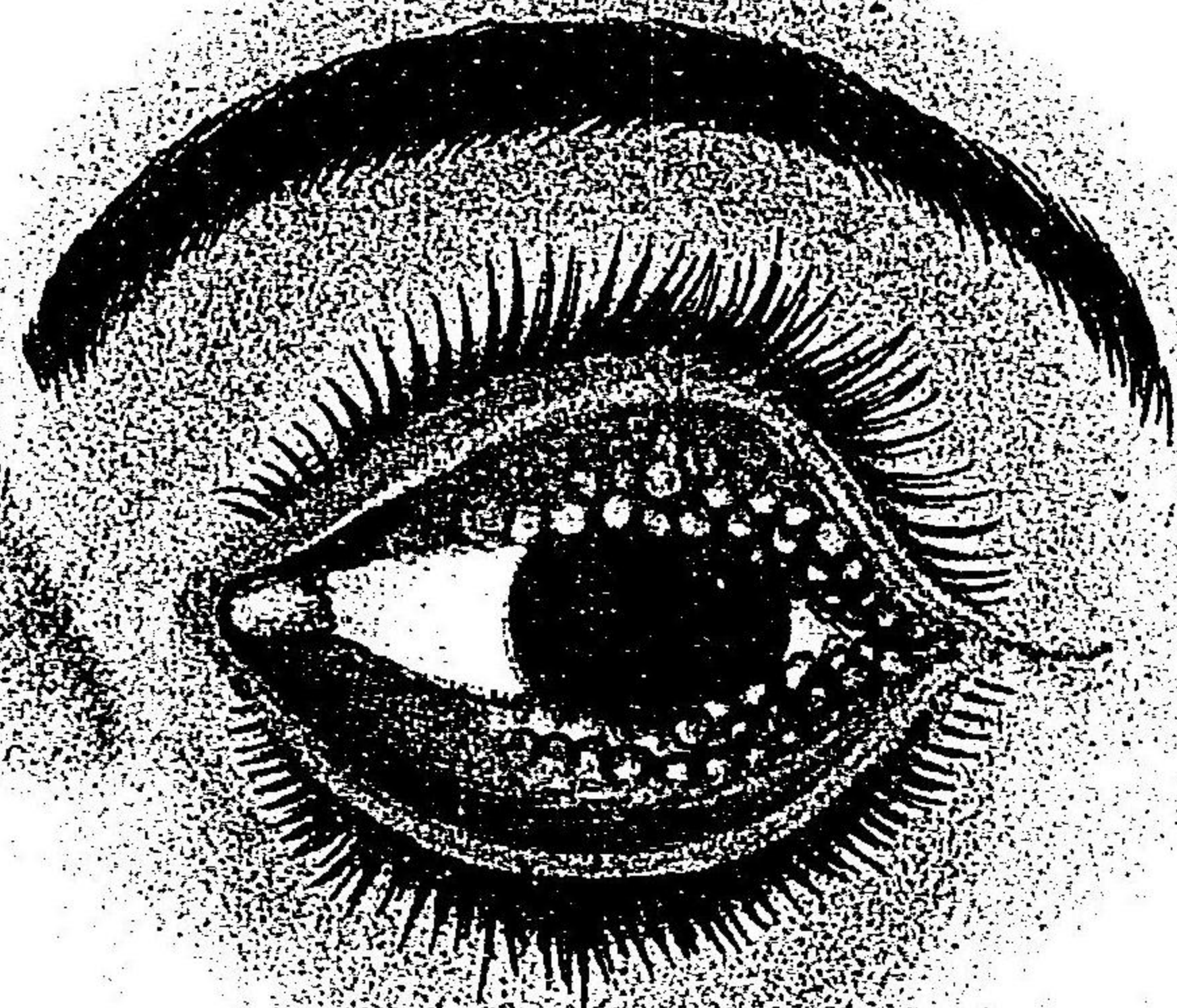
臨牀醫典附錄終

「トラホーム」類症鑑別		トラホーム	濾胞性結核	春季加答兒	結核	肺炎
顆粒ノ大	濾胞性ヨリ稍小	一般ニトラホームヨリモ大	一般ニトラホームヨリモ大	一ムヨリモ大	一ムヨリモ大	一ムヨリモ大
顆粒ノ形状	多クハ圓形楕圓形若クハ圓形若クハ橢圓形	扁平	扁平	扁平	扁平	扁平
顆粒ノ硬度	軟	軟	硬	軟	軟	軟
顆粒ノ境界	不明	不明	小溝ヲ隔テ互ニ相連ス	不明	不明	不明
顆粒ノ色	帶黃灰白又ハ透明水泡	淡赤	淡赤	淡赤	淡赤	淡赤
顆粒ノ所在	深在、結膜面隆起ス	淺在、結膜面上	淺在、結膜面上	淺在、結膜面上	淺在、結膜面上	淺在、結膜面上
部位	多クハ眼結膜多クハ下	多クハ眼結膜多クハ上下穹窿部	多クハ眼結膜多クハ上下穹窿部	多クハ眼結膜多クハ上下穹窿部	多クハ眼結膜多クハ上下穹窿部	多クハ眼結膜多クハ上下穹窿部
配列	不規則	散在	散在	散在	散在	散在
乳頭	肥大アリ	無	有	有	有	有
角膜	合併	浸潤潰瘍	無	稀	稀	稀
分泌物	帶黃粘稠	稀	稀	稀	稀	稀
癍痕形	有	無	無	無	無	無
全身關係	無	多クハ腺病者	無	無	無	無

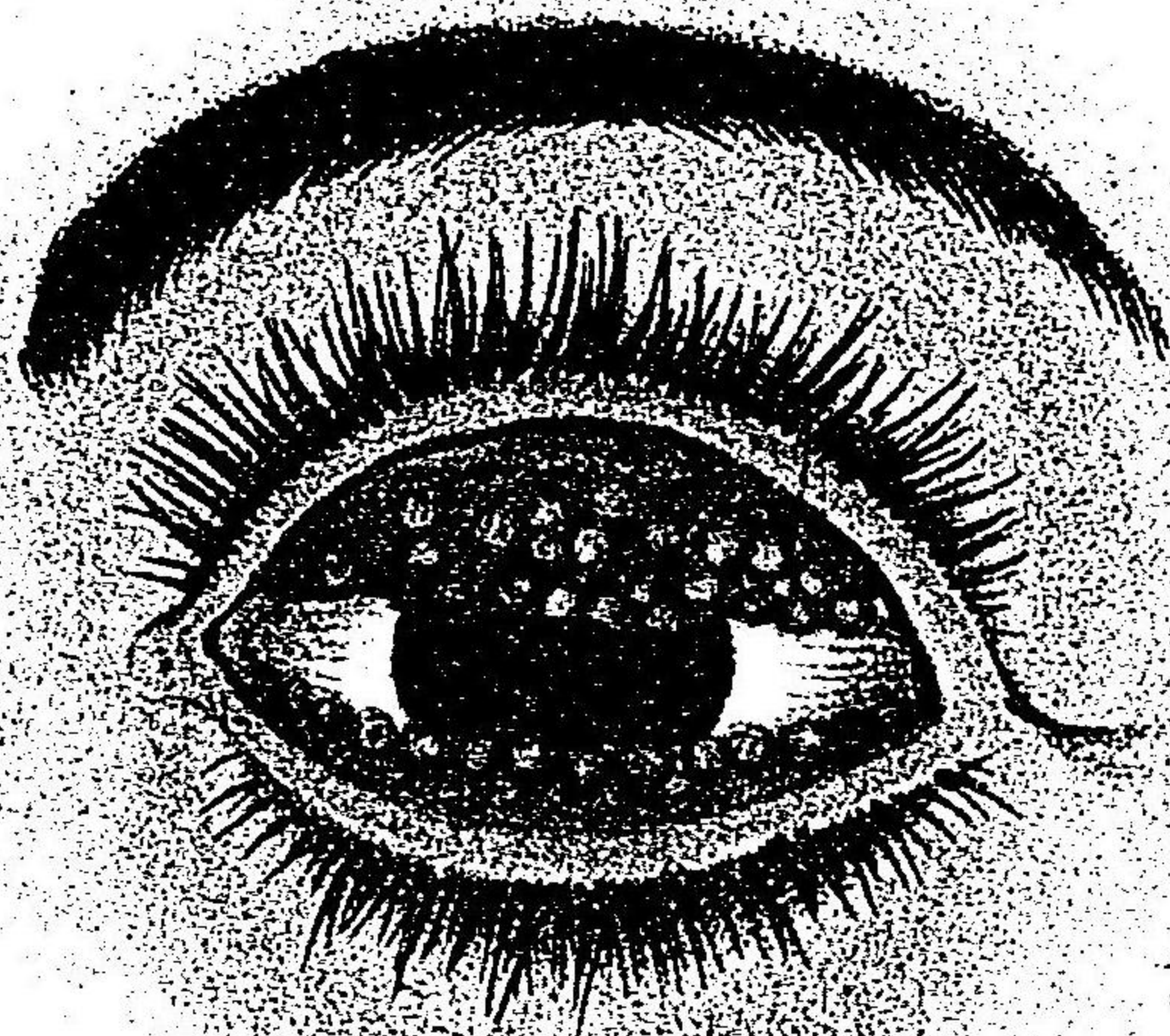
患側耳下腺  
 化膿性腫脹  
 發熱



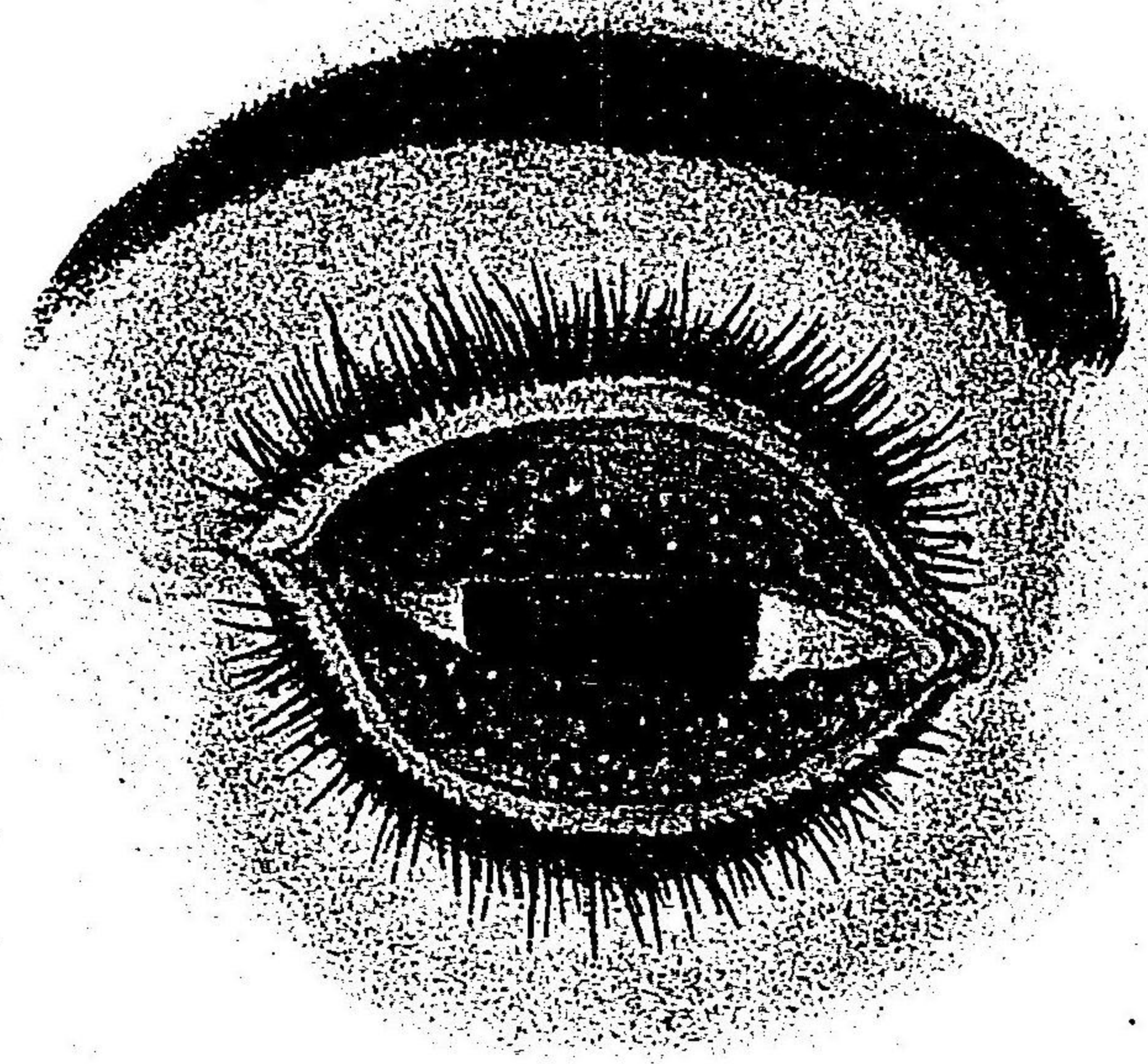
バリン氏一結膜炎



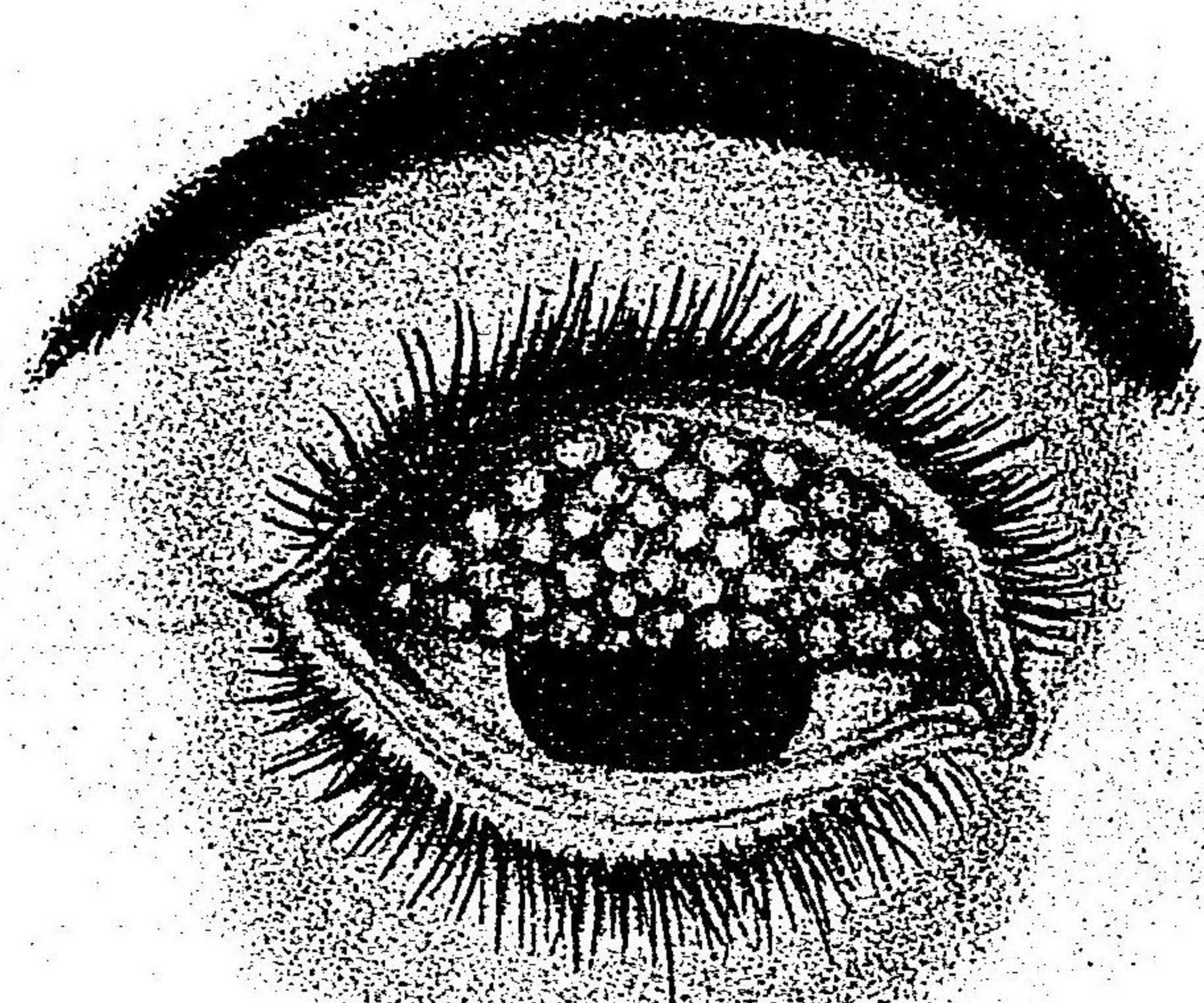
トハラム



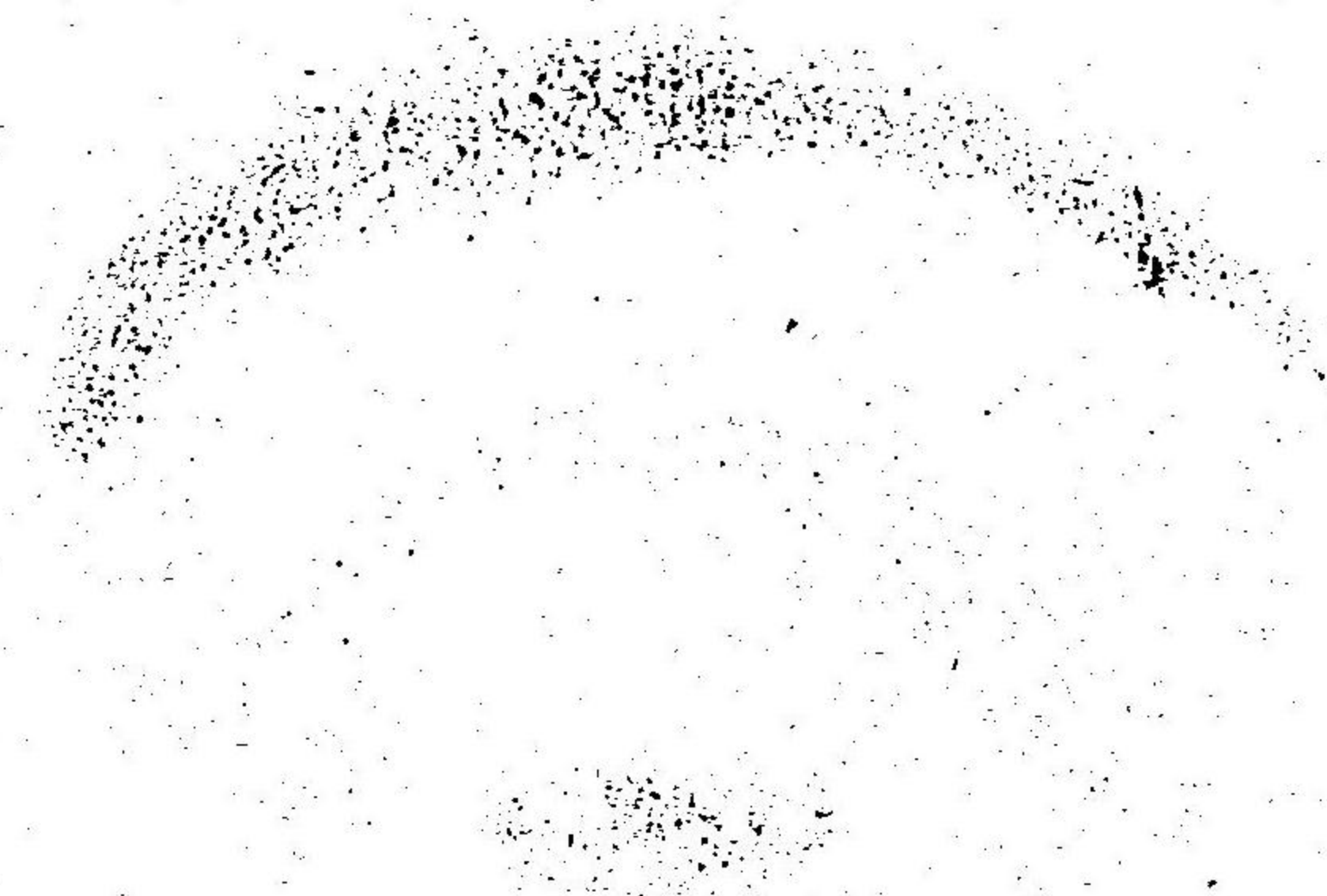
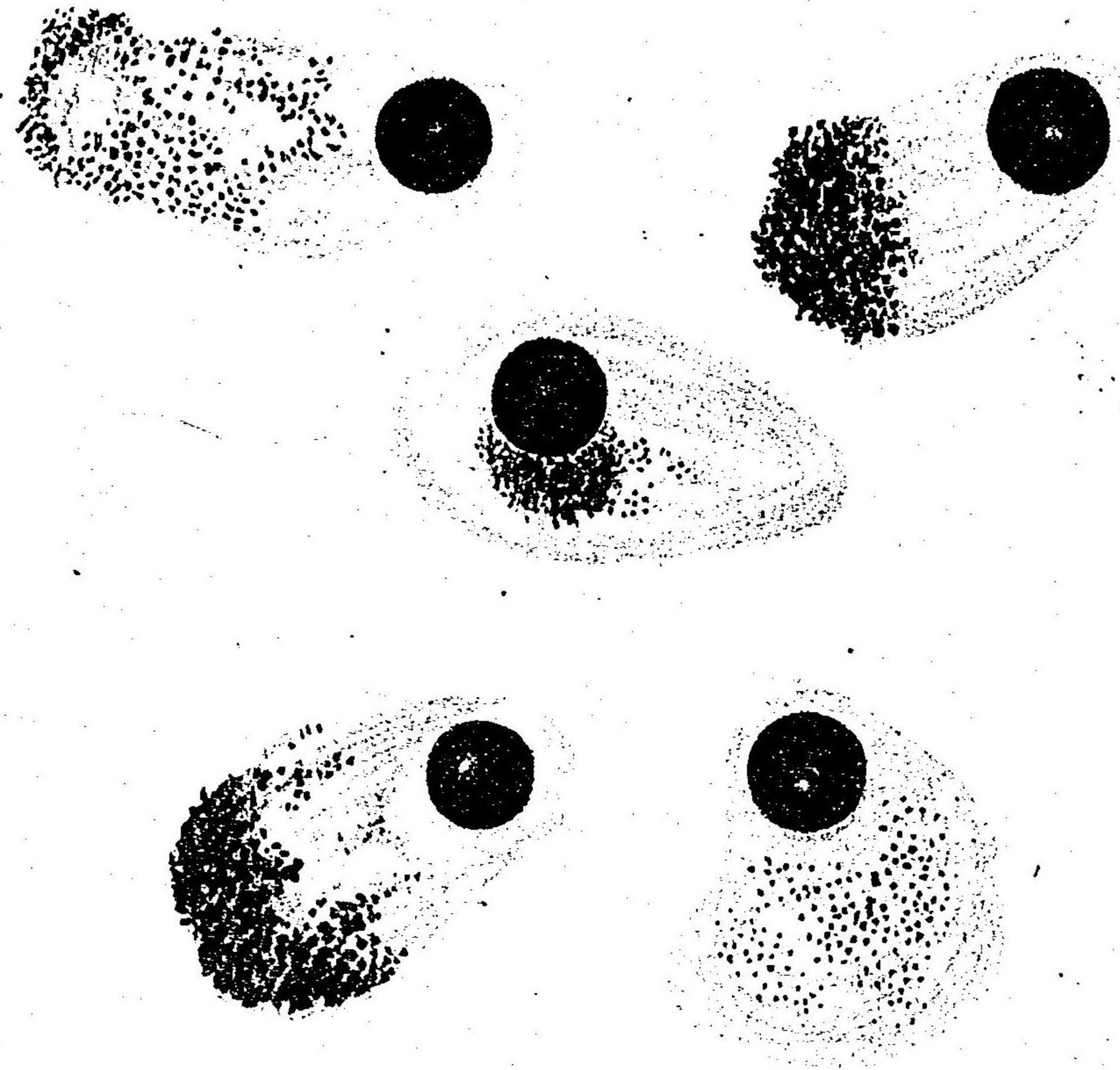
炎膜結性胞廬



兒答加季春



體小ムーホラト氏クツエチワロブ

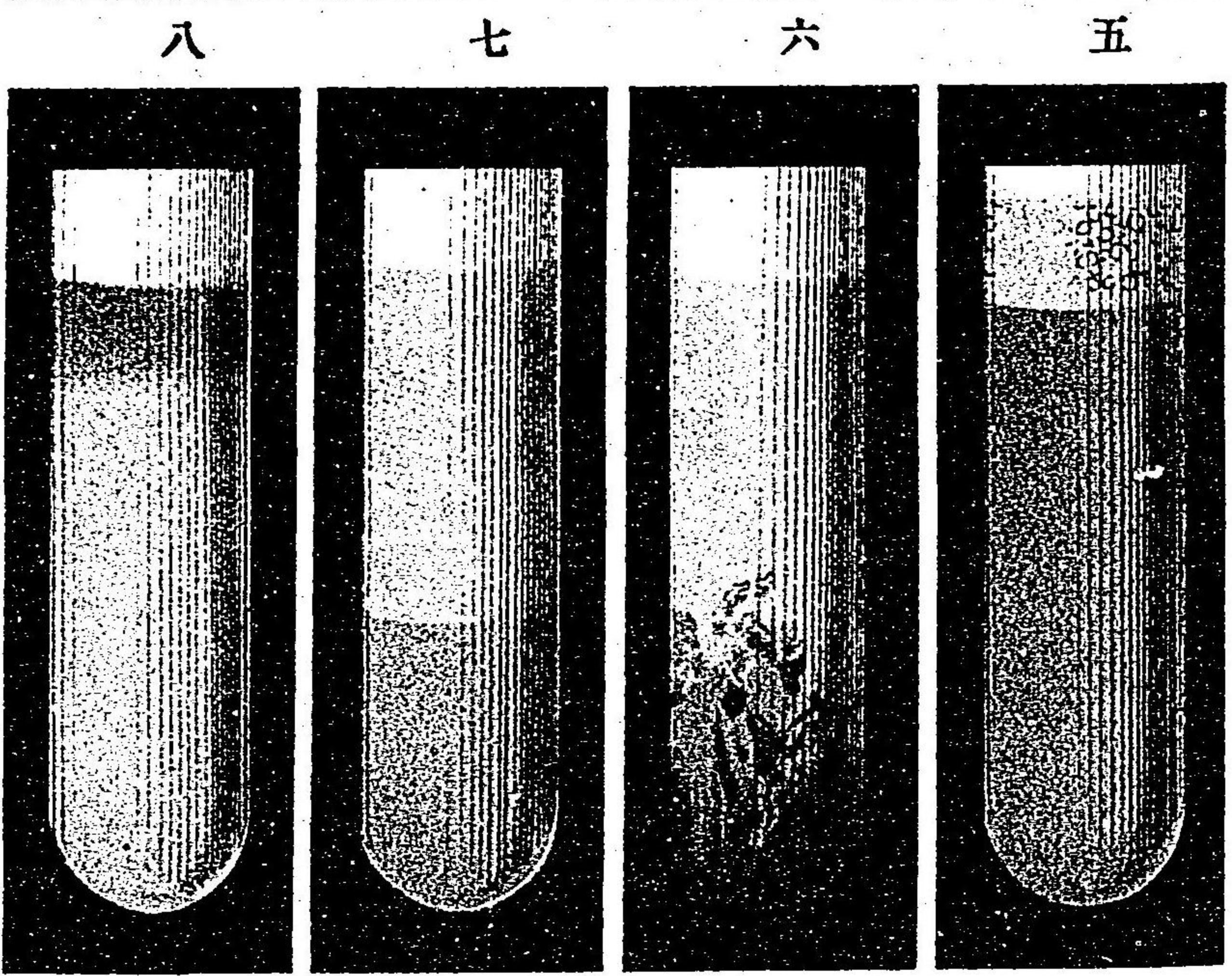
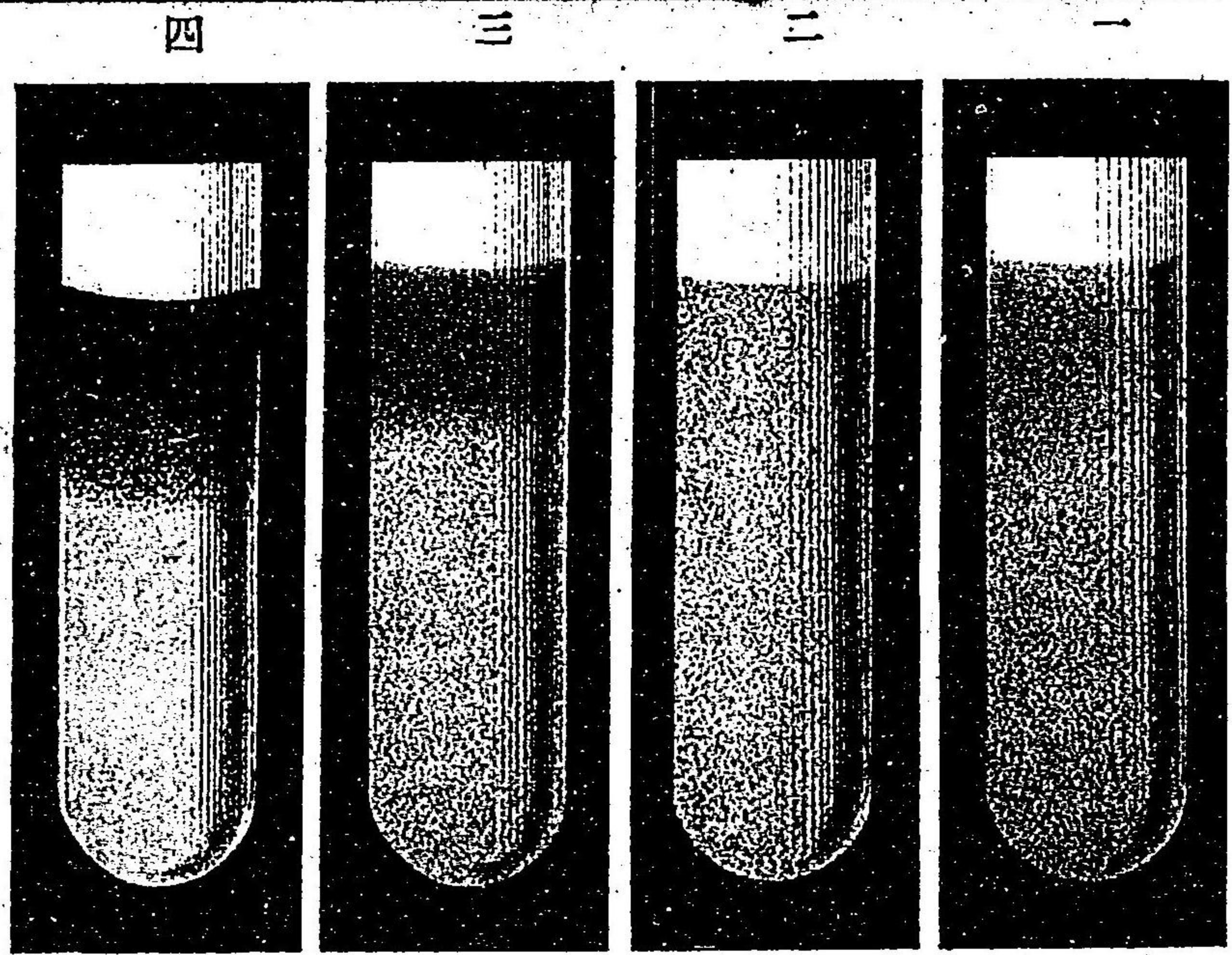


急性結膜炎



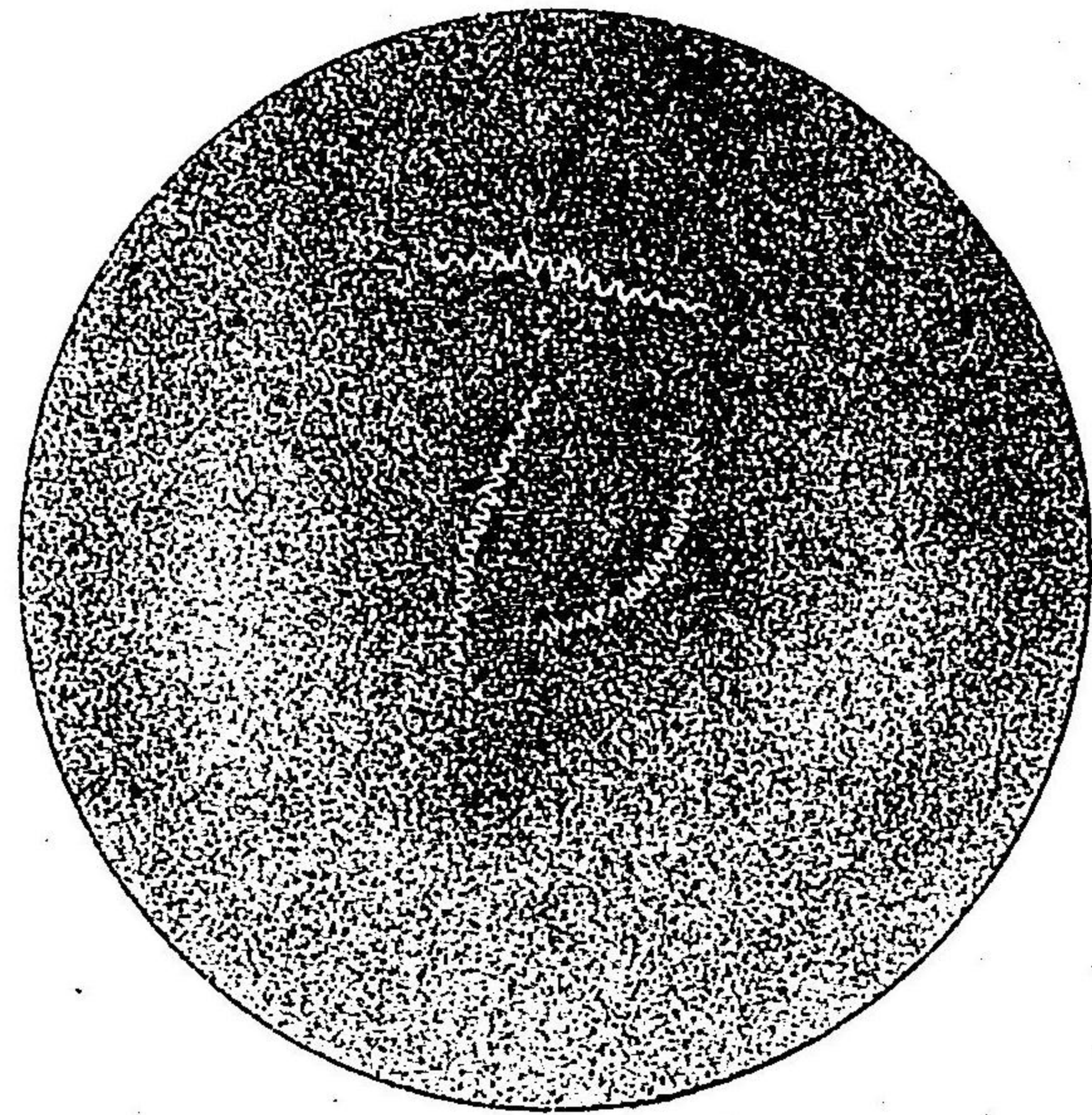
### 尿ノ主要ナル呈色反應圖解

- 一乃至三 トロンメル氏糖分検査法(七三六頁参照)
- 一 無糖尿ニ硫酸銅液ヲ加ヘタルモノニシテ煮沸ニ由テ帶綠黄色
  - 二 含糖尿ニ硫酸銅液ヲ加ヘタルモノニシテ青色
  - 三 ニテ熱シタルモノニシテ黄赤色
- 四 ニーランド氏糖分検査法(七三七頁参照)  
含糖尿ニニーランド氏液ヲ加ヘタルモノニシテ煮沸スレバ黑色
- 五 エーレルリッヒ氏「ヂアツォ」反應(七三八頁参照)
- 六 血色素検査法(七三八頁参照)
- 七 膽色素検査法(七三八頁参照) 含膽色素尿ニ「クロ、ホルム」ヲ混シタルモノニシテ黄色
- 八 「インヂカン」反應(七三九頁参照)



「スピロヘーテ、バルリーダ」墨汁標本製法(圖解)

- 一、墨汁製法、可成佳良ナル墨ヲ撰ビ〇・五%ノ石炭酸水又ハ一%「フォルマリ  
ン」ヲ以テ乳鉢内ニテ充分ナル濃度ニ至ル迄叮嚀ニ摺リ次テ之ヲ二十分乃至  
一時間遠心沈澱器ニ掛ケテ其上澄ヲ用フ(但シ該液ヲ保存セントセバ之レヲ毛  
細管ニ吸入シ兩端ヲ閉ヤ殺菌シテ貯藏ス)
  - 二、標本製法、可檢液一滴ト墨汁一滴トヲ「オプエクトグラス」上ニ克ク混和シ平  
等ニ塗抹、乾燥セシメテ鏡檢ス
- 注意、墨ノ濃度ハ眞黒ヨリ淡黒ニ至ル中間ニテ稍々褐色ヲ帶ブル部ヲ適度トス  
墨汁ヲ「グラス」面ニ平等ニ引クニハ「オプエクトグラス」ノ一端ヲ鑪ヲ以テ  
極メテ微カニ凹字形ニ廣ク此部ニ檢液ヲ附シテ平等ニ曳クベシ此際「オプエ  
クトグラス」面ニ毫モ脂肪ノ附着セザルヲ要ス



ダリルパ・テーヘロピス  
(個二ノ央中)

スンゲンリフレ・テーヘロピス  
(個一ノ上)



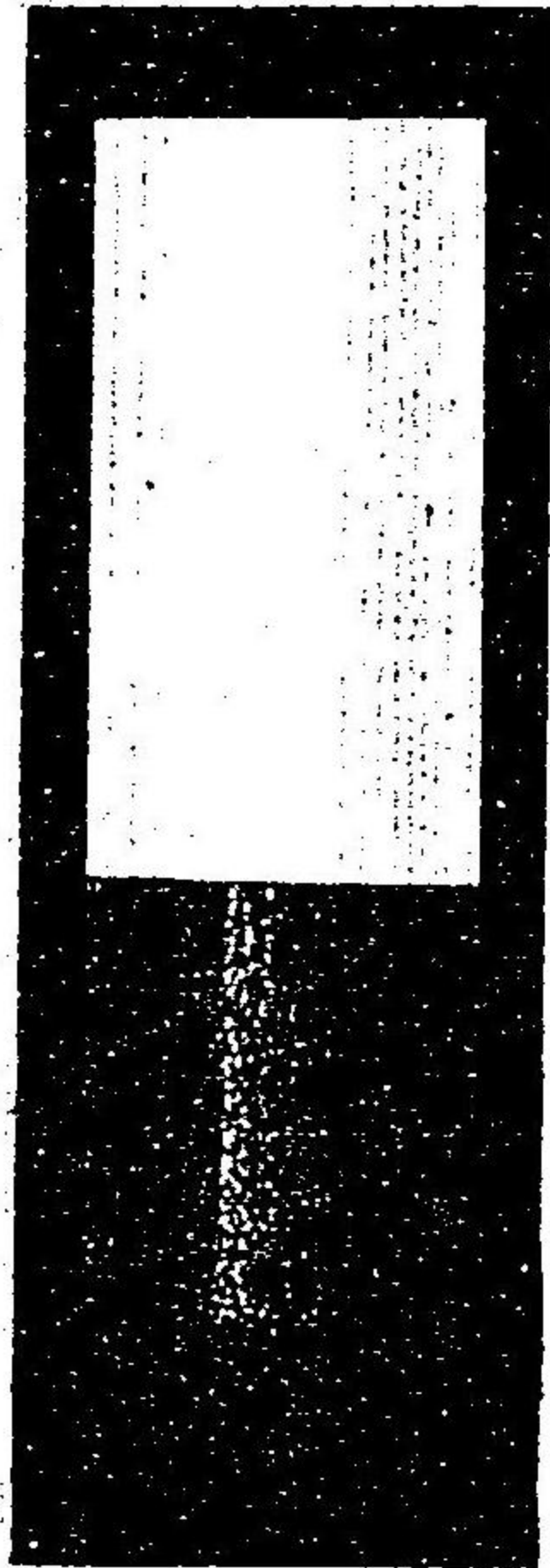
### 黴毒血清診斷法(圖解)

ワッセルマン、ナイセル、ブルック三氏ノ創見ニ係ル黴毒血清診斷法ハ其ノ理論未ダ明ナラスト雖其ノ黴毒ノ診斷法トシテハ第一期黴毒ノ初期ヲ除クノ外ハ頗ル正確ナルモノトス「アンチゲン」(先天黴毒胎兒、肝臟「アルコホル」越幾斯或ハ「モルモット」心臟越幾斯等)ト可檢血清(五十六度三十分間加熱シ非働性トナシタルモノ)及ビ補體(「モルモット」ノ新鮮ナル血清)ヲ加ヘ三十分間三十七度ニ加温シ之レニ血球溶解素(綿羊ノ血球ニテ免疫シタル兔ノ血清)ト赤血球(綿羊)ヲ加ヘ三十七度ニ加温二時間ニシテ安靜ニ置クヘシ斯クシテ血球溶解セスシテ赤血球管底ニ沈澱スルキハ陽性ノ反應ニシテ黴毒ノ確症ナリ血球溶解シテ透明トナリタルキハ陰性ノ成績ニシテ非黴毒若クハ黴毒感染後短經過ノモノカ或ハ治療セシモノカ或ハ自然ノ機能ニヨリテ一時反應ヲ呈セザルモノ若クハ全治セシモノナリ

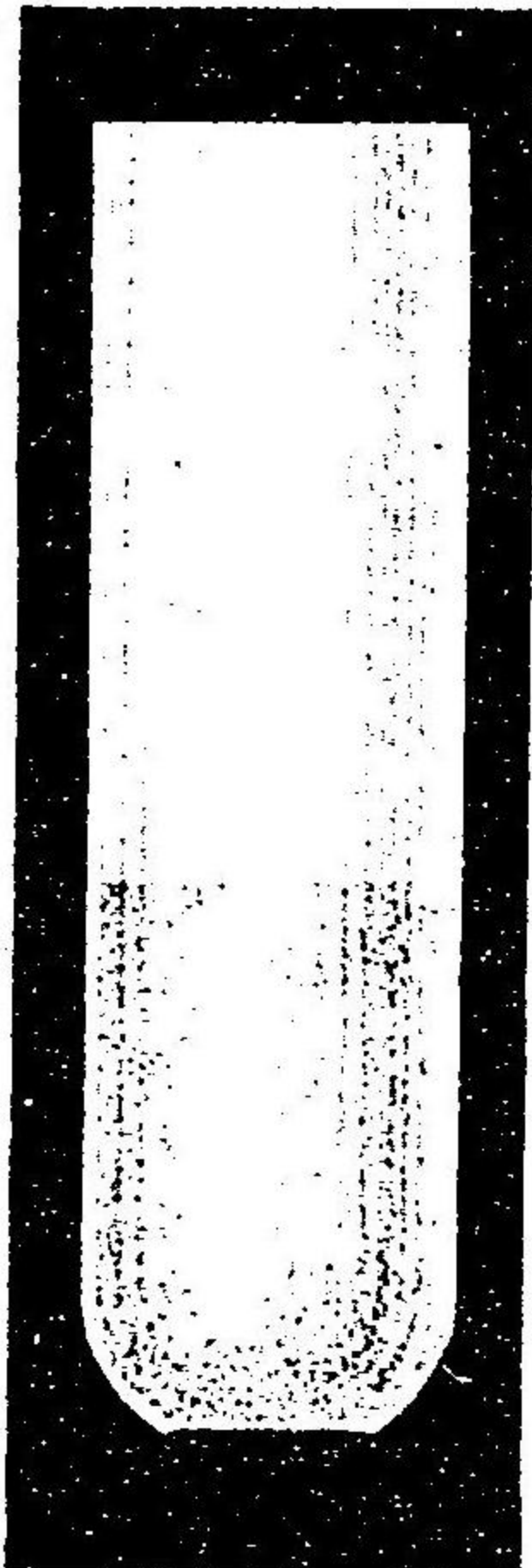
甲 陽性反應(管底ニ沈澱セルモノ)

乙 陰性反應(透明ナルモノ)

乙



甲



「マラリア」寄生蟲圖解 (マンナベルグ氏ニ據ル)

I. 一―八 四日熱寄生蟲ノ發育順序

一―七 三日熱寄生蟲ノ發育順序

一―七 半月狀體ノ發育順序

血液染色標本

一 三日熱

二 多數ノ環狀ヲナセルモノ

三 環狀及半月狀ノモノ

I

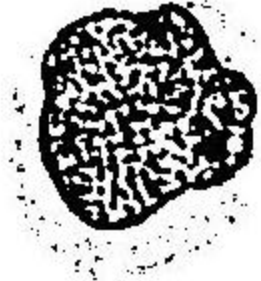
1



2



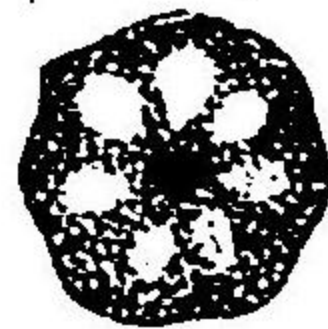
3



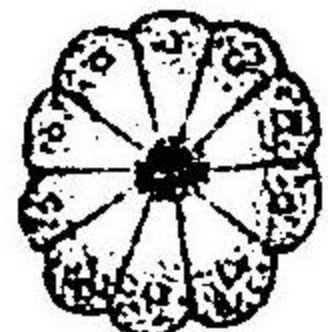
4



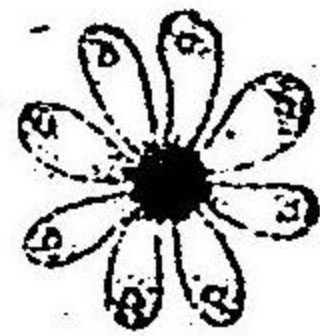
5



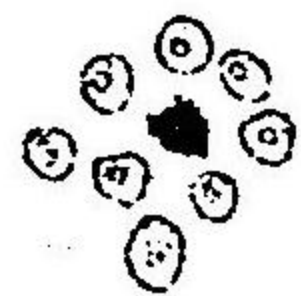
6



7

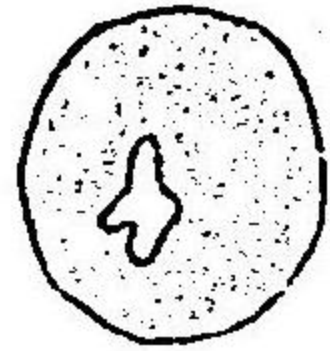


8

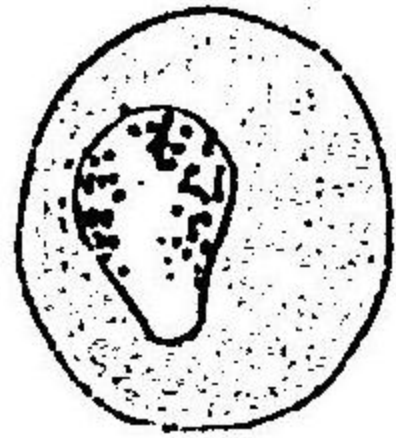


II

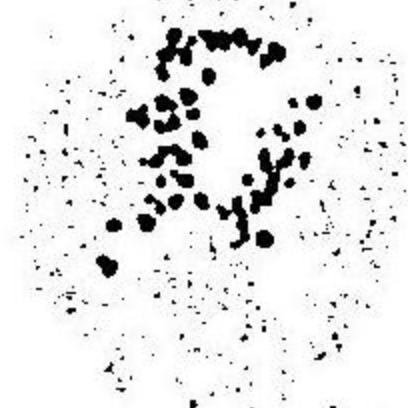
1



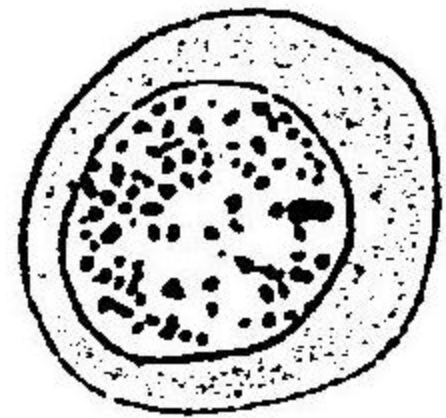
2



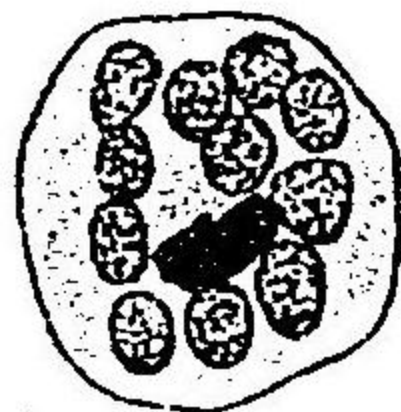
3



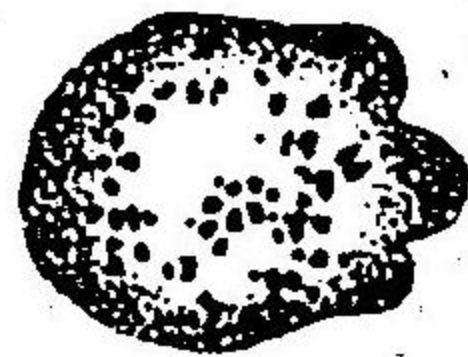
4



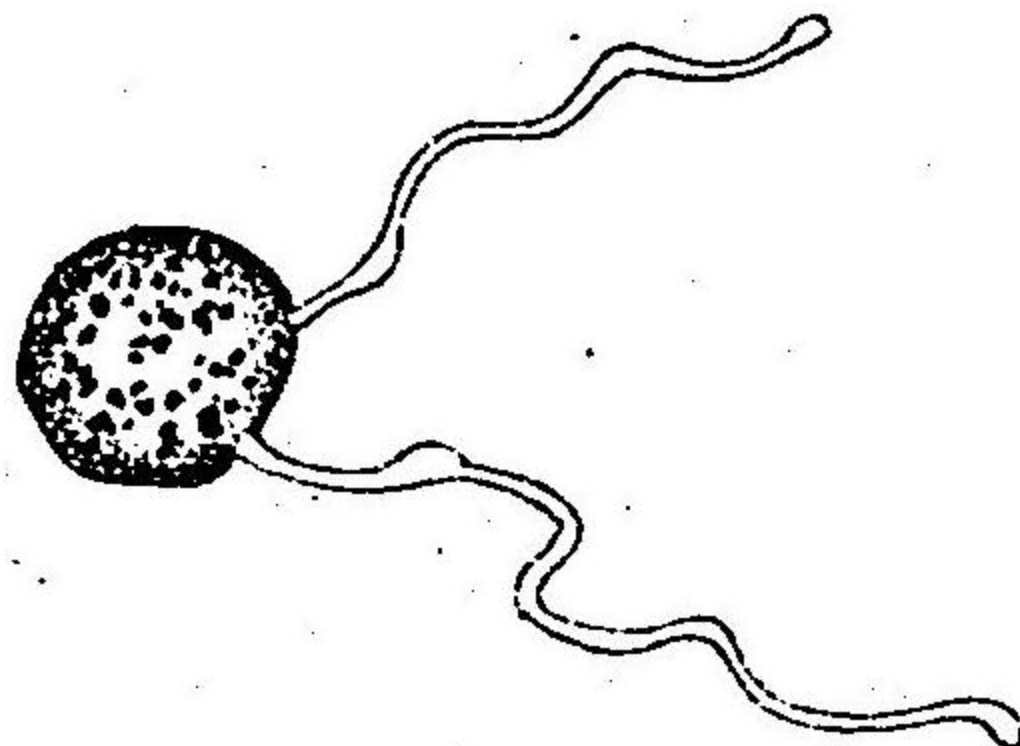
5



6



7



III

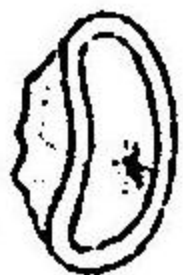
1



2



3



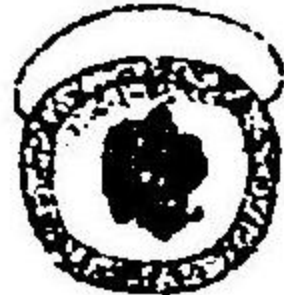
4



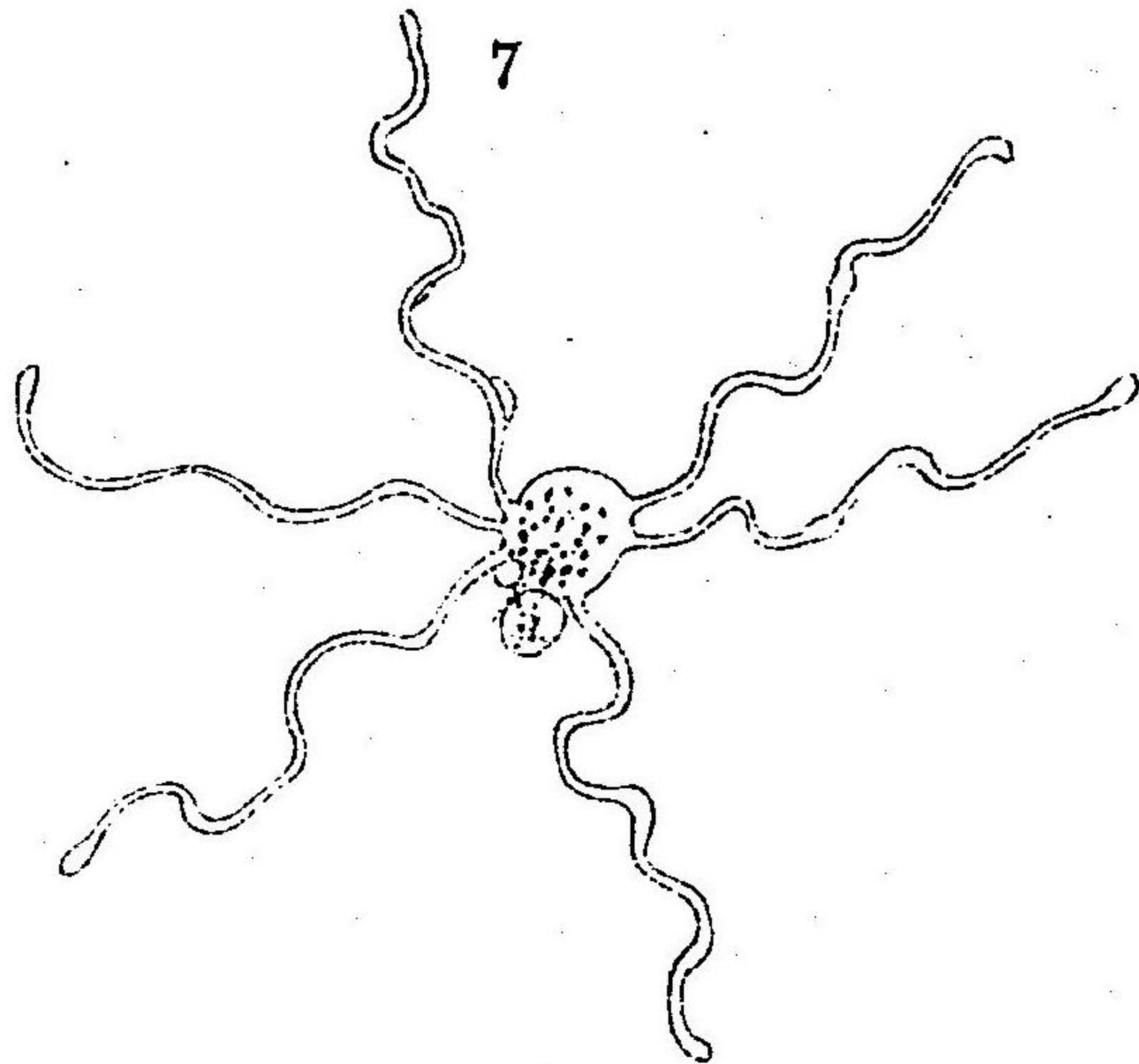
5



6

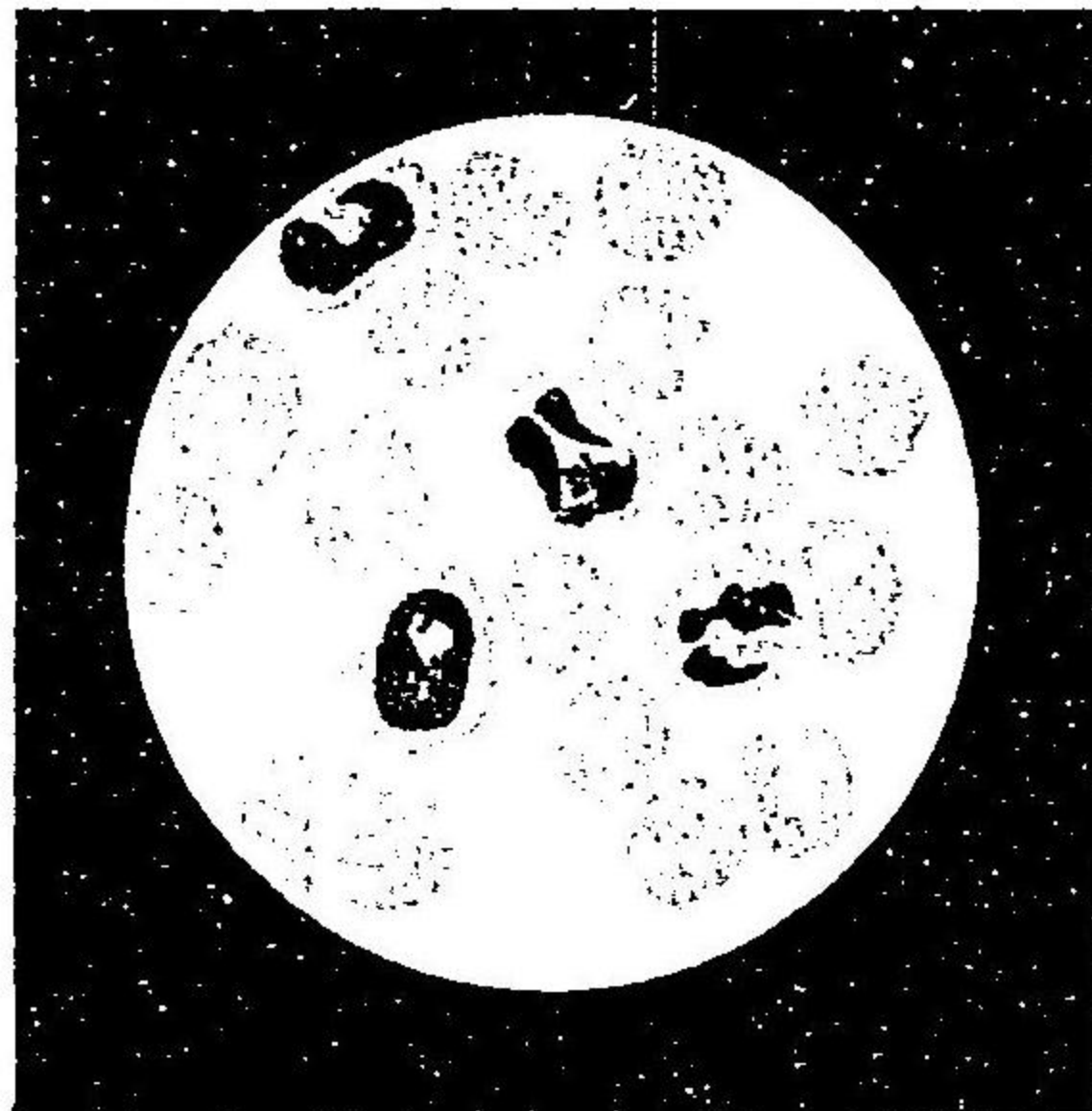


7

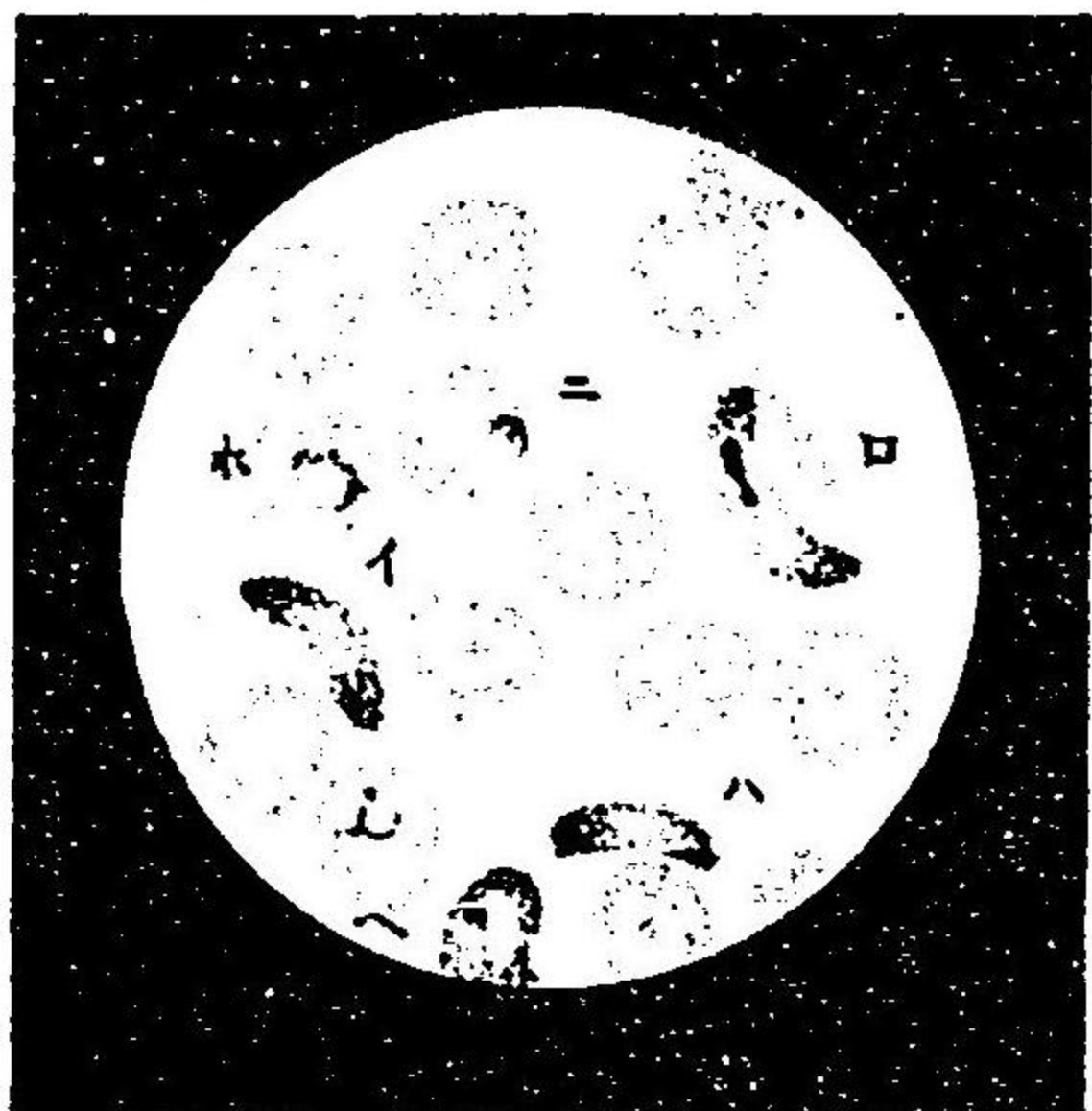


IV

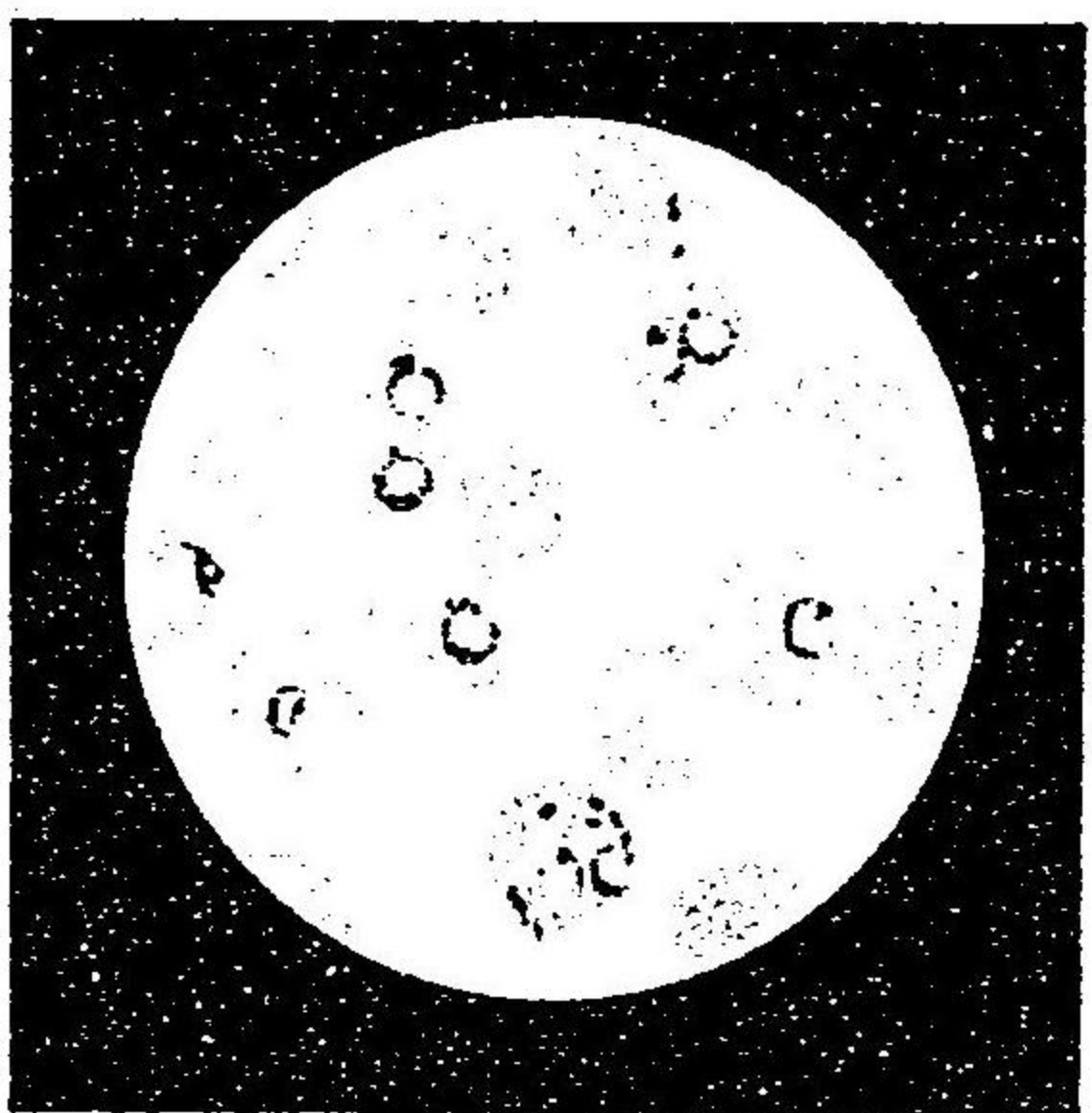
1



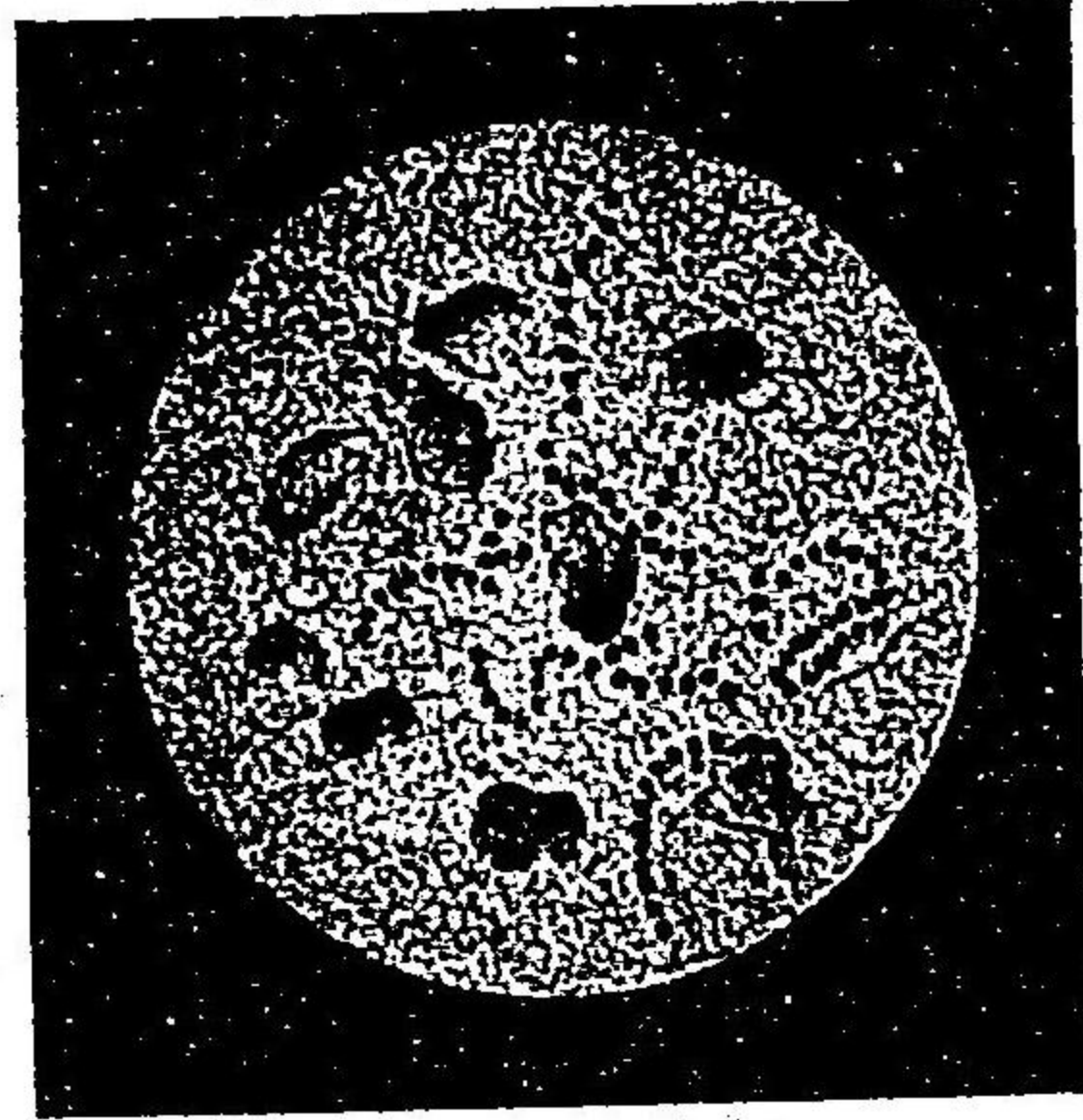
2



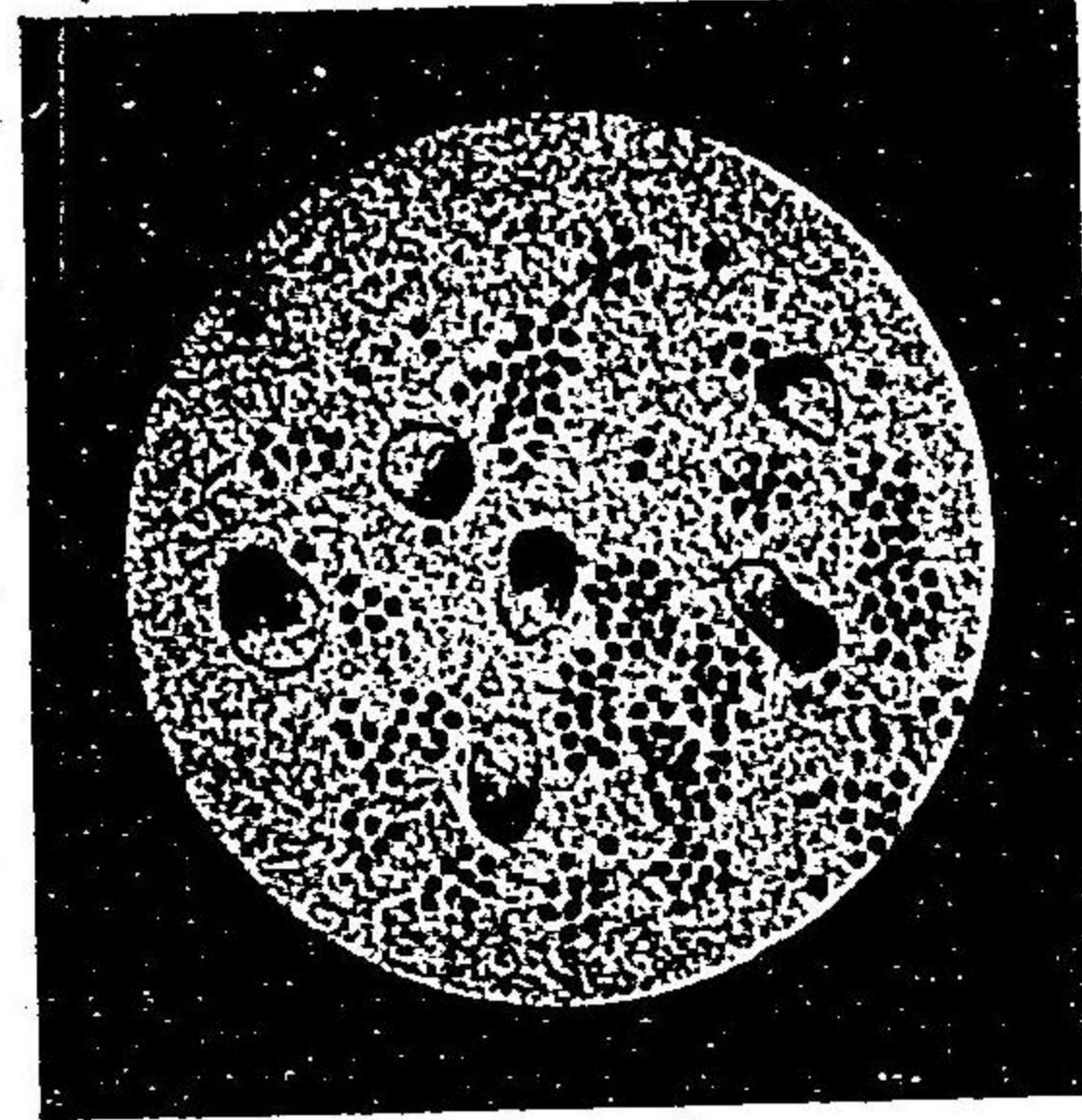
3



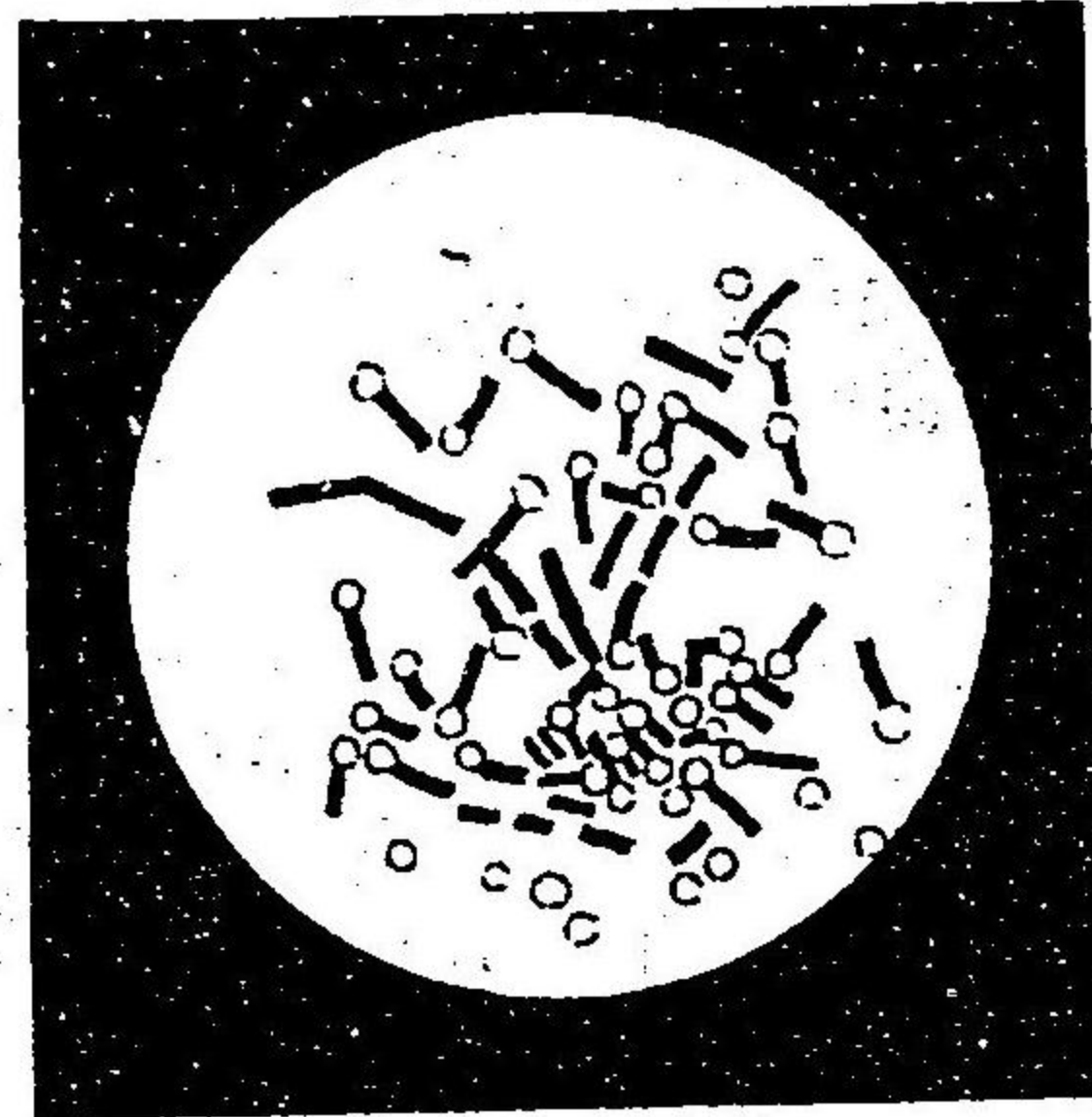
菌球狀鎖連釀



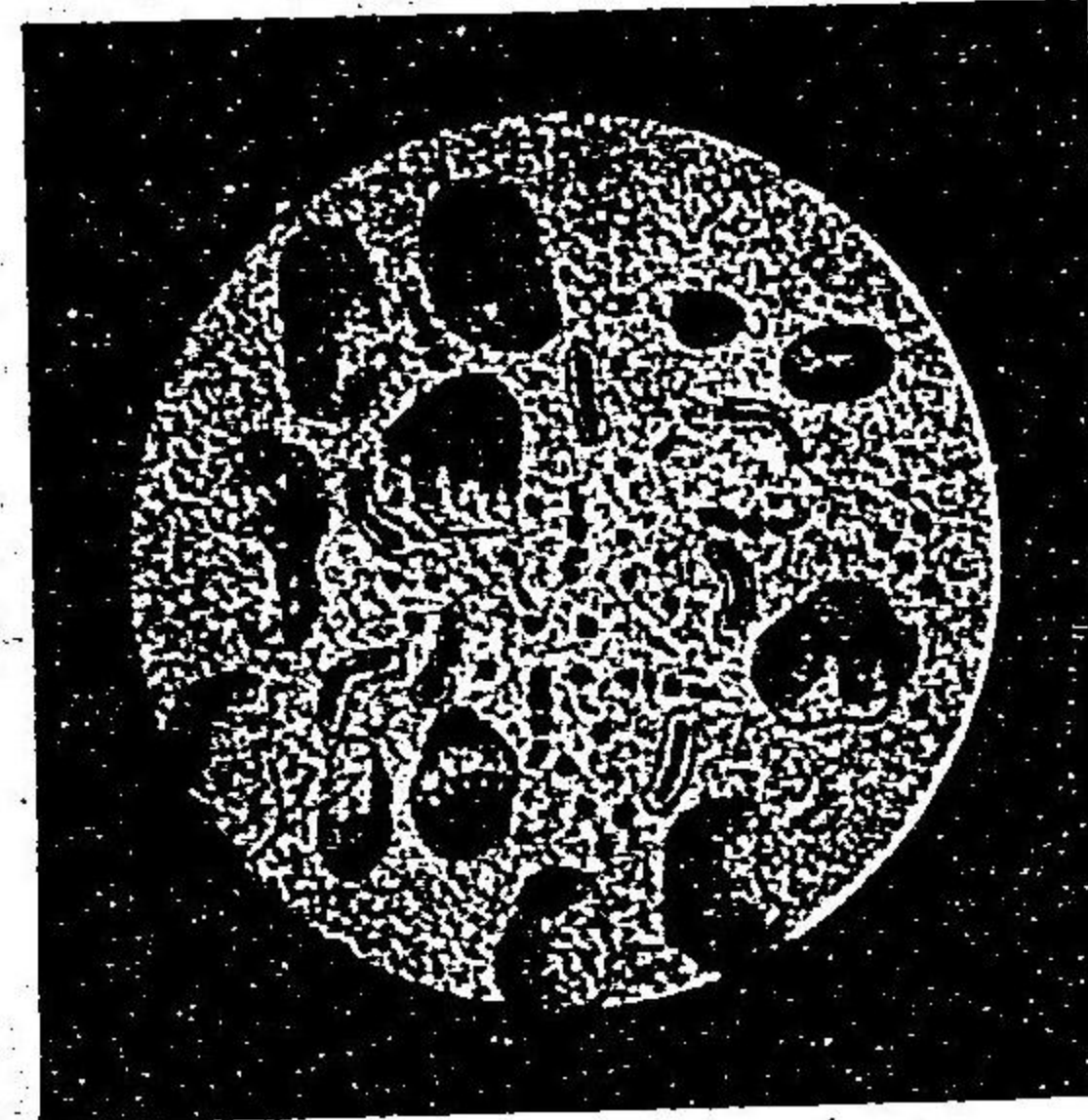
菌球狀葡萄膿釀



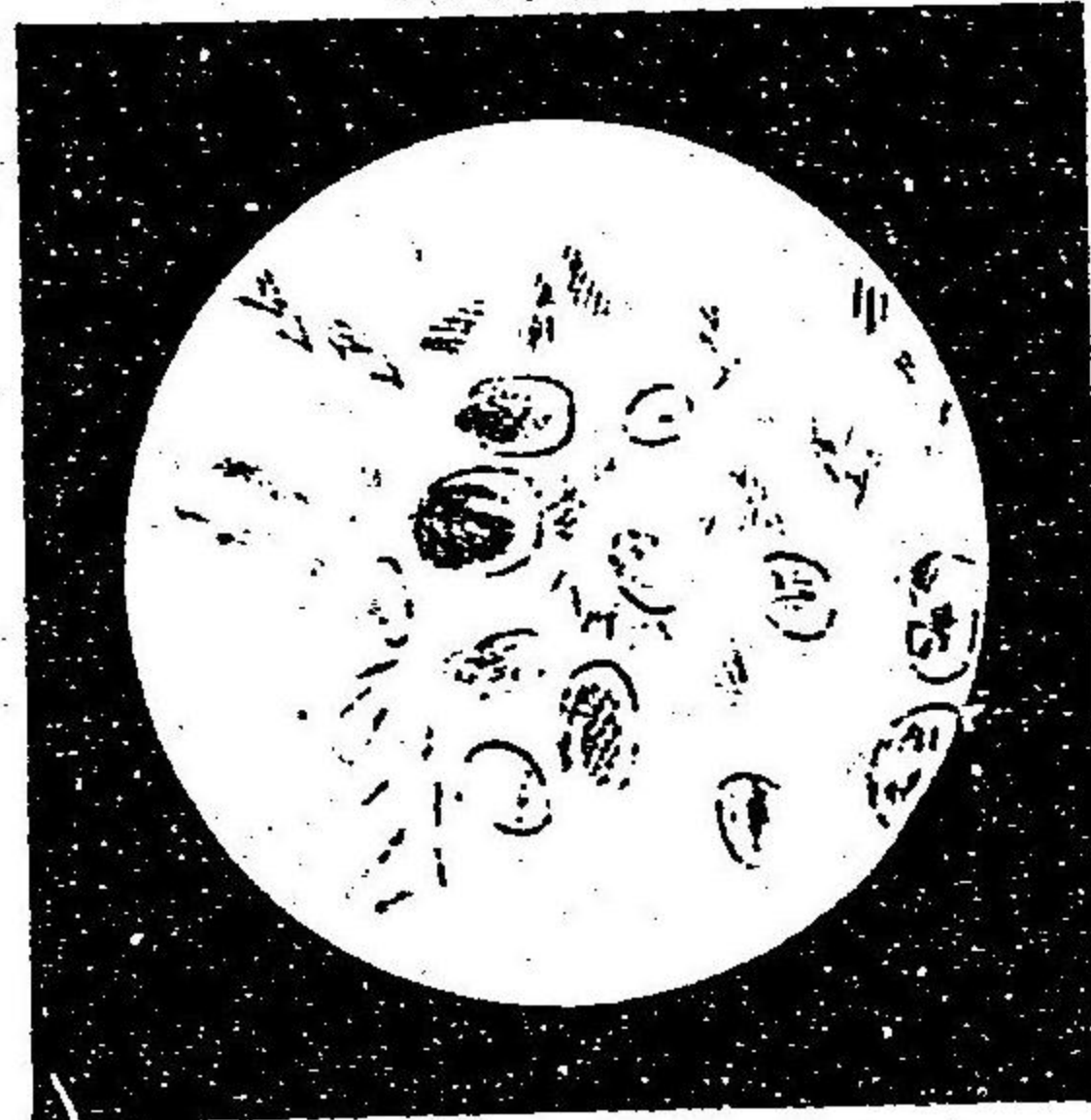
菌桿風傷破



菌桿里的扶實



菌桿病癩

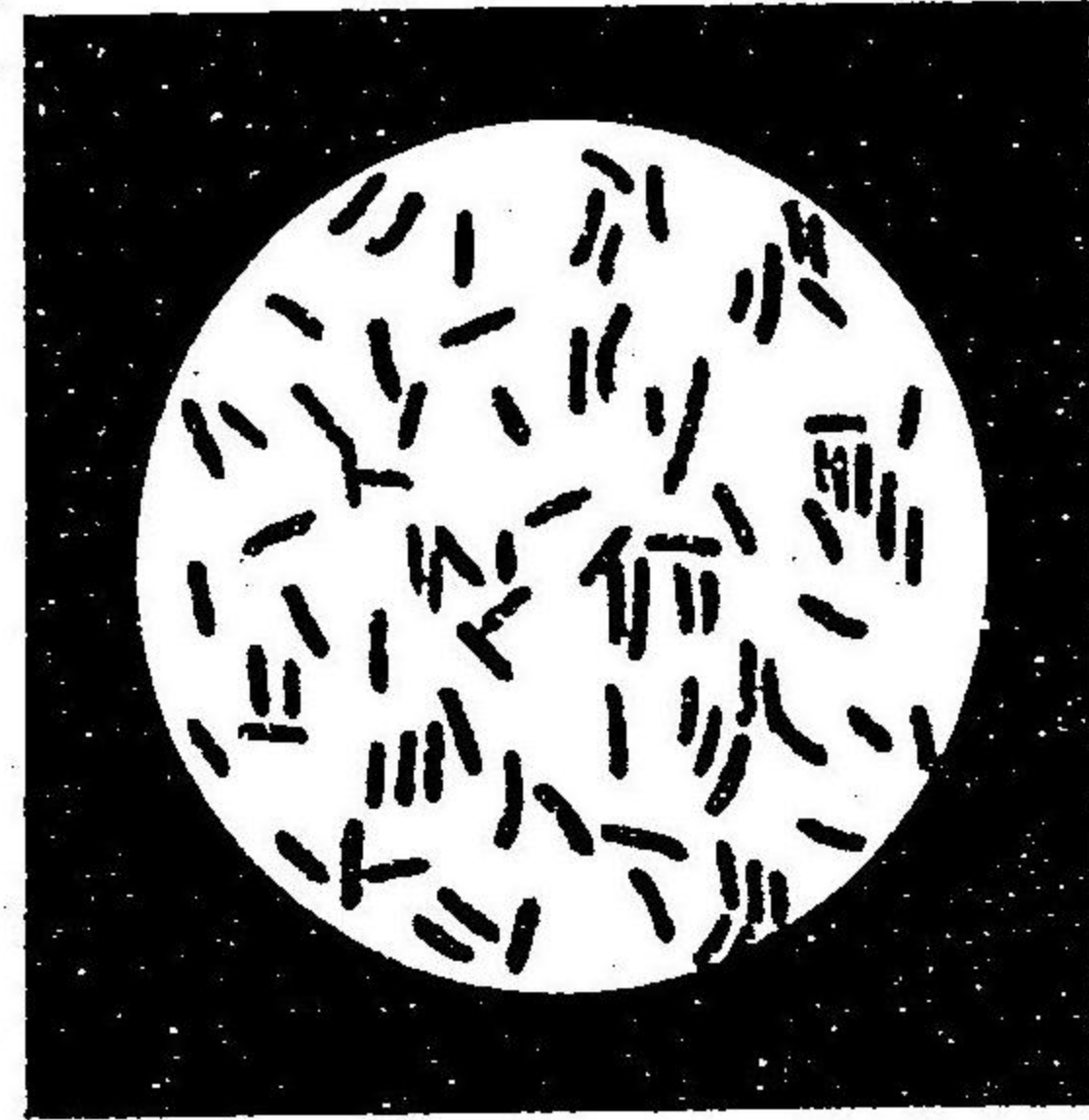


菌桿核結

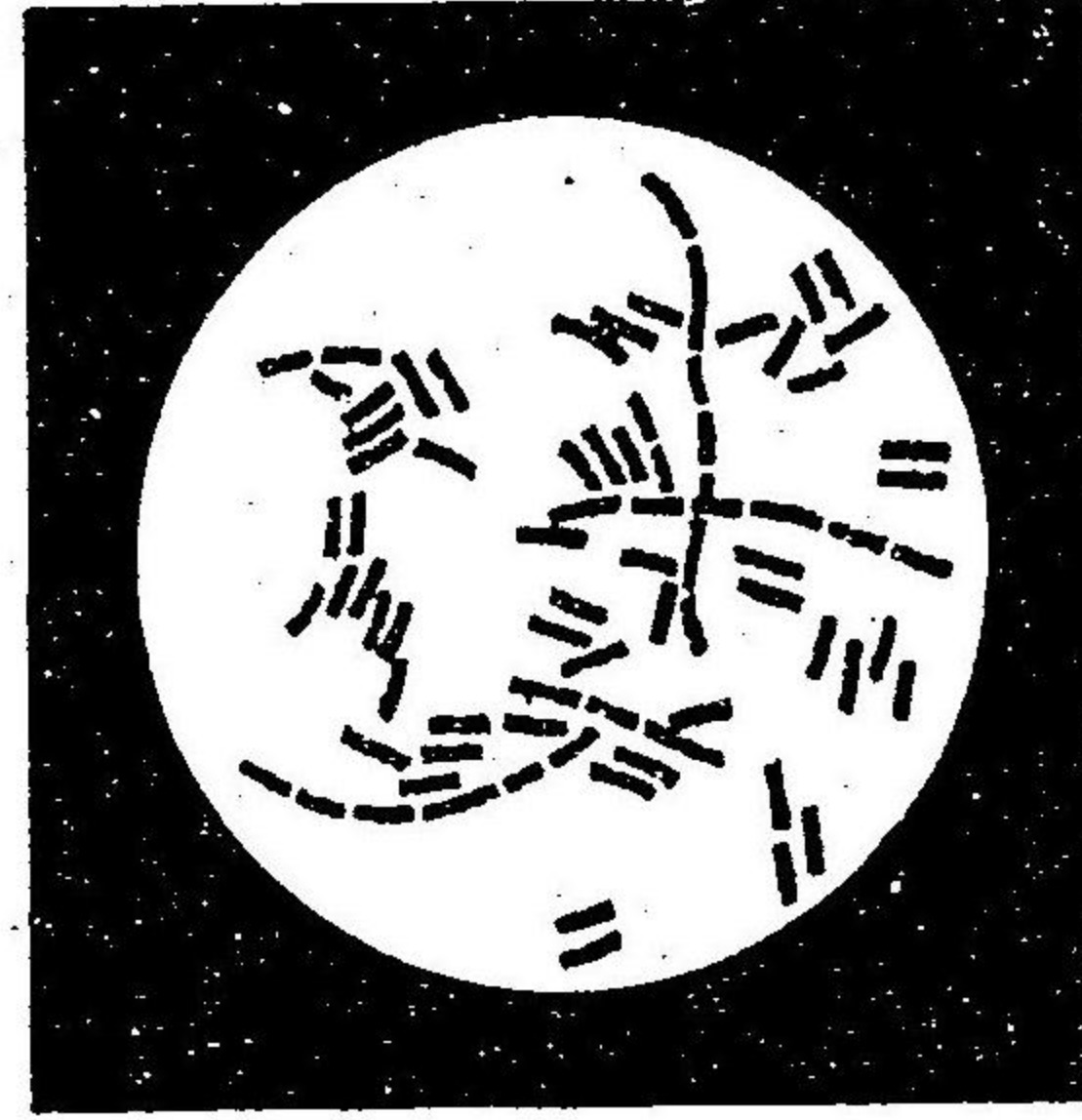




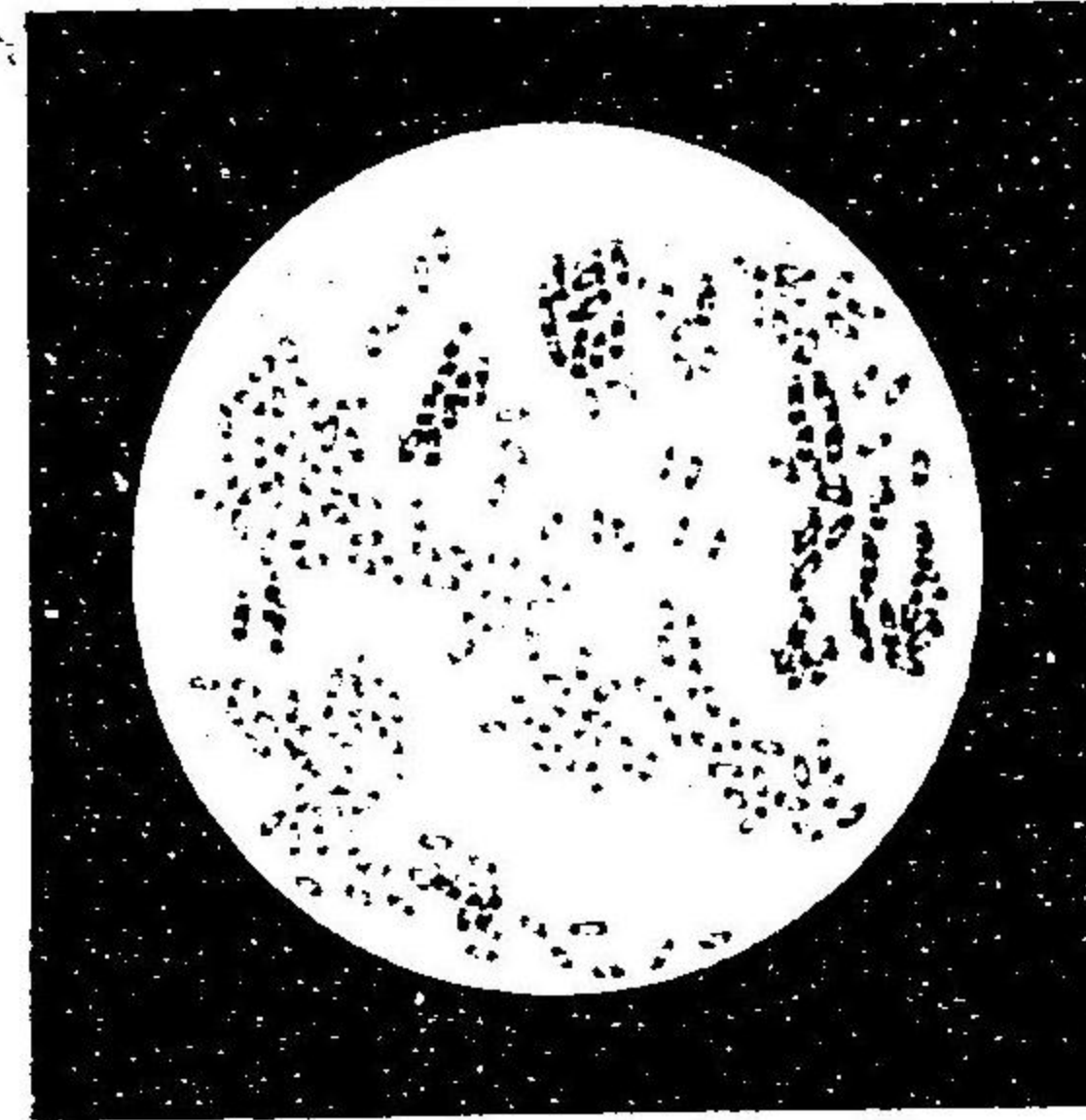
菌桿痢赤



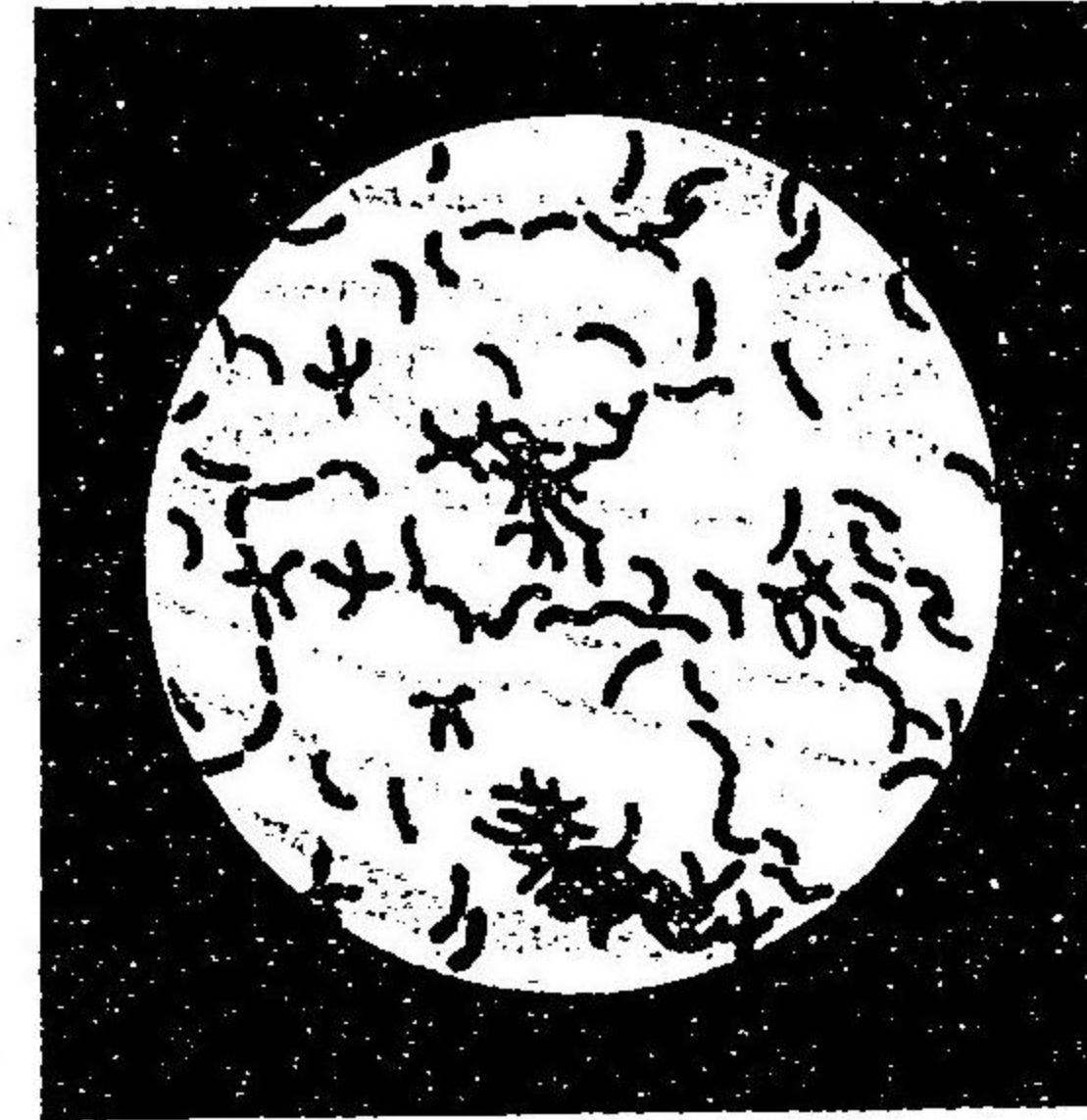
菌桿斯扶室



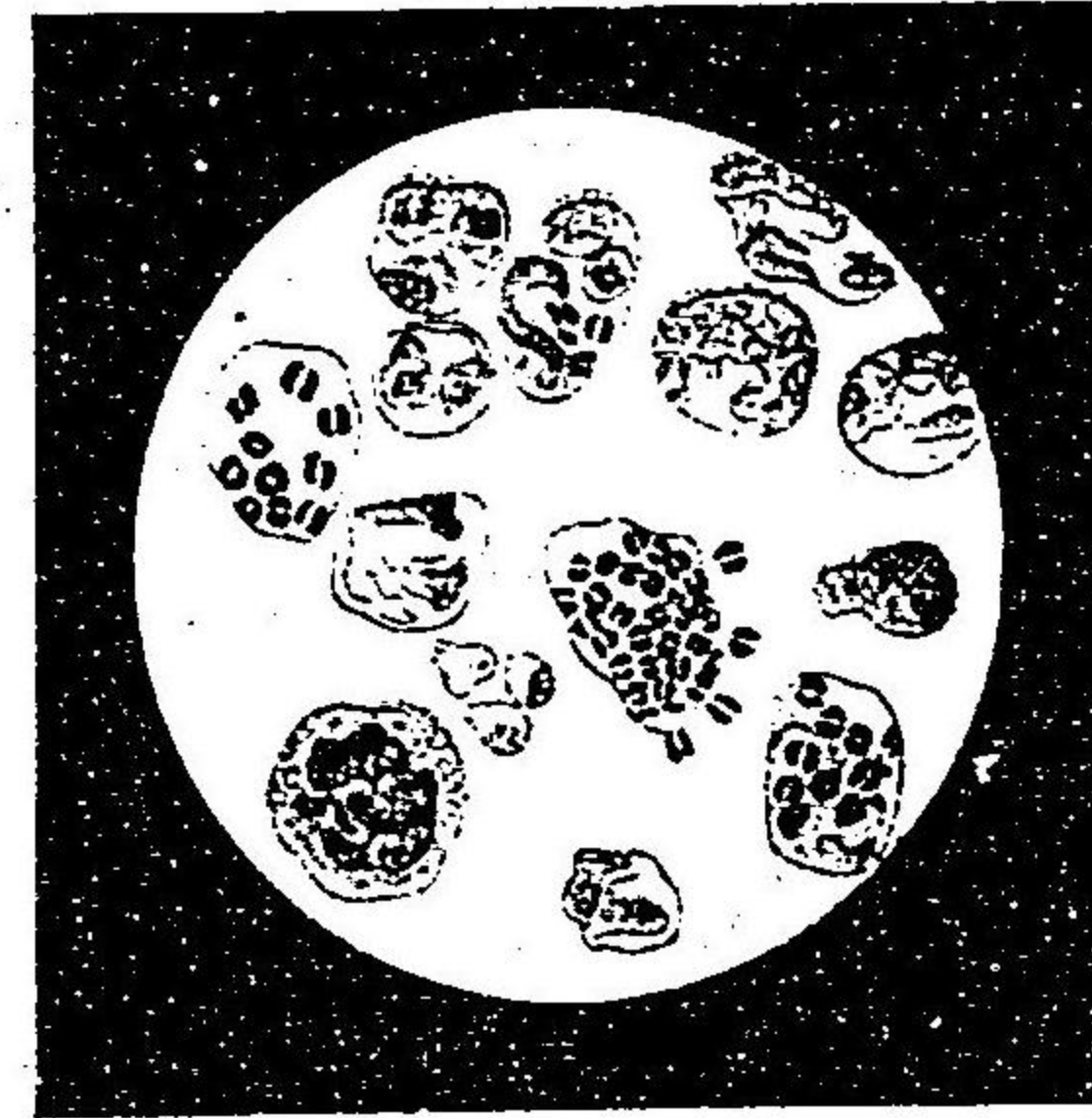
菌桿トスバ



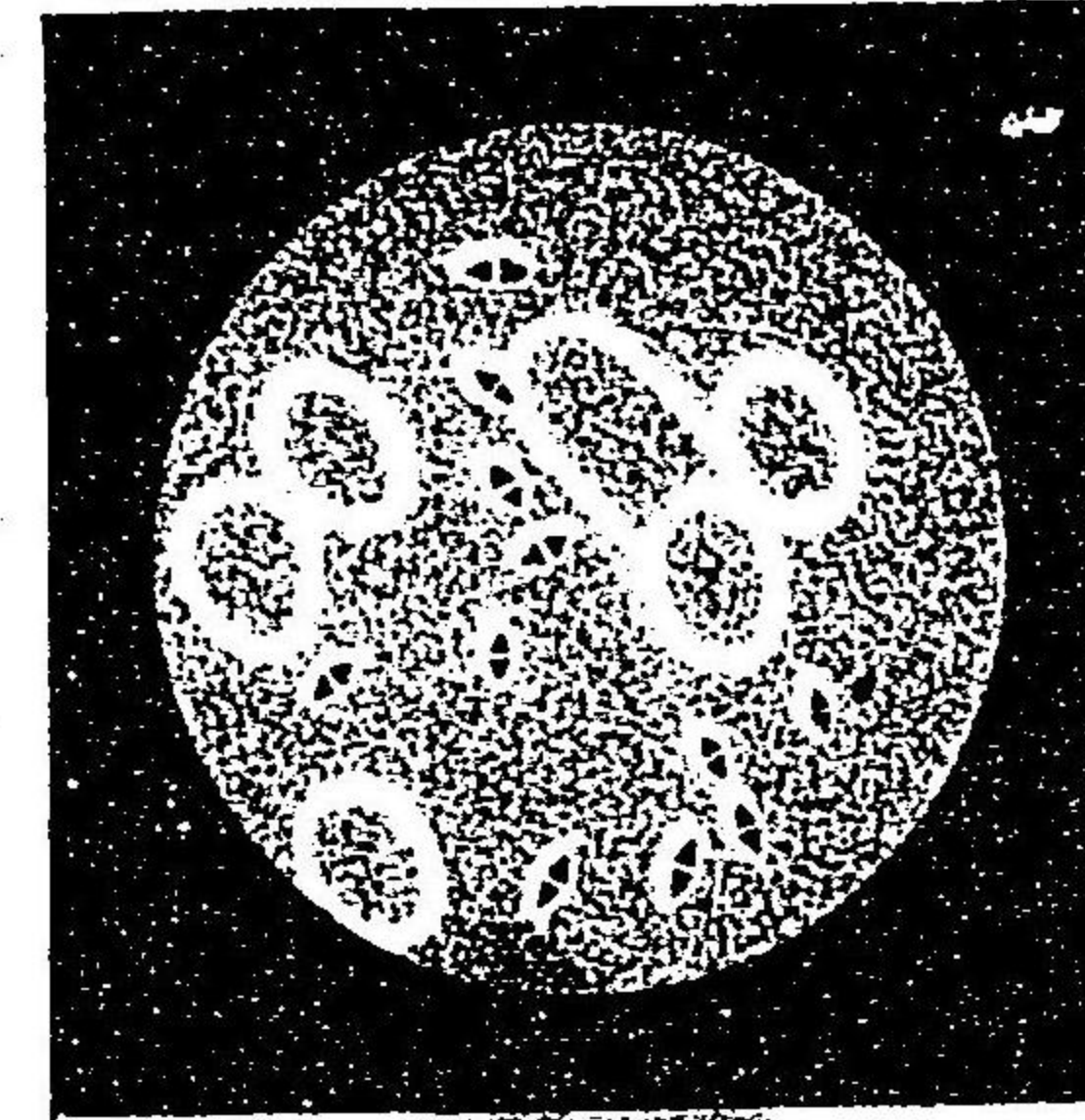
ナリアイウ拉列虎



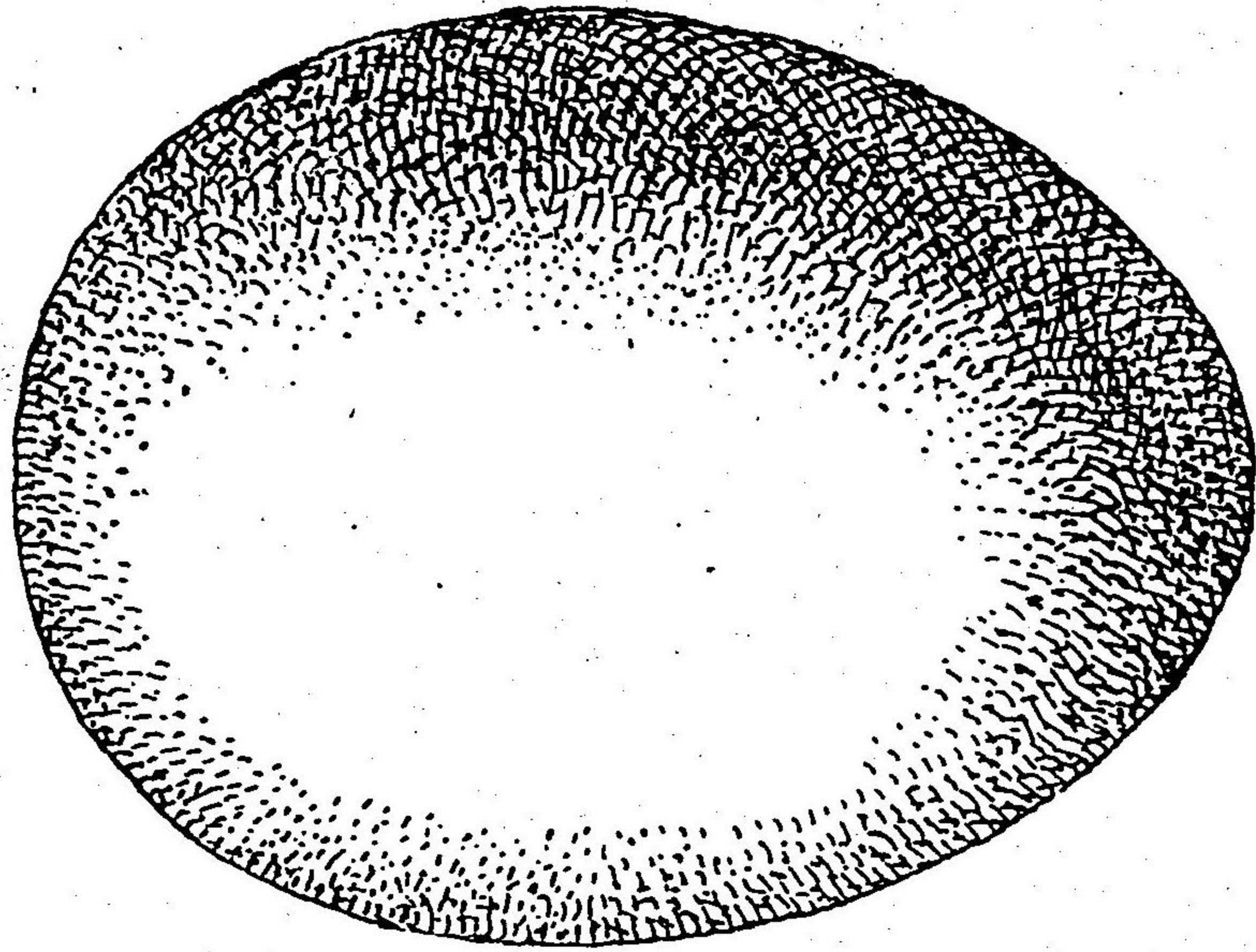
菌球病淋



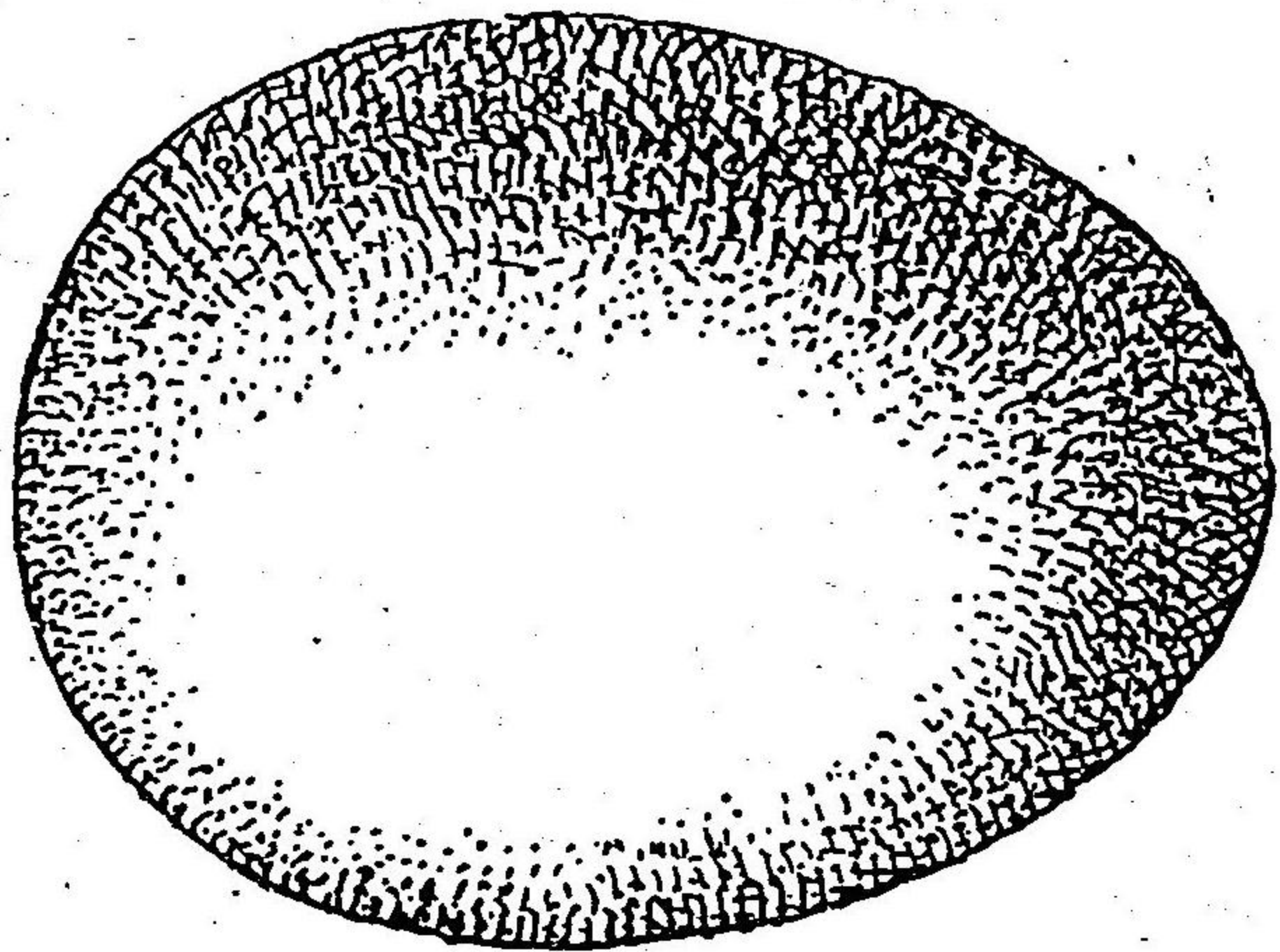
菌球双炎肺氏ルケンレフ



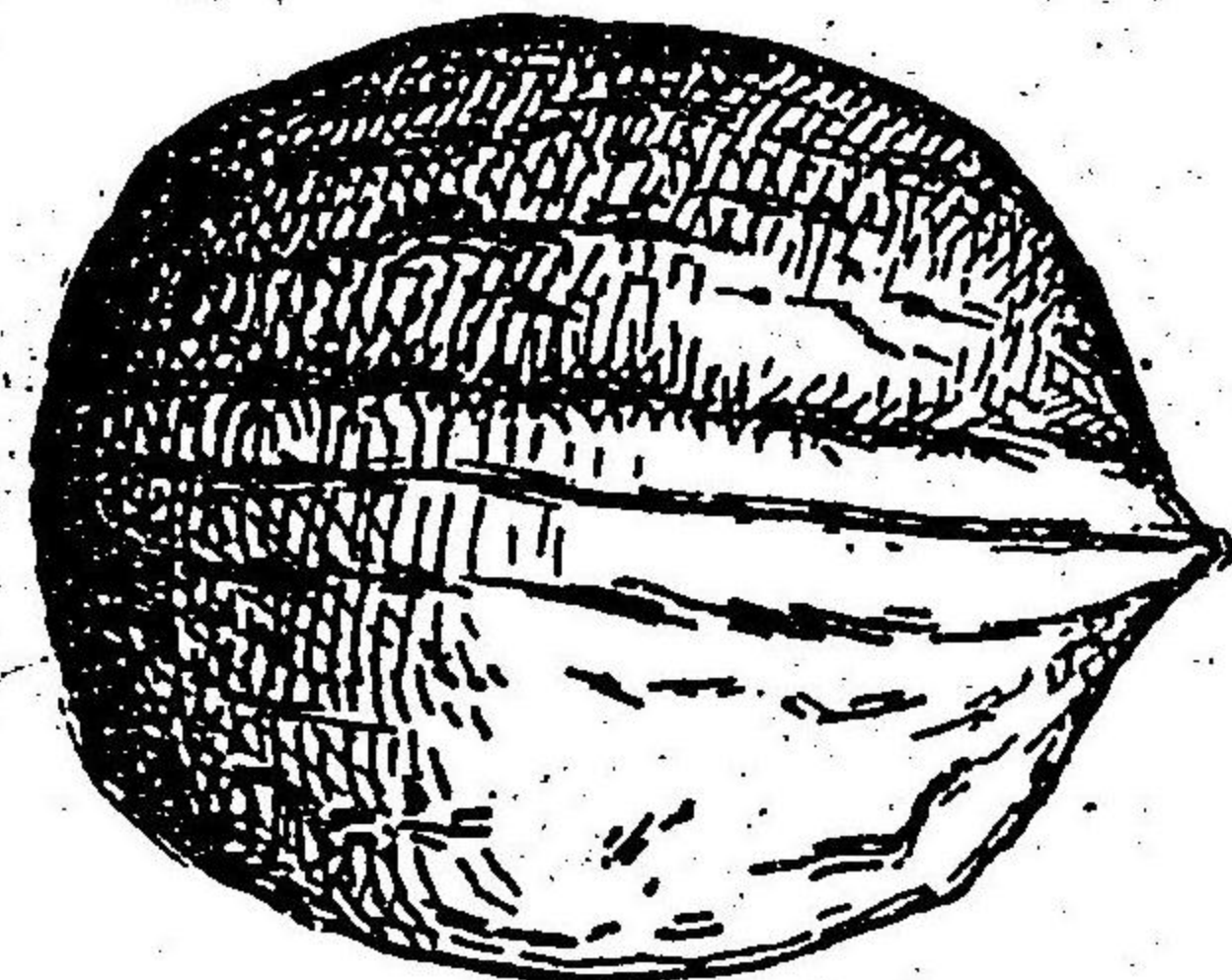
鵞卵 Gänse-Ei 7+5,



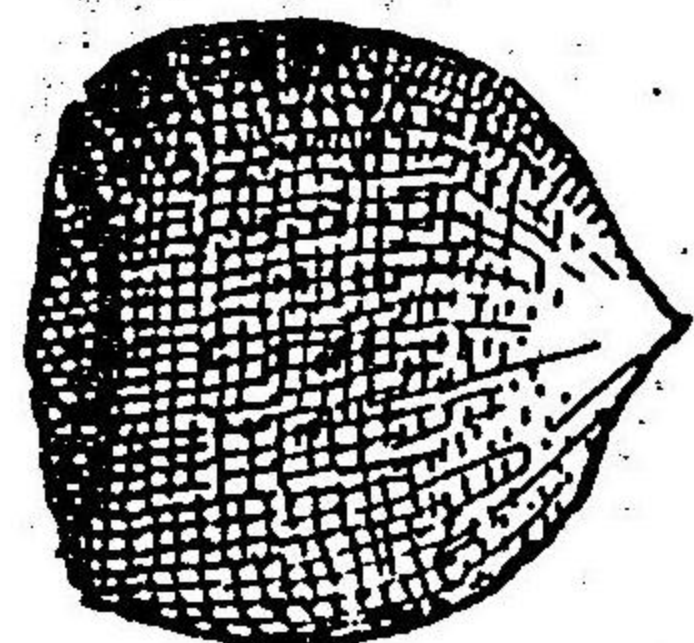
鶏卵 Hühner-Ei 6+1,



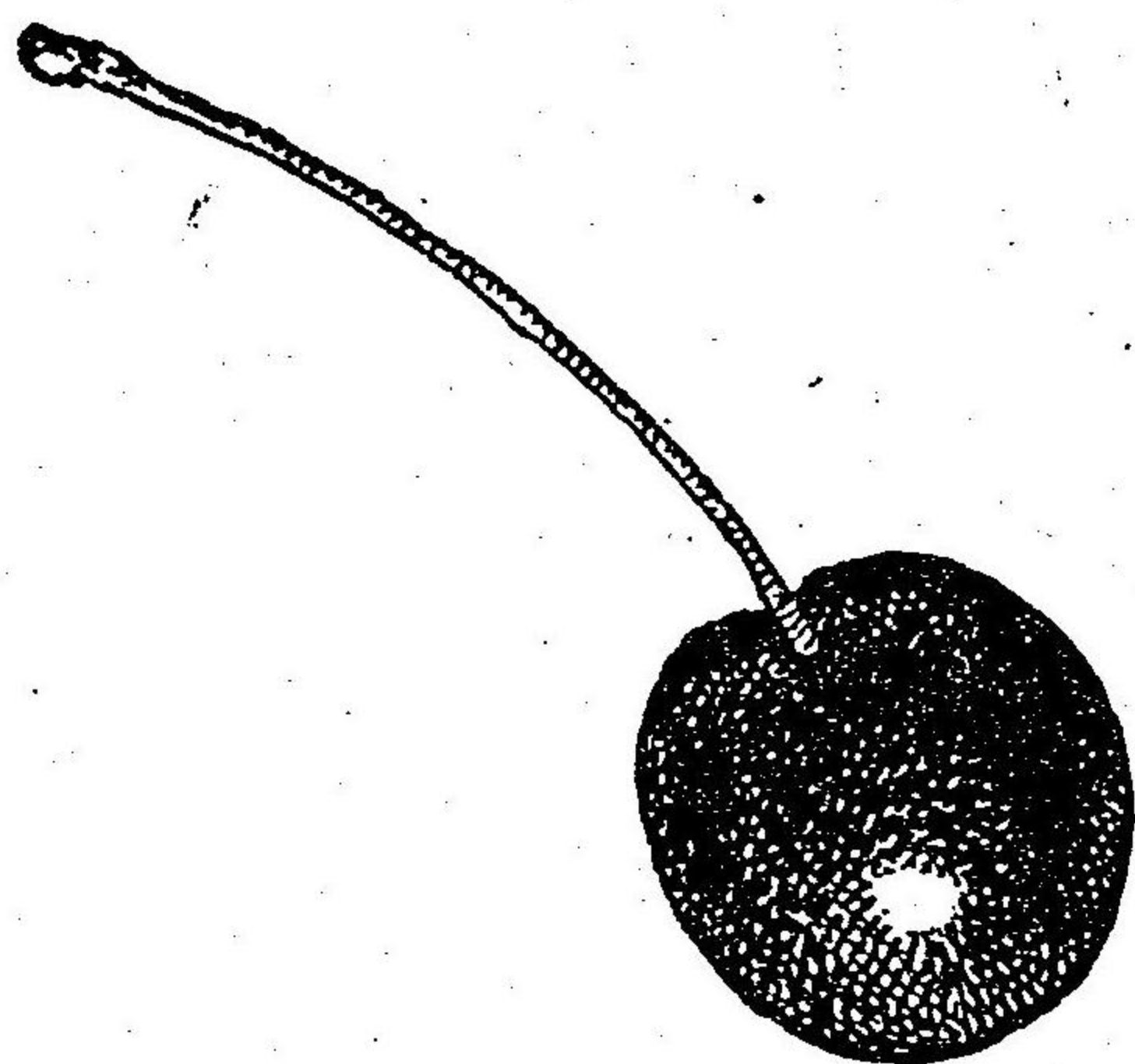
胡桃 Wrlnuss 3



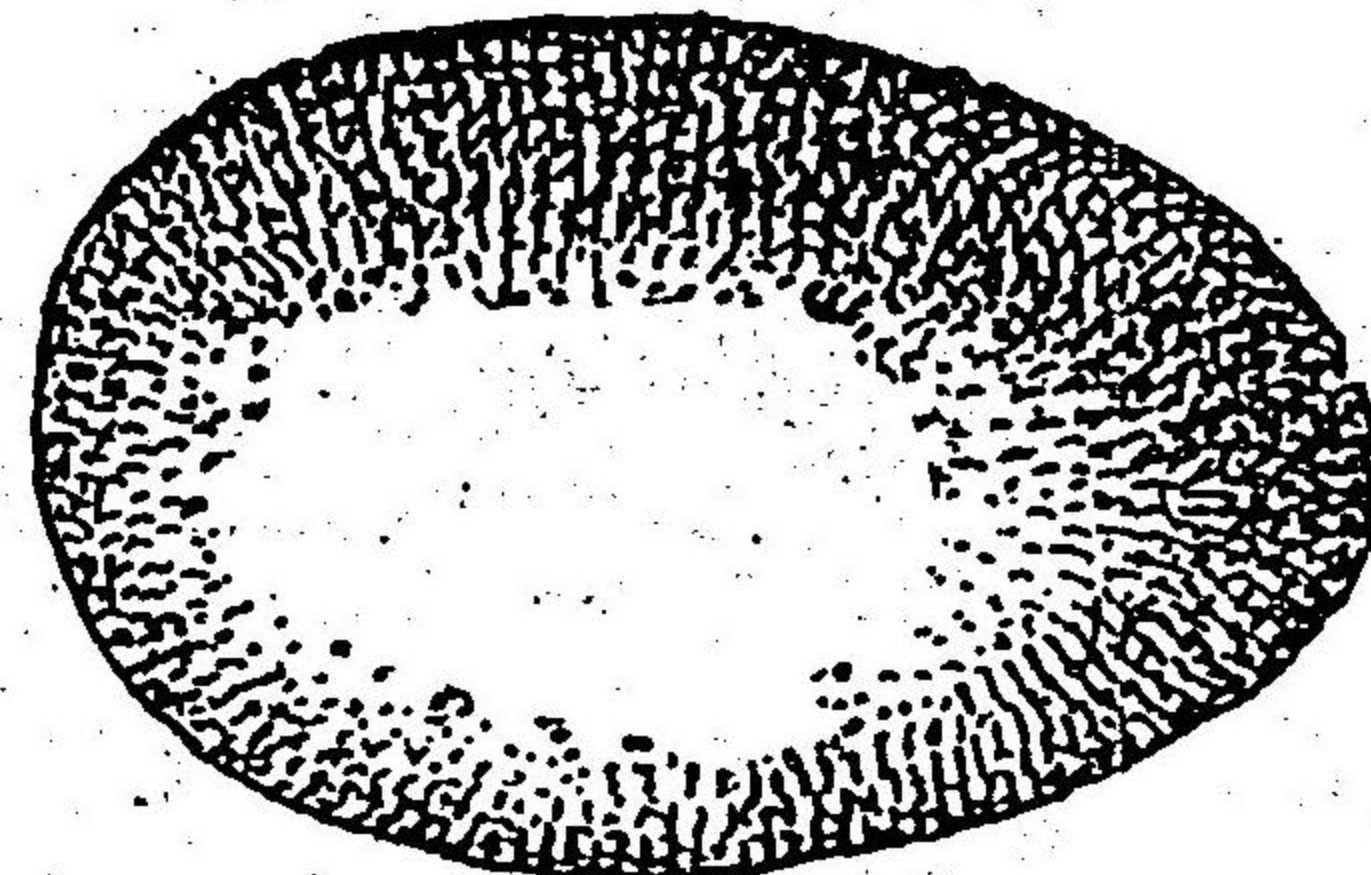
榛實 Haselnuss 2,



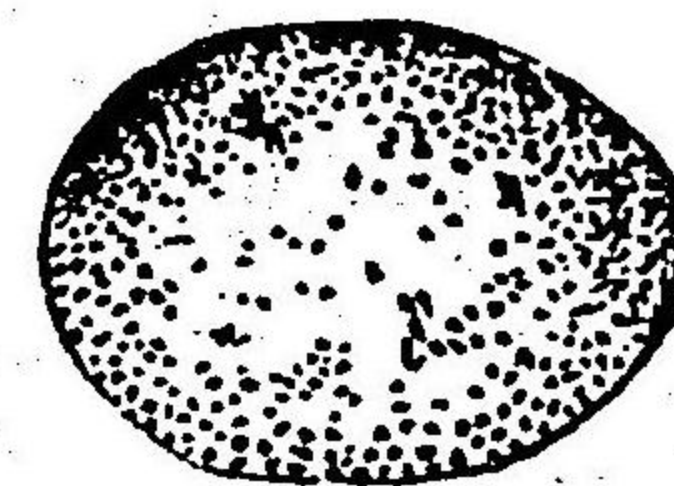
櫻實 Kirsche 2,



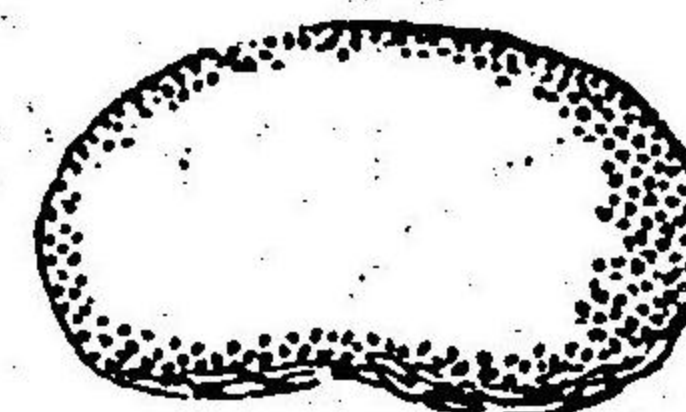
鳩卵 Tauben-Ei 4+3,



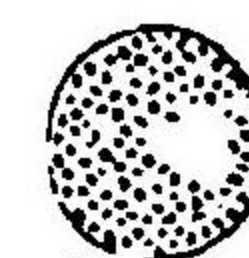
雀卵 Sper-lings-Ei 2+1,



白豆 Weisæ Bohne 2,0 + 1,0,

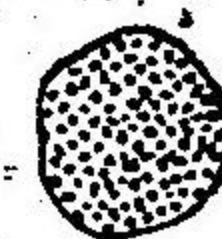


麻仁 Hanfsamen 0,5 + ,04, 豌豆 Erbse 0,7,



連斯豆 Linse 0,6,

罌 Mohnkörn 0,1,



圖ルタシ寫テニ線光Xヲ彈霞ノ中指手



藥名索引並藥品用量

表中X印ヲ附スル者ハ諸病次頁中尙ホ  
同藥處方ニアルヲ示ス○普通トアルハ  
普通一回ノ量ヲ示ス(但シ浸、煎等ハ二  
日分)○—ハ乃至ナリ

印度大麻越幾斯 一日極量〇、一 一日極量〇、三 普通〇、〇三—〇、一 一日數同	慢性氣管支加 答兒 一〇七	膀胱加答兒×一六四	月經困難 二五一	肺癆喉頭癆 六一八	百日咳 六二四
卵巢炎 四七四	イヒチヲール	筋肉痠麻質斯 五五二	產褥熱 五三九	酒 鼻 一一	丹毒×二九五
淋 疾×九二	子宮炎 四二一	痔核 三三一	尿酸性關節炎× 六三	丹毒× 一四	丹毒× 一四
淋 疾×八六	膀胱加答兒 一六四	イヒタルガン	イトロール	濕疹 二六八	慢性胃加答兒 一七七
淋 疾×八六	膀胱加答兒 一六四	副睪丸炎 二八八	子宮外膜炎 五〇三	慢性胃加答兒 一七七	慢性胃加答兒 一七七
淋 疾×八六	膀胱加答兒 一六四	副睪丸炎 二八八	子宮外膜炎 五〇三	慢性胃加答兒 一七七	慢性胃加答兒 一七七

イ

一

イドフォルム錠 三六九  
 インフルエンザ 三八〇  
 坐骨神経痛 四四五  
 三叉神経痛 四四五  
**熔製硝酸銀**  
 硝酸銀ヲ見ヨ

酒 鼻 一〇  
 面 皰 一九四  
 黄 疽 三六三  
 銅 中 毒 七〇一  
**一半クロール鐵液**  
 過クロール鐵液ヲ見ヨ

氣管枝喘息 七六  
 胃 痛 一二七  
 胃 癌 一二五  
 膀胱加答兒 一六三  
 急性喉頭炎 三八九  
 鉛毒疝痛 一九〇  
 肺 氣 腫 二七六  
 遺 尿 二八三  
 胃 潰 瘍 六五六  
 蕁 麻疹 六六〇  
 副 睪 丸 炎 二八八  
 百 日 咳 六二三  
 赤 痢 二四九  
 比斯的里 三六〇

淋 疾 九一  
 顯 癩 二九一  
 虹 彩 炎 三七七  
 子宮内膜炎 二八一  
 膽 石 症 一七一  
 慢性胃加答兒 一五六  
 急性胃加答兒 一五二  
 角 膜 炎 三八五  
 痔 核 三三二  
 角 膜 潰 瘍 六五三  
**莨菪丁幾**  
 一回極量一、〇〇  
 一日極量三、〇〇  
 月 經 困 難 二五二  
 慢性胃加答兒 一五八

ロベリア丁幾  
 一回極量一、〇〇  
 一日極量三、〇〇  
 普通十滴—十五滴  
 一日數回  
 呼吸困難 二六〇  
 氣管枝喘息 七四  
 心臟瓣膜病 六七二  
**蘆薈**  
 無 月 經 二七  
 痔 核 三三一  
 便 秘 四五七  
**礮砂** クロールアムモニ  
 ヲム  
 咽頭加答兒 一四七

格魯布性肺炎 二三〇  
 加答兒性肺炎 五二二  
 急性氣管枝炎 一〇一  
 慢性氣管枝炎 一〇七  
 急性喉頭加答兒 三〇二  
 ロイマン  
 偏 頭 痛 三三五  
 ロイマザン  
 流行性感胃 三六九  
**礮砂精**  
 アムモニア水ヲ見ヨ

**巴豆油**

一回極量〇、〇五  
一日極量〇、一五  
普通半滴—一滴  
蓖麻子油一食匙  
ニ混ス

鬼 砥 頭 二四  
便 秘 四五九

白降汞

乾 癬 五三三  
水泡性結膜炎 二一六  
傳染性膿疱疹 三六五  
癩 瘡 一四  
濕 疹 二七〇  
凍 瘡 五〇八  
鬚 瘡 五九〇

毛 虱 四三三  
頭 髮 脫 落 三三六  
角 膜 炎 三八五  
夏 日 斑 二八六  
眼 瞼 絲 炎 九六  
凍 傷 一九八

白阿膠 (セラチン)

急性貧血 二八  
咯 血 三二六  
吐 血 三二二  
壞 血 病 五六九  
薄荷腦  
實扶的里×三八  
肋 膜 炎 五一九

肺 壞 疽 三一三  
胃 痛 一二七  
妊 婦 嘔 吐 三五四  
偏 頭 痛 三三六  
濕 疹 二六六  
慢性胃加答兒 一六〇

麥角

一回極量一、〇  
一日極量五、〇  
普通〇、五  
浸劑トシテハ二  
日(五—八、〇)  
二〇〇、〇  
麥角越幾斯  
一回極量〇、二  
一日極量〇、六

普通〇、〇五—一日數回  
流 產×五  
扁桃腺炎 四四  
單純性尿崩 二四〇  
丹 毒 二九五  
淋 疾 九一  
吐 血 三二三  
血 尿×三三四  
咯 血×三六六  
陣 痛 微 弱×四一九  
子宮出血×四二一  
肺結核及喉頭  
結核 六一九  
虎 列 拉 一七六  
急性前脊髓灰 五二五  
白質炎

膀胱麻痺 八一  
子宮筋腫 四三七  
月 經 困 難 二五二  
遺 精 五二六  
ウエルホーフ 四三一  
氏病 五二五  
小兒脊髓麻痺 一七八  
小兒吐瀉 一七八  
酸化炭素中毒 七〇一  
腎 臟 炎 四四六  
蕃木龍越幾斯  
一回極量〇、〇五  
一日極量〇、一〇  
普通〇、〇一—〇、〇  
蕃木龍丁 五 一日二三回

一回極量一、〇  
一日極量二、〇  
普通三滴—十滴  
一日數回  
陰 萎 三六七  
酒客譫妄症 二四〇  
脊 髓 炎 四三五  
麻 痺 四九一  
胃 痛 一二七  
胃 擴 張 二四六  
慢性腸加答兒 一四三  
急性胃加答兒×一五二  
實扶的里 四一  
月 經 困 難 二五一  
小兒脊髓麻痺 五二五

神經性消化不良 二五八	蕃椒丁幾 鬼 氈 頭 二四 虎 列 拉 一七四	實扶的里 三九	實扶的里 三九	ヒステリー 三五九
慢性胃加答兒 一五六 妊婦嘔吐 三五三 パラアルデヒド 一回極量五、〇 一日極量一〇、〇 普通二、〇—五、〇	華兒列爾氏酸性越 列幾矢兒 子宮病 一二〇 血 斑 病 四三一	二	抱水クローラール 一回極量二、〇 一日極量六、〇 普通一、〇—二、〇	急性能管枝炎 一〇五 實扶的里 四〇 慢性腸加答兒 一四三 咽頭加答兒 一四八 ニトログリセリン 偏 頭 痛 三三七
膀胱カタル 一六五 凍 傷 一九八 龜 頭 疥 八〇 加答兒性結膜 二〇四 膿漏性結膜炎 二〇一 火 傷 一九三 耳垢堆積 九 實扶的里× 三九 眼 險 綠 炎 九六 濕 疹 二六七 濕 爛 三七五 咽頭加答兒 一四六 臍 炎 四七二 實布的里性結膜炎 二〇九	二 乳酸鐵 萎 黃 病 一六八 英吉利病 五四六	二 肉豆蔻油 鬼 氈 頭 二二三 頭髮脫落 二二六	二 抱水クローラール 一回極量二、〇 一日極量六、〇 普通一、〇—二、〇	水 硼酸
鬱 憂 狂 四二二 躁 狂 四〇九 パバヨチン 實扶的里 三九	子宮病 一二〇 血 斑 病 四三一	二	抱水クローラール 一回極量二、〇 一日極量六、〇 普通一、〇—二、〇	鬱 憂 狂 四〇九 小兒急痛 二六一 妊婦產婦急痛 二六三 躁 狂 四一三 腦 膜 炎 四一五 破 傷 風 六〇八 神 經 性 消 化 不 良 二五八 百 日 咳 六二五 比 斯 的 里 三六〇 疼 痛 性 陰 莖 勃 起 一八一 クロープ性肺 炎 二二九

膀胱カタル 一六五 凍 傷 一九八 龜 頭 疥 八〇 加答兒性結膜 二〇四 膿漏性結膜炎 二〇一 火 傷 一九三 耳垢堆積 九 實扶的里× 三九 眼 險 綠 炎 九六 濕 疹 二六七 濕 爛 三七五 咽頭加答兒 一四六 臍 炎 四七二 實布的里性結膜炎 二〇九	ポトフィルム脂 (ホドヒリン) 一回極量〇、一 一日極量〇、三 普通〇、〇—一、〇、〇 三 一日三回	鬱 憂 狂 四〇九 小兒急痛 二六一 妊婦產婦急痛 二六三 躁 狂 四一三 腦 膜 炎 四一五 破 傷 風 六〇八 神 經 性 消 化 不 良 二五八 百 日 咳 六二五 比 斯 的 里 三六〇 疼 痛 性 陰 莖 勃 起 一八一 クロープ性肺 炎 二二九
抱水クローラール 一回極量二、〇 一日極量六、〇 普通一、〇—二、〇	二 乳酸鐵 萎 黃 病 一六八 英吉利病 五四六	二 肉豆蔻油 鬼 氈 頭 二二三 頭髮脫落 二二六
火 傷 一九三 酒客譫妄症 二三八 氣管枝喘息× 七三	二 抱水クローラール 一回極量二、〇 一日極量六、〇 普通一、〇—二、〇	水 硼酸
抱水クローラール 一回極量二、〇 一日極量六、〇 普通一、〇—二、〇	二	水 硼酸

硝酸ストリキ 六八七  
 胃潰瘍 六五七  
 抱水テルピン  
 慢性氣管枝加 一〇八  
 答兒  
 硼砂 硼酸ナトリウム  
 瘡 五八〇  
 瘡× 一三  
 癩 癩 二九一  
 亞布 答 四五  
 夏 日 班 二八五  
 咽頭加答兒 一四七  
 芳香丁幾  
 風氣疝痛 一八八

ホーレル水  
 亞砒酸カリウム液ヲ見  
 忽布腺  
 普通〇、一〇、五  
 淋 疾×一八九  
 膀胱加答兒 一六三  
 疼痛性陰莖勃 一八一  
 起 遺 尿 二八四  
 腎 孟 炎 五四四  
 精 液 漏 五八二  
 菩提樹  
 風氣疝痛 一八八

ヘブラ軟膏  
 火 傷 一九三  
 濕 疹 二六八  
 鬚 瘡 五九〇  
 ペルーバルサム  
 淋 疾 九四  
 氣管枝擴張 九八  
 疥 癬 五六一  
 寄生性匍行疹 三四三  
 頭 虱 四九八  
 ペプシン  
 普通〇、一〇、五  
 慢性胃加答兒 一五七

消化不良 二五六  
 胃 癌 一二三  
 急性胃加答兒 一五一  
 ベタ、ナフトール  
 黄 癬 三〇一  
 魚 鱗 癬 三六一  
 ナフトールヲ見ヨ  
 ヘルニアル葉  
 膀胱加答兒 一六三  
 腎 孟 炎 五四四  
 ベンツオール  
 旋 毛 蟲 六一〇  
 ベトール

普通〇、三〇、五  
 一日數回  
 關節痠麻質斯 五五〇  
 急性腸加答兒 一三七  
 膀胱加答兒 一六四  
 ヘモール  
 萎 黄 病 一六九  
 吐根  
 普通浸劑トシテハ  
 (〇、五)一八〇、  
 〇散劑トシテハ  
 〇〇二一〇、〇  
 六〇一日數回  
 丁幾及酒一〇〇  
 三〇滴一日數回

流 産 五  
 肺 氣 腫 二七六  
 氣管枝喘息 七六  
 肺 臟 萎 縮 七九  
 急性氣管枝加 一〇三  
 答兒  
 慢性氣管枝加 一〇七  
 答兒  
 急性喉頭炎 三八九  
 加答兒性肺炎 五二二  
 麻 疹 四二五  
 聲門水腫 四六八  
 急性肺水腫 四六九  
 杜松實及油  
 腹 水 六八



腎臟炎 四四五  
 心囊炎 五〇二  
 虎列拉 一七六  
 吐酒石

一回極量〇、二  
 一日極量〇、六  
 普通催吐〇、〇三祛痰  
 〇、〇〇五數回  
 肺臟萎縮 七九  
 氣管枝喘息 七四  
 血管腫 四四  
 肺水腫 四七〇  
 聲門水腫 四六八  
 ドーフル散(托氏散)  
 普通〇、二—〇、五

一日數回  
 急性腸加答兒×一三五  
 急性氣管枝加  
 答兒 一〇二  
 急性喉頭炎 三九〇  
 慢性氣管支炎 一〇八  
 慢性腸加答兒 一四二  
 麻疹 四二五  
 虎列拉 一七四  
 肺結核 六二〇  
 急性胃加答兒 一三八  
 トリオナル(メチ  
 ールスルフオナル)  
 一回極量二、〇  
 一日極量四、〇〇

普通〇、五—一、〇  
 格魯布性肺炎 二二九  
 比斯的里 三六〇  
 酒客譫妄症 二三九  
 神經性消化不良 二五八  
 トルオール  
 實扶的里 三九  
 藤黃  
 一回極量〇、三  
 一日極量一、〇  
 便秘 四六〇

チオール

手

瘰癧 一五  
 チモール チミック酸  
 火傷 一九三  
 十二指腸蟲 三三三  
 黃癬 三〇一  
 重碳酸ナトリウム  
 重曹  
 普通〇、五—二、〇  
 一日數回  
 黃疽 三六三  
 急性氣管枝加  
 答兒 一〇五  
 急性胃加答兒×一五一  
 胃痛 一二七

消化不良 二五三  
 痔核 三三一  
 鴛口瘡 五八〇  
 ヒステリー 三五九  
 風氣疝痛 一八八  
 耳垢堆積 八  
 慢性胃加答兒×一五五  
 便秘 四五七  
 胃潰瘍 六五五  
 重酒石酸カリウム  
 純精酒石  
 普通一、〇—三、〇  
 腎臟炎 四四五  
 便秘 四五八

脚氣 三八二  
 痔核 三三一  
 腹水× 六七  
 聲門水腫 四六八  
 ギェキリトール  
 トラホーム 二二四  
 チキタリス葉  
 一回極量〇、二  
 一日極量一、〇  
 普通〇、〇三—〇、二  
 一日數回  
 肺水腫 四七〇  
 腹水× 六七  
 慢性氣管枝炎 一〇七

子

腎臟炎 四四四  
 心臟瓣膜病 六七〇  
 脚氣 三八三  
 心囊炎 五〇一  
 肋膜炎 五一九  
 クロロプ性肺炎 二二九  
 心臟内膜炎 二七八  
 咯血 三二七  
 加答兒性肺炎 五二三  
 チゲノール  
 丹毒 二九五  
 筋肉痠麻質 五五二  
 デウレチン

(サリチール酸ナトリウムテオプロミン)  
 普通一〇〇  
 一日數回  
 腎臟炎 四四四  
 腹水 六八  
 心臟病 六七二  
 肋膜炎 五一九  
 チラニン  
 急性氣管枝加答兒 一〇二  
 線内障 三一七  
 虹彩炎 三七八  
 角膜炎 三八七  
 肺結核 六一八

龍膽越幾斯  
 急性胃加答兒×一五一  
 慢性胃加答兒 一五九  
 流動蘇合香  
 疥癬 五五九  
 尖圭肝腫 一九六  
 硫酸銅 丹礬  
 催吐頓服時一回極量 一〇〇  
 顆粒性結膜炎×二一三  
 橫痃 三〇  
 角膜パンヌス 四八九

硫酸カリウム  
 硫酸フィゾスチグミン  
 舞蹈病 一八三  
 便秘 秘×四五八  
 蛔蟲 六六  
 慢性胃加答兒 一五六  
 硫酸ナトリウム  
 芒硝  
 便秘 秘 四五八  
 慢性胃加答兒 一五六  
 硫酸マグネシウム  
 舍利鹽  
 硫苦

普通一食匙一盞ノ水ニ加エテ用フ  
 卒中 五八  
 便秘 秘×四五六  
 膿漏性結膜炎 二〇二  
 蕁麻疹 六六〇  
 肛門輝裂 三〇四  
 黃疸 三六二  
 脚氣 三八二  
 赤痢 二四八  
 子宮炎 四二〇  
 卵巢炎 四七四  
 硫酸タルリン  
 腸望扶斯 六三六

硫基石炭酸亞鉛  
 淋疾×八七  
 硫酸鐵  
 萎黃病 一六八  
 痔核 三三一  
 硫酸アトロピン  
 一回極量〇、〇〇一  
 一日極量〇、〇〇三  
 普通〇、〇〇〇二五  
 一〇、〇〇一  
 鹽酸モルヒネ 六八七  
 中毒  
 虹彩炎×三七七  
 初生兒膿漏性結膜炎 八三  
 膿漏性結膜炎 二〇二

喘 息 七三  
 眼 瞼 痙 攣 九八  
 小 兒 急 痲 二六一  
 癩 疔 二九〇  
 蕁 麻 疹 六六〇  
 角 膜 炎 三八五  
 振 顫 麻 痺 四九二  
 水 泡 性 結 膜 炎 二一六  
 坐 骨 神 經 痛 三八二  
 肺 結 核 六一八  
 角 膜 潰 瘍 六五三  
 抱 水 格 魯 拉 兒 六九〇  
 中 毒 六九五  
 菌 中 毒 六九五  
 硫 酸 ス パ ル テ イ ン

普通〇、〇一〇、〇  
 心 臟 病 六七一  
 硫 酸 亞 鉛 皓 礬  
 催 吐 藥 ト シ テ 頓 服  
 極 量 一、〇  
 淋 疾 × 八四  
 慢 性 胃 加 答 兒 × 一五七  
 膀 胱 カ タ ル 一六四  
 顆 粒 性 結 膜 炎 二二三  
 加 答 兒 性 結 膜 炎 × 二〇四  
 咽 頭 加 答 兒 一四七  
 硫 酸 ペ レ チ エ リ ン

綠 蝨 六〇七  
 硫 酸 キ ニ ー ネ  
 間 歇 熱 × 三七三  
 肺 氣 腫 二七八  
 膿 毒 症 五四二  
 三 叉 神 經 痛 四四九  
 腸 窒 扶 斯 六三五  
 肺 結 核 六一六  
 心 囊 炎 五〇一  
 遺 精 五二六  
 產 褥 熱 五三九  
 惡 性 膿 疱 五四三  
 リ バ ニ ン  
 英 吉 利 病 五四六

聲 門 痙 攣 五八一  
 硫 酸 ズ ボ イ シ ン  
 比 斯 的 里 三六〇  
 硫 酸  
 慢 性 貧 血 二九  
 磷  
 一 回 極 量 〇、〇〇一  
 一 日 極 量 〇、〇〇三  
 普 通 〇、〇〇〇五  
 〇、〇〇〇一  
 白 血 病 三九九  
 英 吉 利 病 五四五  
 聲 門 痙 攣 五八一  
 磷 酸 カ ル チ ウ ム

磷 酸 コ デ イ ン  
 一 回 極 量 〇、一  
 一 日 極 量 〇、三  
 普 通 〇、〇二五  
 〇、〇三  
 急 性 氣 管 枝 炎 × 一〇二  
 心 臟 痙 攣 五八五  
 急 性 胃 加 答 兒 × 一五三  
 胃 擴 張 二四六  
 胃 潰 瘍 六五六  
 糖 尿 病 二四三  
 小 兒 急 痲 二四一  
 慢 性 胃 答 兒 一五八  
 磷 酸 亞 鉛

陰 萎 三六七  
 綠 石 鹼  
 カ リ 石 鹼 子 見 ヲ  
 林 檜 酸 鐵 丁 幾 及 越  
 幾 斯  
 萎 黃 病 一六八  
 肺 結 核 六二〇  
 白 血 病 三九九  
 ル  
 ル プ リ ン  
 忽 布 腺 子 見 ヲ  
 フ

オレキシシ 慢性胃加答兒 一五九	オレーフ油 膽石 症×一七二 火傷 一九二	遠志浸 攝涅瓦ヲ見ヨ	オイカリブス油 白血病 四〇〇	ヲノニス根 腹水 六八	ファイロフエン 火傷 一九三
軟性下疳 六五〇	フルトホルム 火傷 一九二 痔核 三三一	ライヒニン 百日咳 六二四	ホイホリン 腸望扶斯 六三六	オイメノール 無月經 二七	黄降汞 角膜パンヌス 四八九 眼瞼縁炎 九六 腺病性結膜炎 二一六
角膜炎 三八六	角膜翳 三四七	トラホーム 二一四	黄色收斂點眼水 加答兒性結膜炎 二〇五	黄色ヨード汞 一回極量〇、〇二 一日極量〇、〇六 普通〇、〇一〇、〇二	黴毒 五九八
ワリドール 偏頭痛 三三五	ワリドール 神經衰弱症 四五一				

力 海葱越幾斯及醋蜜 普通(越)〇、〇三 〇、二	肺臟萎縮 七九	腹水 六八	肋膜炎×五二〇	肺水腫 四七〇	心囊炎 五〇二	海 胃痛 一二七	月經困難 二五一	比斯的里 三六〇
煨製マグ子シア 普通二、〇一〇、〇 (下劑)〇、一 〇、五一日數回	慢性胃加答兒 一五六	風氣疝痛 一八八	胃潰瘍 六五六	濕爛 三七五	酸性消化不良 二五三	痔核 三三一	亞尼林中毒 六九二	銅鹽類中毒 七〇一
砒石中毒 六九七	カスカリラ越幾斯 及丁幾 慢性腸加答兒 一四五	カヤプテ油 胃痛 一六八	胃痛 一二五	凍傷 一九八	カミルレ花及油 小兒吐瀉 一七九	風氣疝痛 一八八	聲門痙攣 五八一	月經困難 二五一